

平成15年～平成24年の出来事（10年を振り返って）

〈平成15年〉

3/19 米英によるイラク侵攻作戦開始（イラク戦争の勃発）

4/1 郵政事業庁が日本郵政公社に

6/6 戦後始めて有事法制が成立

7/26 イラク特措法成立

9/15 プロ野球の阪神タイガースが18年ぶりにリーグ優勝



11/9 自由党が野党第1党の民主党に合流、新たに「民主党」となる。

第43回衆議院総選挙、投票即日開票

12/1 地上波デジタルテレビジョン放送が東京、大阪、名古屋で放送開始

〈平成16年〉

1/11 初の2038年問題によりATMの誤作動発生

1/12 山口県で日本国内79年ぶりの鳥インフルエンザが発生

1/19 自衛隊イラク派遣開始

4/7 イラク日本人人質事件発生

4/28 年金改革関連法案が与党賛成多数で可決

8/9 関西電力美浜原子力発電所（福井県）事故

8/13～29 アテネオリンピック



9/17・18 日本プロ野球選手会がプロ野球史上初のストライキを決行

11/1 日本で新紙幣発行

〈平成17年〉

3/25～9/25 愛知万博開催

4/25 JR福知山線で脱線事故により死者107名



9/14 郵政民営化法が可決・成立

11/15 天皇家の長女紀宮さまが黒田慶樹さんにご結婚

11/17 マンションなどの耐震偽装発覚

11/28 大相撲横綱の朝青龍が史上初の7連覇と年間6場所完全制覇を達成

〈平成18年〉

1/23 ライブドア事件で堀江貴文社長らが証券取引法違反容疑で逮捕

2/10～26 冬季トリノオリンピック、フィギュア荒川静香選手金メダル

3/20 第一回WBCで日本が優勝



7/14 ゼロ金利政策の解除

9/6 秋篠宮妃紀子さまが男子（悠仁「ひさひと」さま）ご出産

9/26 安倍晋三氏、第90代、57人目の内閣総理大臣に選出

〈平成19年〉

- 1/11 不二家で消費期限の偽装発覚
- 4/3 年金記録漏れが5千万件判明
- 5/28 松岡農相自殺
- 7/29 参院選で民主第一党に
- 9/12 安倍首相が退陣、後継に福田首相



〈平成20年〉

- 1/30 中国製ギョーザで中毒
- 4/1 後期高齢者医療制度がスタート
- 6/8 東京・秋葉原で無差別殺人
- 8/8～24 北京五輪で日本は金9、銀6、銅10、合計25のメダルを獲得
- 9/1 福田首相が退陣、後継に麻生首相
- 9/15 米国発金融危機が拡大
- 10/7・8 ノーベル物理学賞に南部、小林、益川氏、化学賞では下村氏が受賞



10/27 東京市場、バブル後最安値（7,162円）を記録

〈平成21年〉

1/20 オバマ米大統領就任

3/23 日本が決勝で韓国を破りWBC連覇



3/28 高速道の上限1千円がスタート

5/9 新型インフルエンザが流行

5/21 裁判員制度がスタート

6/4 足利事件でDNA鑑定に誤りが判明し、菅家さん釈放

8/30 衆院選で民主党が圧勝、鳩山内閣発足

〈平成22年〉

4/20 宮崎県で家畜伝染病「口蹄疫」の発生を確認

6/13 小惑星探査機「はやぶさ」が帰還

6～8月 観測史最高の猛暑

7/11 参院選挙で民主党が大敗、ねじれ国会に

9/7 尖閣諸島沖で中国漁船が海上保安庁の巡視船に激突

9/17 鳩山首相退陣、菅内閣発足

9/10 郵便不正事件で厚生労働省元局長に無罪判決

10/6 ノーベル化学賞に根岸栄一氏、鈴木章氏



〈平成23年〉

2/6 八百長が発覚し大相撲春場所の中止を決定

3/11 東日本大震災



3/12～15 福島第一原発で冷却不能になり原子炉建屋で爆発事故

7月～9月 東京電力と東北電力管内で電力使用制限令が出され、暑い夏に

7/17 なでしこジャパンがサッカーW杯で世界一に



7/24 テレビ放送が地デジに移行

9/2 野田内閣発足

9月 日本では台風、タイでは洪水による大規模な被害

11/27 大阪ダブル選挙で橋下大阪市長・松井大阪府知事誕生

〈平成 24 年〉

2/29 高さ634mを誇り、自立式鉄塔としては世界一となる東京スカイツリーが日本で竣工。

5/20 北太平洋上を中心に、中国、日本、アメリカなどで金環日食を観測

7月 九州北部豪雨。

7/27～8/12 ロンドンにて第30回夏季オリンピック開催。



10/8 山中伸弥医学博士のノーベル生理学・医学賞受賞決定。



12/2 笹子トンネル天井板落下事故

12/12 北朝鮮が人工衛星弾道ミサイルを発射

12/16 衆議院議員総選挙自民党が与党に返り咲き。

12/26 自民党の総裁・安倍晋三が内閣総理大臣に就任

歴代役員名簿

| 年度別 | 会長 | 副会長 | 監事 | 常任理事 | 地区理事 | 地区委員 |
|---------------|-------|------------------------|----------------|---|--|--|
| 平成 15,16年度 | 星野 保郎 | 中村 覲郎 松尾 政明 森 正三 | 鈴木 利夫 黒田 順平 | 中里 明 岩井 計成 山縣 徳治 小川 正 川上 直志 並木 荘一 松山 繁 長永 徳秀 | 相澤 幹也 西村 章三 町田 充 増田 淑雅 服部 昭 益井 謙 一瀬 弘之 | 熊田 賢一 大隅 康之 佐藤 法行 星野 洋満 金子 彰 花岡 宏行 沢本 光正 中島 敏博 古川 裕正 西村 昭二 真貝 勝 松永喜一郎 |
| 平成 17,18年度 | 松山 繁 | 黒田 順平 中里 明 | 鈴木 利夫 引屋敷聖晴 | 山縣 徳治 久保田利夫 川上 直志 並木 荘一 武田 宣明 益井 謙 | 相澤 幹也 大隅 康之 町田 充 花岡 宏行 辻 秀憲 佐藤 繁 松永喜一郎 | 谷川 道一 横山 高広 佐藤 法行 星野 洋満 金子 彰 月田 邦彦 沢本 光正 中島 敏博 古川 裕正 西村 昭二 真貝 勝 赤澤 武 |
| 平成 19,20年度 | 益井 謙 | 黒田 順平 中里 明 山縣 徳治 | 松山 繁 鈴木 利夫 | 辻 秀憲 磯田 康範 久保田利夫 浅妻 厚 前川 栄寿 石田 智広 新美 孝永 清水 文孝 戸口 豊宏 | 川井 明彦 大隅 康之 林 智 花岡 宏行 井澤 秀恭 佐藤 繁 赤澤 武 | 相澤 幹也 横山 高広 佐藤 法行 星野 洋満 金子 彰 月田 邦彦 福吉 正利 森上 安一 勝間 明 西田 史生 真貝 勝 三谷 孝二 |

| 年度別 | 会長 | 副会長 | 監事 | 常任理事 | 地区理事 | 地区委員 |
|----------------|-------|------------------------|---------------|--|--|---|
| 平成 21,22 年度 | 益井 謙 | 清水 文孝 久保田利夫 | 鈴木 利夫 中里 明 | 辻 秀憲 磯田 康範 浅妻 厚 前川 栄寿 石田 智広 新美 孝永 戸口 豊宏 | 川井 明彦 新田 仁 林 智 山口 忠夫 中島 敏博 西田 史生 三谷 孝二 | 川井 明彦 横山 高広 星野 洋満 新井 一正 日置 竹志 満間 啓二 内橋 宣尚 浅妻 厚 梶谷 努 吉見 公作 |
| 平成 23,24 年度 | 清水 文孝 | 久保田利夫 石田 智広 辻 秀憲 | 中里 明 山縣 徳治 | 浅妻 厚 戸口 豊宏 前川 栄寿 山本 晃司 安彦 茂 竹安 直行 荒井 一正 牧内 正史 | 大沼 孝司 新田 仁 尾形 智幸 山口 忠夫 高津 安男 西田 史生 吉見 公作 | 川井 明彦 星野 洋満 若月 栄介 山下 光弘 満間 啓二 福田 勤也 谷口 憲二 梶谷 努 安部 一成 嶋田三賀佐 |

被表彰者名簿

平成16年

| | | | | | |
|--------|-----------|-----|-------|---------|-----|
| 荒川 洋 | 水戸赤十字病院 | 功労賞 | 田村 悟郎 | 長岡赤十字病院 | 功労賞 |
| 長谷川 隆雄 | 松山赤十字病院 | 功労賞 | | | |
| 小林 篤 | 山田赤十字病院 | 奨励賞 | 施設 | 長浜赤十字病院 | 奨励賞 |
| 口井 信孝 | 和歌山医療センター | 感謝状 | | | |

平成17年

| | | | | | |
|-------|------------|-----|-------|---------|-----|
| 増田 淑雅 | 名古屋赤十字病院 | 功労賞 | 服部 昭 | 長浜赤十字病院 | 功労賞 |
| 中村 裕貴 | 成田赤十字病院 | 功労賞 | 山本 祐司 | 大津赤十字病院 | 功労賞 |
| 石井 出一 | 石巻赤十字病院 | 功労賞 | 大関 魁造 | 長岡赤十字病院 | 功労賞 |
| 藤原 伸行 | 大分赤十字病院 | 功労賞 | | | |
| 有賀 英司 | 名古屋第二赤十字病院 | 奨励賞 | 西村 英明 | 福井赤十字病院 | 奨励賞 |
| 施設 | 福井赤十字病院 | 奨励賞 | | | |

平成18年

| | | | | | |
|-------|-------------|-----|-------|------------|-----|
| 星野 保郎 | 足利赤十字病院 | 功労賞 | 松尾 政明 | 武蔵野赤十字病院 | 功労賞 |
| 森 正三 | 古河(猿島)赤十字病院 | 功労賞 | 中村 覲朗 | 名古屋第二赤十字病院 | 功労賞 |
| 濱本 隆明 | 鳥取赤十字病院 | 功労賞 | 西村 昭二 | 鳥取赤十字病院 | 功労賞 |
| 谷山 義信 | 福岡赤十字病院 | 功労賞 | | | |
| 高津 安男 | 大阪赤十字病院 | 奨励賞 | 施設 | 深谷赤十字病院 | 奨励賞 |
| 川村 佳生 | 和歌山医療センター | 感謝状 | | | |

平成19年

| | | | | | |
|-------|--------------|-----|--------|--------------|-----|
| 花田 和夫 | 仙台赤十字病院 | 功労賞 | 小田切 楠夫 | 日本赤十字社医療センター | 功労賞 |
| 神村 良雄 | 成田赤十字病院 | 功労賞 | 玉田 一 | 成田赤十字病院 | 功労賞 |
| 多賀 昭雄 | 岐阜赤十字病院 | 功労賞 | 永田 三千男 | 大阪赤十字病院 | 功労賞 |
| 岩見 守人 | 姫路赤十字病院 | 奨励賞 | 施設 | 松江赤十字病院 | 奨励賞 |
| 施設 | 横浜市立みなと赤十字病院 | 奨励賞 | | | |

平成 20 年

| | | | | | |
|-------|------------|-----|-------|-----------|-----|
| 高橋 和弘 | 小清水赤十字病院 | 功労賞 | 花岡 宏行 | 諏訪赤十字病院 | 功労賞 |
| 池田 英二 | 伊達赤十字病院 | 功労賞 | 駿田 耕一 | 京都第二赤十字病院 | 功労賞 |
| 草田 行雄 | 名古屋第一赤十字病院 | 功労賞 | 林 正彦 | 松山赤十字病院 | 功労賞 |
| 中沢 正司 | 飯山赤十字病院 | 功労賞 | 一瀬 弘之 | 広島原爆病院 | 功労賞 |
| 施設 | 山田赤十字病院 | 奨励賞 | | | |
| 川村 佳生 | 和歌山医療センター | 感謝状 | | | |

平成 21 年

| | | | | | |
|-------|-----------|-----|-------|-----------|-----|
| 関根 和正 | 深谷赤十字病院 | 功労賞 | 村田 稔 | 京都第二赤十字病院 | 功労賞 |
| 片岡 幸子 | 高知赤十字病院 | 功労賞 | 富田 啓二 | 福井赤十字病院 | 功労賞 |
| 室谷 正吾 | 富山赤十字病院 | 功労賞 | 道下 博行 | 益田赤十字病院 | 功労賞 |
| 西村 章三 | 石巻赤十字病院 | 功労賞 | 星野 憲司 | 釧路赤十字病院 | 功労賞 |
| 村山 正栄 | 長岡赤十字病院 | 功労賞 | 小田 秀人 | 函館赤十字病院 | 功労賞 |
| | | | 名倉 邦彦 | 引佐赤十字病院 | 功労賞 |
| 施設 | 松山赤十字病院 | 奨励賞 | 加賀 久喜 | 大阪赤十字病院 | 奨励賞 |
| 川村 佳生 | 和歌山医療センター | 感謝状 | 西関 剛 | 長浜赤十字病院 | 奨励賞 |
| | | | 岡本 繁 | 京都第二赤十字病院 | 奨励賞 |

平成 22 年

| | | | | | |
|--------|--------------|-----|-------|------------|-----|
| 小林 孝明 | 釧路赤十字病院 | 功労賞 | 木村 幸一 | 浜松赤十字病院 | 功労賞 |
| 市ノ渡 憲市 | 盛岡赤十字病院 | 功労賞 | 渡辺 和美 | 広島赤十字・原爆病院 | 功労賞 |
| 宮本 岩保 | 盛岡赤十字病院 | 功労賞 | 古川 和仁 | 和歌山医療センター | 功労賞 |
| 富原 弘之 | 福島赤十字病院 | 功労賞 | 中澤 直心 | 福岡赤十字病院 | 功労賞 |
| 桜井 守 | 小川赤十字病院 | 功労賞 | 木下 洋之 | 福岡赤十字病院 | 功労賞 |
| 友井 忠雄 | 横浜市立みなと赤十字病院 | 功労賞 | 山口 春雄 | 長崎原爆病院 | 功労賞 |
| 日尾 哲朗 | 金沢赤十字病院 | 功労賞 | 高橋 朗 | 長崎原爆病院 | 功労賞 |
| 金子 彰 | 高山赤十字病院 | 功労賞 | 松山 秀夫 | 浜松赤十字病院 | 功労賞 |
| 足澤 登 | 日本赤十字社医療センター | 功労賞 | | | |
| 施設 | 前橋赤十字病院 | 奨励賞 | 斎藤 幸夫 | 深谷赤十字病院 | 奨励賞 |

平成 23 年

| | | | | | |
|-------|--------------|-----|-------|----------|-----|
| 西田 俊昭 | 北見赤十字病院 | 功労賞 | 松山 繁 | 津久井赤十字病院 | 功労賞 |
| 松本 幸夫 | 盛岡赤十字病院 | 功労賞 | 藤井 紀生 | 山田赤十字病院 | 功労賞 |
| 路野 俊雄 | 成田赤十字病院 | 功労賞 | 尾上 章 | 大阪赤十字病院 | 功労賞 |
| 岡庭 繁樹 | 前橋赤十字病院 | 功労賞 | 宮本 善夫 | 大阪赤十字病院 | 功労賞 |
| 黒田 順平 | さいたま赤十字病院 | 功労賞 | 西谷 泰男 | 高松赤十字病院 | 功労賞 |
| 少路 進 | 武蔵野赤十字病院 | 功労賞 | 笠原 秀憲 | 松江赤十字病院 | 功労賞 |
| 鈴木 利男 | 日本赤十字社医療センター | 功労賞 | 古賀 則夫 | 福岡赤十字病院 | 功労賞 |
| 川上 直志 | 横浜市立みなと赤十字病院 | 功労賞 | 古賀 博幸 | 福岡赤十字病院 | 功労賞 |
| 堀内 順一 | 秦野赤十字病院 | 功労賞 | 玉永 正博 | 熊本赤十字病院 | 功労賞 |
| 東 茂 | 伊豆赤十字病院 | 功労賞 | | | |
| 施設 | 成田赤十字病院 | 奨励賞 | 大町 繁美 | 長崎原爆諫早病院 | 奨励賞 |

平成 24 年

| | | | | | |
|--------|------------|-----|--------|---------|-----|
| 引屋敷 聖晴 | 武蔵野赤十字病院 | 功労賞 | 重松 味津雄 | 松山赤十字病院 | 功労賞 |
| 金子 弘孝 | 長岡赤十字病院 | 功労賞 | 宇野 二三代 | 成田赤十字病院 | 功労賞 |
| 大橋 正男 | 長岡赤十字病院 | 功労賞 | 田原 徳建 | 高知赤十字病院 | 功労賞 |
| 赤澤 武 | 熊本健康管理センター | 功労賞 | 滝 健次 | 徳島赤十字病院 | 功労賞 |
| 柳澤 信男 | 長野赤十字病院 | 功労賞 | 川島 剛 | 長浜赤十字病院 | 功労賞 |
| 益井 謙 | 松江赤十字病院 | 功労賞 | 福島 良 | 小川赤十字病院 | 功労賞 |

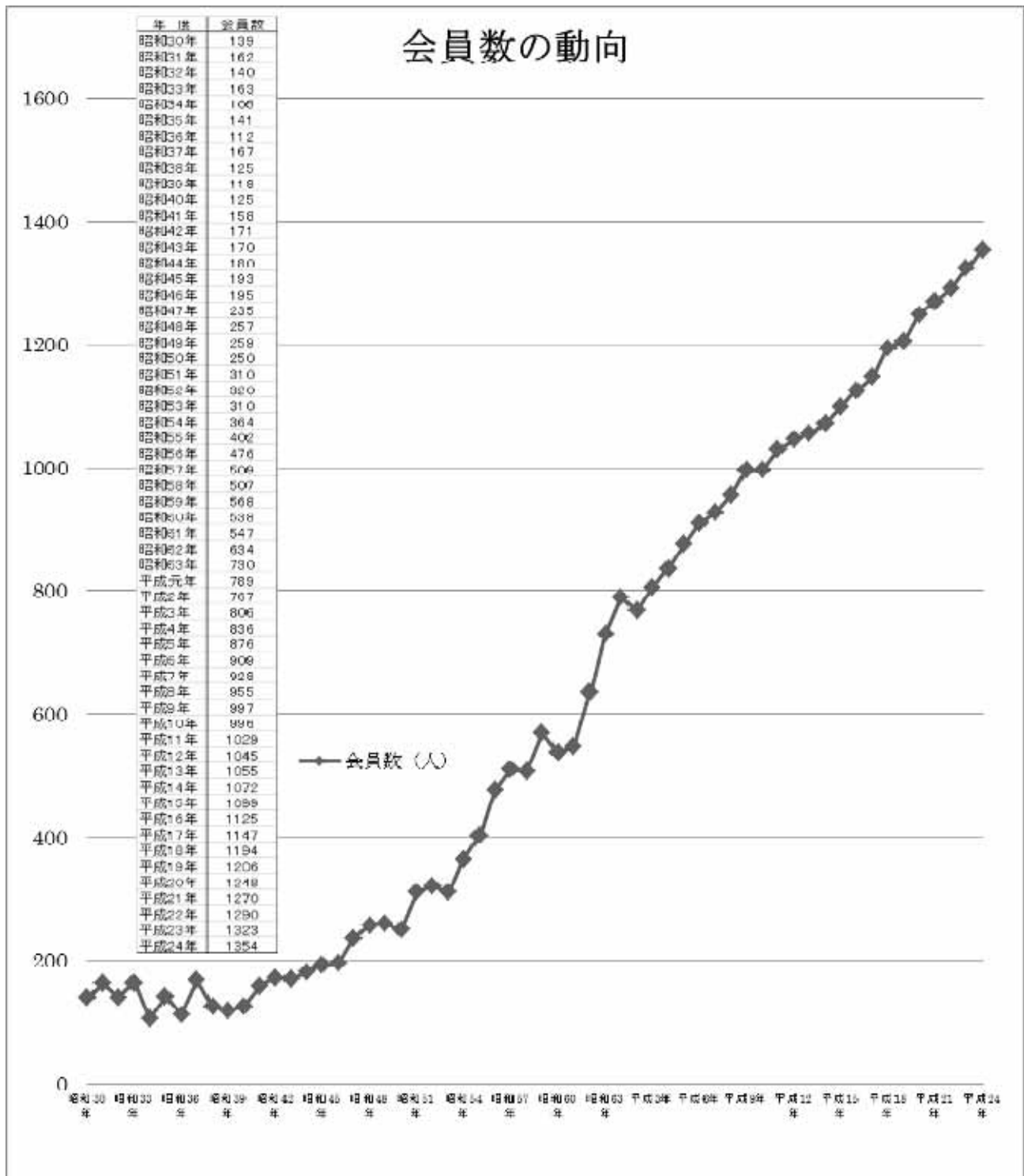
東日本大震災時日本赤十字放射線技師会に支援をしてくれた企業に対して

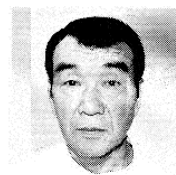
| | | | |
|------------------|-----|-----------------|-----|
| コニカミノルタヘルスケア株式会社 | 感謝状 | 株式会社ナナオ | 感謝状 |
| 株式会社日立メディコ | 感謝状 | 富士フイルムメディカル株式会社 | 感謝状 |
| 株式会社 保科製作所 | 感謝状 | | |

名誉会員

| | | | | | |
|------|---------|------|-------|-------------|------|
| 益井 謙 | 松江赤十字病院 | 名誉会員 | 鈴木 利男 | 日本赤十字医療センター | 名誉会員 |
|------|---------|------|-------|-------------|------|

会員数の動向



10年間の巻頭言 平成16年度—巻頭言—**「高齢化社会を迎える病院」**日本赤十字放射線技師会
会長 星野保郎

世の中はIT化の波が押し寄せている。いまさら言うまでも無いが我々が勤務する医療施設も例外ではない。しかし、これから迎える超高齢化社会、ITの波に飲まれて高齢者は身動きできなくなってしまうのではないかと危惧してしまう。

待合室に絵画をかざり、やわらかい照明とともに静かなBGMを流し、エスカレーターに乗って2階の診療待合室へ、これらの空間はホテルのロビーと間違ふほど立派な病院が増えている。

慣れてしまえば清潔で機能的で受信しやすい病院かもしれないが、これから迎える超高齢化社会に生きる人たちが受診しようとしたとき、IT化された病院が高齢者たちに本当にやさしい病院なのだろうか？

患者様が来院すると最初の関門が自動受付機（タッチセンサーなどに慣れていないため）、診察券を入れ受診科を押し確認を押す。第二の関門が受け付け終了後、小さい紙に受付番号がプリントされ診察券とともに返却される（紙が小さいため紛失しやすい、文字が小さく読みにくい）。

第3の関門が受診科の前でモニターに映し出される番号をじっと待つ（同じような英語や数字が出て解らなくなってしまう、患者様がなかなか入ってこないで看護師が待合室に出て診察室に呼び入れる）、やっと医師や看護師と話が出来る。この間1~2時間高齢者の不安は幾許のものだったか。診察が終わって「ほ！」とする間もなく、次回の診察の予約・会計・院外処方、次から次へとITの関門が待ち受けている。

多くの病院が総合案内等、初めて来院する患者様に不安不便のない様配慮しているが、混雑する時

間帯に本当に患者サービスが出来る人員を配置しているか疑問が残る。

病院の機能を追求するあまり、来院する患者様の年齢を考えずに進めるIT化が、これから迎える高齢化社会に逆行しているように思えてならない。勿論、患者様から見えない部分のIT化は効率性、正確性等を考慮すれば積極的に導入すべきと思う。

10年前の病院は診察券を受付に提示し、受付の人が患者様に直に対応し「1階の〇〇科の前で待っていてください。2階の××科の前で待っていてください。今日は少し混んでいますから診察までに何十分くらいかかりますよ」と、日常的に人と人の会話があり、その中には人のぬくもりが感じられた。今はあまりに無機質で人間が癒しを求めてくる施設とかけ離れつつあるように思える。

私たち放射線技師の世界もデジタル化の波が怒涛のように流れ込んできている。しかし、私たちは患者様を相手にする職業であり、患者様へのサービスの一環として如何に正確で多くの情報を提供できるか、そのためにコンピューターが取り入れられていることを忘れてはならない。これからの時代患者様に話しかけ、手を添え、更衣を手伝い、時には患者様の愚痴を聞いて相談相手になる等、人間味豊かな放射線技師になることを心がけなければならない。

自分が80才、90才になって受診した時、放射線技師にどんなことをしてもらえば嬉しいかを常に考えて行動すれば、自ずと患者様から信頼される放射線技師になると思う。

被 写 界 深 度

長野赤十字上山田病院

会 長 松 山 繁



2005 年は元旦から全国で偽札騒ぎが起き、不安な幕開けの始まりでした。振り込め詐欺、ライブドア騒動、脱線事故、台風、誘拐、設計偽装等々と続き毎日、新聞・TV 等の報道があり不安定要素がたくさんありました。明るくうれしい話題としては、愛知万博の開催、黒田氏と清子様の結婚や、ヤンキース松井氏の 62 億円契約のニュース等もあり、目の離せない状態でした。

写真用語の中に被写界深度という用語があります。絞りの効果的な使用により手前だけにピントを合わせ、後ろをぼかす、真ん中にピントを合わせ、前後をぼかす方法です。全てにピントを合わせるには、絞りを最大限に絞れば可能となりますが、そこに相反則不軌の法則がはたらいて思い通りにはいかないものです。絞りの使い方により奥行きのある作品、フラットな作品等個性的な作品ができ上がります。

この被写界深度と同じように我々の業務内容も多岐にわたってきております。また、他職種と重複する部分も今後まだ出てきそうな雰囲気もあり、ある部分のみをとらえ業務を行っていく事の難しさがあるのではないのでしょうか。

病診連携のように、医療の品質を向上させる仕組みで大規模病院と小規模病院でかかりつけ医機能を持つ診療所が密接に連携することの大切さ。EBM（根拠に基づいた医療）統計学的疫学をその信頼度に応じて分類し、より客観的判断をしようとするものやインフォームドコンセント、クリティカルパス、CS、MRM 等直接の業務ではなくても間接的に関わっていかねばならない部分の大幅な増加や、又現在、特定機能病院を中心で実施されている DPC（診断群分類別包括評価）等が実施された場合、少なからず影響が出てくる中で、今後前後左右どの方向にも気を配り、チーム医療の一員として自覚していかねばならない。政府が推奨している、クールビズ、ウォームビズも時期を見据えて行動参加の一部と思われる。

全国組織の技師会として今後の動向に常に関心をもち、会員 1 名 1 名が、有意義に参加のできる技師会となるよう努力に努め、足元をしっかりと見据えて行動していくように心がけていかねばならないと考えております。今後とも会員の皆様方のご協力をよろしくお願いいたします。

「地産地消」

長野赤十字上山田病院

会長 松山 繁



平成 18 年度の幕開けも医療界にとって又大変な年となりました。「後期高齢者医療制度の創設」「公的医療保険の給付範囲の見直し」「診療報酬制度に連動した医療費適正化計画の策定」「公的医療機関と同等の機能を持つことができる社会医療法人の創設」となり今後の見通しの悪さが感じられます。全体 3.16%ダウンの医療点数の改訂となり細部にわたり揚々な改革が行われてきております。具体的には、CT の多列化による改訂や、MRI 磁場強度により点数に差が出るような改訂があり、今後の見通しが立たない施設も出てきているのが現状と思います。今後生き残りをかけていくためには、新しい発想と工夫が必要になるものかと思えます。

明るい話題としては紀子様にも男児が誕生し、経済効果は 1 兆円にもなるロイヤルプリンス効果が上げられます。悠仁様のご神木は、長野県の本曾 5 木の中の一つで、直径 1m で 30m 程まっすぐに育ち加工に際しても狂いが無く非常に利用価値が高く珍重されております。医療界もこのようにまっすぐのびてほしいと思います。

地産地消

地産地消という言葉は使用されて久しいが、各地域でも地場産業を大切にし、地元のは地元での特色を強く打ち出してきております。

特に最近では、街のコンビニも全国統一した味ではなく、地方の味を取り入れて特色を出している現状があります。

医療界も同じではないでしょうか。各地域場所

により医療の性質が異なるのではないのでしょうか。

イミダスによる解釈では

①輸送コストの低減②鮮度の維持③生産者と消費者との信頼関係の構築④農業の担い手の育成⑤地域経済への貢献等が上げられます。

医療の現場にたとえると、①移動手段に頼らなくても通院できる近くの病院②疾病の早期発見、早期治療③地元根付いた医師、医療従事者と患者様との信頼関係での成り立ちで安心医療④魅力的な医療施設による医師、医療従事者の確保⑤予防医学を充実する事で、健康で疾病が少なく地域に貢献できる。等とおきかえられるのではないのでしょうか。安心 安全 信頼に足る医療を構築するための努力は地元生産 地元消費 地元でつくられたものを地元で消費する事が、常に必要で消費者からみると、新鮮・安心・それに安価であると思われれます。

DPC も大切です。ただ何時、かけられたはしごがはずされてしまうかわかりません。その中で地元で医療をうける患者様を大切にし、地域に根付いた安心安全な医療機関として生き残っていかなければならないと感じる事が多々あると思われれます。

今後の情勢を見ていき適切な判断力を身につけ無ければと思います。

建築業界での地産地消では、地元での談合に用いられ悪い意味で使用されてしまい大変残念に思います。



日本赤十字放射線技師会
会長 益井 謙

知行合一

――我々の「もっとクロス！計画」――

時は幕末。元治元年（1864年）8月頃の事。幕末史を飾る英雄3人が残した有名なエピソード。勝海舟（当時41歳）に紹介され、京都の薩摩藩邸に西郷隆盛（当時37歳）を坂本龍馬（当時29歳）が尋ねる。神戸の海舟の元に戻った龍馬は、西郷を評して「---なるほど西郷というやつは、わからぬやつだ。少しくたたけば少しく響き、大きくたたけば大きく響く。もし、ばかなら大ばかで、利口なら大きな利口だろう---」（氷川清話）と報告。海舟は、「評する人も評する人、評される人も評される人。」と感嘆した。

英雄天才は往々にして間が抜けて見えるもの。当時の英傑漢をたくさん知る龍馬にして、大西郷が大ばかに見えた卓見は凄みがあるし、打てば響く西郷の鐘（器）の計り知れぬ大きさを、30歳に届かぬ青年が定量化した洞察力に感心する。そして、龍馬が、西郷をどのくらいで撞けば、高らかに鳴るかを見切った（おそらく一瞬で）迫力がつたわってくる。そして1年半後、この青春真っ盛りの、幕臣と重臣と脱藩志士たちが築いた溶鉱炉から、薩長連合の熱き銑鉄が流れ出る。

しかし、大西郷とはいかないまでも、ひとは誰も打ち手と撞木によって、大きく打てば大きく響く可能性と容量を天性として持っている。また、

小さく打っても大きく響く素地と組成を持っているものもいる、鳴らない鐘はないし、打たなければ鳴らない。



平成19年8月。日本赤十字放射線技師会は、今回、メーリングリスト（ML）の埃を払い、ホームページを（HP）を繕い直して、学術分科会（CT、MR、乳房画像）を立ち上げた。会員全員で編纂する JRCART-PEDIA（日赤放技ニュース20年第一号巻頭言参照）、「賢者の石垣」造りの端緒である。その石垣の上に、鐘楼を建て、各会員がそれぞれ鐘を鳴らす。技量の鐘、学術の鐘、（世話人からの）叱咤の撞である。そして、会員同士の共鳴により、自己の響きと他施設の音色を

聞き分ける。自分なりの撞木と、鐘の資質を相互で確認する音の狼煙（のろし）である。龍馬は西郷鐘をたたく撞木の小ささを自分に例えて謙遜したが、実に、薩長連合の大鐘鳴を天下に響かせる大撞木であった。当時、回天の最善策と誰もが知っていて、誰もが遺らなかった事を、その大撞木で撞き、全国に響かせた。薩長連合、大政奉還、船中八策（五箇条のご誓文の原風景）、みんな龍馬独りでやってのけた（と海舟は懐かしさを込めて言っている）。しかし、我々凡人は、心ひとつにして撞木繩をあつかい、大鐘を撞かなくては、全国にその生き活きとした音色を響かせられない。大同団結、心ひとつにする工夫が必要である。

芸術家や勝負師などその道のプロフェッショナルは、日毎その芸域と創造性を磨く為に命を削り、知的背水の陣を張り、自らを警鐘の場に曝す。限られた用具を使って、縛られたルールを遵守しながら。音楽家はたった5本の平行した線上・線間に音符を織り込み、無限のメロディーを創造する。演奏家は数本のピストン、絃を駆使して、無尽の音を創造する。画家は3原色を用いて、無量の色彩をキャンバスに埋め尽くす。歌人は、限られた字数の中にその想念を絞り込んでゆく。力士はわずか15尺の土俵の中で、渾身でぶつかり白星を競う。ゴルフのクラブはきっかり14本で、広大な芝野の句読点のような穴をこじ開ける。チェスは64マス、将棋は81マス、碁盤は361マス、この閉塞次元で、無限で熾烈な工夫合戦を繰り広げる。

日本赤十字放射線技師会は、93施設、1200余名の会員を持ち、55年の歴史を重ねている。各施設、各会員と心ひとつにする我々の「もっとクロス！計画」を模索し工夫してきた。診療放射線技師のレゾナートル（存在意義）とパラダイム（時代の枠組み）の認識と、時代の淘汰性への工夫を計る為に。

知恵を得、知識を溜め込み、実践し、世の為に具現化することを「知行合一」と言う。行わなければ知った事にはならないのである。知識の石垣

を築いても、鐘楼の鐘を鳴らし、その響きを伝える、全国ネットの社会的活動が必要である。赤十字の使命と病者への義務と責任を果たすために。

学術分科会はその為のタスク・フォース（機動部隊）。ヒューマンネットワークをホットラインで結びつけ、普段着の付き合いを全国展開して行く。その為には限られた施設力、法的規制など限られたルールの中で、縛られた時代性の下で、創意工夫を凝らし、知恵のグローバリゼーション（集合智）を図って、知恵をスイング・バイする。現在、各施設の技師長・課長の主導管轄で教育と科部運営がなされ、ブロック単位での地域の連携の輪を広められている。が、さらに技師会が主管する学術分科会やML、HPで、全会員をメディアート（仲介）し、時代の排他性にあらがい、適者生存の道を模索していく。本社のアクションプランである「もっとクロス！計画」とズレもブレもしていない。

270年間も続いた江戸時代。しかし、その閉鎖性、秘匿性、爛熟性により制度疲労を起こし、10余年で瓦解した。が伝統的教育文化は連綿として残った。数百年に亘って、藩校で武士の面目と誇りを指南したばかりか、村や郷では、郷校を設けて薫育した。寺子屋には幼子が集まり訓練を施され、それぞれの立場で読書階級を育て、教育育成文化を花咲かせた。その一大文化が幕末に、欧米列強の魔手からの防波堤になり、植民地化の浪を消波する布石となりえた。救国の礎となった。

学術分科会のジャンルはこれからも会員の要請を受けて増えて行き、赤十字の放射線技師教育を支え、医療を援護する。そして、封建国家、鎖国体制からの脱却のエネルギー源となった私塾のような存在になって行く気がしている。教育と医療が疲弊すると国が減じる。そして、そのふたつを繋ぐものが、鳴り響く知行合一の鐘なのである。



日本赤十字放射線技師会 会長 益井 謙

『守・破・離』

エベレスト。標高 8,848m。言わずと知れた世界の最高峰。エベレストは英名。チベット語でチョモランマ。霊峰である。山岳家の憧憬の聖山である。そのアルピニストが垂涎の体で見上げる、ピラミッド型の頂上付近は、黄金色に輝き、圧倒的荘厳さで魅了する。イエローバンドと呼ばれている。8,235m から 8,540m の 300m の幅で存在する。その南西壁を、チョモランマ層とノースコーン層に挟まれて、厳然と光彩を放つ。5 億年前の大理石。テチス海の堆積物、ウミユリ、三葉虫、介形石の化石を閉じ込めている。5,000 万年前インド大陸がアジア大陸に衝突。かつて南半球にあった大陸棚は、10,000m 近く持ち上げられた。海中生物と共に。世界一高い山脈（ヒマラヤ）と世界最大の高原（チベット）の創造秘話伝説である。壮絶壮大な地球のドラマの一端である。地理学的地学的な進化論のドラマである。アルピニストはかつての海底を目指して登攀するのである。安逸な環境も、静謐な状況も何時かは一変すると言う、形而下的箴言を以ってイエローバンドは今日も燦然と輝いている。

時代は変節し、歴史はその上に堆積し、ヒトの足跡を化石として遺す。いつの時代でも、その節目は必ず存在し、歴史を補強する。「内平らかに外成る」「外平らかに天成る」と内外、天地ともに平和なれと希って付けられた『平成』も21回目

の春を迎えた。そして、会員1,200余名の当会も齢55歳を超え、会誌も50号の記念を重ねる事となった。諸先輩が営々として築き上げ、連綿として継続し、粛々として活動が為されてきた証である。数々の制度的洗礼と、技術革新の波頭を越えて。病院の技術的活性の定礎となり、臨床画像のゴッドハンドとして、医療チームの要（かなめ）として、進化して来た。海底に潜んで、暗室暗黒空間で黙々と耐えてきた時代。技術革新的衝突、衝撃で、持ち上げられ、一気に陽の当たる表座敷に陣取る時代。医療経済逼迫で、巨体を持て余して滅びた恐竜伝説の轍を踏まない工夫を要する時代への変遷。変遷変革とともに適者生存を見出し、自然淘汰を未然に防ぐ智慧が必要である。HP（ホームページ）の技術的刷新、運用の機能化は、時代の節目を強化する攻めの姿勢。ホックロス計画による、会員相互の連絡網補強。モットクロス計画による、管理者同士の結束。学術分科会（6分科会）の新設による、会員のスキル向上。本社の新機軸、「大型医療機器共同購入」への顧問的任務分担。赤十字医学会への根源的関与など、時代の揺さ振り、攪拌への柔軟対応策。時代の趨勢、時代の表情を、会員全員で相互に洞察する時代でもある。

『人、城を頼らば、城、人を捨てん』織田信長の弁として伝承してきた言葉である。いかにも信

長が言いそうな凄味のある響きがある。群雄割拠、他の英雄豪傑の追従を超えた厳しさがある。「城を頼るにらず」と。ケネディ大統領。『国があなたに何をしてくれるかでなく、あなたが国に何ができるか』とその就任演説で世界に問いかけた。即ち、戦国の世ならずとも、近世から鮮烈に覚悟を強いる言葉として活きている。信長やケネディの言を待たずとも、時代は、夫々の組織、各自の立場の自立と自活を促している。歴史は焦燥と憂慮を糧として、夢と希望の血肉を育てる。喧騒と戦慄の果てに、各施設の会員は赤十字の診療放射線技師の沽券を護らねばならない。HPやML（メーリングリスト）などのネットワークパワーを活かし、ネットワークパンチを時代に浴びせ続けねばならない。

ブケパロス。奔馬なれど暴れ馬。自分の影に怯える汗血馬。アレキサンドロス3世が唯一乗りこなした。智慧を凝らして。奔走、迷走する時代を乗りこなすには、智慧が必要。乗らなければただの田舎マケドニアのアレキサンドロス。乗りこなせば史上最大の帝国のアレキサンダー大王。時代を進取席卷できるか出来ないかは僅かの差。放射線科部。医療技術部放射線科。技術の粋を極めた高性能大型医療機器配備され、放射線技師が管理運用する。但し、スイッチマンに甘んじることなく、乗りこなす、使い切る事が出来ねばプロとは言えない。応用力と適応能力などが必須の条件となりうる。一方で、赤十字社の一員としての、幅広い役目がある。防災・災害救助・検診・救命救急・国際貢献等。各地各施設の取り組みは真摯になされても、大規模災害・広域救命救急体制は緊密な連携プレーが必要。又、情報ネットワーク（電子カルテ・PACSなど）を院内に網羅する役目も積極的に荷なければなら無いし、荷える立場にある。画像情報技師、コンピューター技師、そして各種認定技師など複数のライセンスを取得した会員が、又、医療技術学博士号を取得した会員がその任を積極的に背負って、現世のブケパロス

乗りこなす。技師会は、放射線科部の枠を超えた、院内組織的活動への進出と、全国の赤十字施設をその技術力と人的資源で繋ぐ準備とシステム構築の初期段階を終えたばかりである。古来、歩道や芸道では「守・破・離」とその技量や芸域の修行段階を3文字で表す（先般、九州ブロックの若い会員が、スキルの物差しとして引用してプレゼンしていた。）。不立文字の世界を簡潔明瞭に現した言葉である。「守」は基礎。歩芸では型に相当。師匠や先輩がこの任に当たる。個や全の命運に関わる。「破」は応用。当日直や修羅場をくぐって独りで体得。技師会の関与は此処から。HPやMLの活用で自己啓発。「離」は思索、創造、自分の型。往々にしてヒトは、「守」を疎かにし「離」「破」を得ようと焦って、大成しないもの。或いは「守」だけで「破」「離」に境地があがらず、小成止まりの無念な例をひくものである。

日本赤十字社は「守」。その倫理はすべての根源。存在意義である。会員が所属する各施設は「城」。唯この「城」は自活、時立を促す「城」であり、日本赤十字放射線技師会はその会員を「破」に進化するため労を惜しまない。そして赤十字精神を内外に「離」散、突出させ、燦然と輝く会員を育てたい。エベレストのイエローバンドのように。

HP（ホームページ）を刷新。会員相互のコミュニケーションを図るホットクロス計画を打ち出して2年。諸先輩が必死で貯めた資金を足掛かりに、大いに飛翔する事が叶った。新機軸のCMS方式を導入して、会員の意見交換の場である掲示板の設置がようやく軌道に乗った。学術分科会もあらたに、情報、核医学、放射線治療を加えて6分科会に成長。

会員の学術スキルの向上の場として提供できた。

世情も医療界も平成どころか混沌騒然として来ている。会員1,200余名の当会も齢56歳を数え、会誌も50号の記念を迎えた。

巻 頭 言 日本赤十字放射線技師会会誌 電子 1 号

『 我らのマグナカルタ 』

日本赤十字放射線技師会 会長 益 井 謙

竹富島は、沖縄県、八重山諸島。石垣島の南西 6.3km。東方には台湾が望める景勝の地。亜熱帯のサンゴ礁に囲まれた島。その岬に一本の立札が、島の意思を伝えるように立っている。『竹富憲章』である。我が国最南端から発せられているマグナカルタである。

曰く『1.売らない 2.汚さない 3.乱さない 4.壊さない 5.生かす』。島を守る住民の意思である。島を守り抜く気概が込められている。島への情念と愛着に血肉をつけた島民自身の憲章である。

人間の生命と尊厳を尊ぶ、日本赤十字社の理念に通じる覚悟でもある。博愛と人道の憲章を果たすため施すため、それぞれの施設の会員は、自らの座標を守る覚悟を強いられている。

曰く、愛する病院を、職場をむざむざ『身売りしない』、赤十字の名を『汚さない』、天変地異などによる災害への医療を『乱さない』、医療チームワークを『壊さない』、赤十字の人的資源を『生かす』。

日本赤十字放射線技師会は前期より、これらすべてが混然一体となって、我々赤十字放射線技師のマグナカルタとして、息衝くように、脈打てるように、技術的、精神的支援をしてきた。そして、HP（ホームページ）や技師長 ML（メーリングリスト）などのインフラの整備の第一ステップを終えた。我々のホット・スポットである HP は、我々の活動に協賛し、共同歩調を取るメーカーがバナーとして支援して、その機能を充実する事が可能となった。

これから一年、これらコミュニケーション・アイテムを駆使し、ソフトの充実を図り、分科会活動、日赤医学会など学術分野をエンジンにして、会員の利便性と機動力の活性化を図って行かねばならない。それが、年に一度の「全国赤十字病（産）院診療放射線技師業務研修会」を自立能動的な「全国赤十字診療放射線技師学術総会」と名実ともに進化させた事にも通じ、また、会員の研究に対して「研究助成金交付事業」に参画し、会員のスキルの正当な評価を公表公認する事に繋がっている。前期就任挨拶『Die Hard(不死鳥伝説)』で、惑星探査機「はやぶさ」の帰還 2010 年 6 月までに、我々の「新生技師会 (Die Hard)」と、支柱である「会員 (地上の星)」の取組みと成果を恥じることなく報告できるよう努めるつもり。と約束をした。

医療情勢は刻々と時代に試練を与えているが、我々は我々のコミュニケーションツールの活用で交流を果たし、それぞれの施設のマグナカルタを堅守出来るように、新チーム（理事会）と共に絆を深め、「はやぶさ」が漆黒の試練の旅を終える、その孤高の単機の凱旋帰還に報いたい。

一 所 不 住

日本赤十字放射線技師会会長 益井 謙

動植物には、その活動範囲や棲息環境に必ず南限、北限がある。或いは、高低差や気温差を許容できない脆弱性を持っている。何処でも棲める特質や、何処でも繁殖できる不遜さは持ち合わせてはいない。凍てつく季節毎に、約束の地を求め、何万キロの決死の自力の旅を強要される渡り鳥。乾季には、水を求めて大移動を強制される草原の野生。僅かな気温の差を捉えて、発芽し、陽光と風雨に傀儡されて、枝を伸ばし、葉を拓げる植物。水の中や、その塩分濃度に体液を制御されている魚類。

この地球上で、何処でも生きていけるものは稀。人類はその稀な、希有な存在として、そのコスモポリタン性を謳歌して居る。そして今、ITを駆使したユビキタス・ネットワークで、何時でも何処でも、誰とでもコミュニケーションを繋げる時代が到来した。

その優位性は、まさに「鬼に金棒」状態である。

日本赤十字放射線技師会も、その「金棒」にあたるユビキタス化の強化を図って、学術的に、管理的に、防災的に、ネットワークを繋ぎコミュニケーションの質と量を上げて来た。HP は、それぞ

れ粗野に飛び交うエネルギーを、分類、分割、整理、分析して、時代を動かし時代に副うように機能アップした。未完成ながらも時代を先取したその機能は、個々の会員の若さとエネルギーの突破力に貢献し、若さゆえの好奇心、向上心を刺激続けて来た。教育や、学ぶ身には、粘着性と柔軟性が必要で、伝える側は情報選別力と忍耐力が必須の資質であるが、医療の進取的本能は、教育関係者に均しく鮮度と志操を当たり前のように求めて来る。

幸い、病院施設のなかで、技術革新や科学ポテンシャルが頭抜けて高い放射線技師集団は、混沌とした技術革新や、錯綜した技術開発を嗅ぎつけ嗅ぎわけける訓練を日々行っている為、配信される情報を、粘着的柔軟性を以って学んで行きさえすれば、スキルアップに伴う存在価値が高まるであろう。法的に守られた、受動的な職制団体で無く、自己刷新を、自己啓発を仲間同士でユビキタス的に行う大勢が整って行く筈である。

人類以外の生物は、独自の分布境界線が存在し、その生物相の境界線を様々に名付けられ区分されている。ウオーレス線、ウエーバー線、ブラキントン線、八田線、渡瀬線、宮部線、三宅線など、歴代の生物学者が生物分布を解明して居る。

人類は、それらの分布境界線に関係なく全地球的に、「鬼神」のように拓がって、そのコミュニケーションの境界さえも「金棒」によって取り払った。そしてその「金棒」の限界と虚構性も熟知し、コントロールをしなければならない時期でもある。

院内の分布境界線を越え、全国の施設の技術革新を柔軟にコントロールして護り得る技能集団として、我々赤十字放射線技師は、益々存在感を増していけると考えている。

揺=y u r e r u =

日本赤十字放射線技師会 会長
清水 文孝

平成 23 年 3 月、春の帳（とぼり）が降りようとしているこの時期、麗らかな日々を覆すような大地震が東北を襲った。地震だけならば、この様な被害にはならなかったであろうに。地震後に訪れた巨大津波。何もかも呑み尽くすように、地を這い、ビルを破壊し、山を崩し、内陸まで到達した。その映像は、あたかも特殊撮影された映画を見ているようでもあった。この映像に、日本全国民がどれ程心（気持ち）を揺り動かされたであろう。そして、更に追い討ちをかけたのが原発の事故である。これは今後何年もかけ、終息に向かって対応して行くことになる。この様な中、揺り動かされたものは、これだけではなかった。私達が関与する各種学会が中止、先送りなどの対応をとる中、日本赤十字放射線技師会も揺り動かされたひとつとなっていた。

ほぼ震災 1 ヶ月間、メール会議で学術総会開催についての議論を行い、全国理事会にてその結論を導き出すことになった。しかし、開催、中止、いずれにしてもなかなか決まらなかった。最終的に本社より出していただく施設への案内が出せないこと、まだまだ余震が続く中、東京直下型地震や東南海沖地震への引き金になり大地震が起きた場合、会員の安否の責任を負えないこと、この二点が最大の要因となり中止の決定がなされたのは言うまでも無い。その後、中止に伴った定期総会の対応を協議し、ホームページでの資料閲覧、紙面決済となったのは会員の皆様の周知の事実。そして、最も揺れたのは、揺れていたのは、私自身だったのかも知れない。2 月の常任理事会にて会長に推薦していただき、院内の稟議を経て推薦立候補。4 月の全国理事会の席上にて選挙管理委員会より当選が決まり、定期総会において所信表明を申し上げることで有ったが、これも儘にならない状況となった。これも私自身が、揺れたままでの新体制の船出になった理由のひとつとして上げられる。また、新たに就任していただいた役員の方々も、この揺れは影響を与えてしまったのではないかと思われる。会長がしっかりしなければ、会の存続に影響を及ぼすであろうし、これまで本会を導いて下さった先達の皆様、特に益井前会長に申し訳が立たない。少しずつ心の軌道を修正し、役員の方々のバックアップのもと、今ではしっかりと大地を踏みしめられる様になって来ている。

平成 24 年を向かえ、学術総会の準備、定期総会の準備と各役員の皆様にはご足労をおかけするが、揺れ動いた一年が終わろうとする中、一緒に大地を踏みしめ行脚して行こう。

最後に、会を運営する私自身の持論は記させていただきます。1 つが、「役員は会員のために何が出来るかを考え、会員は会の事業に積極的に参加していただく」。二つ目が、「会の活性化は、ブロックの活性化、分科会の活性化がその基礎となる」ということである。これからも、全国の会員各位のご意見をいただきながら、一歩ずつ、一歩ずつ、牛歩ではあるが会の運営を担って行きたい。

進=susumu=

日本赤十字放射線技師会 会長

清水 文孝

平成 23 年 3 月 11 日の大震災以降、各地にて様々な復興策がとられ、着実に前進していることだろう。昨年末の政権交代（いずれの政権を支持するつもりはないが）で、更に加速するかは今後の政策が問われるかもしれないが、そんな政策に関わりなく着実に一步一步進んで行かろう。また、進んで行くと信じたい。

我々日本赤十字放射線技師会の役員も当方を含め、震災後の慌ただしさや喧騒の中での出帆となり、任期が終ろうとしている。1 年目は、震災の影響の余波を諸に受けての出帆であり、暗中模索の中進んで来た。周りが見えだした 2 年は、どっしりと腰を落ち着け会務を遂行しようと努力をして来た。これらは、役員すべての方々が、私事を犠牲にして成り立ってきたと思う。着実な一歩だったかわかるのは先の事であろうが、我々は進んだと信じてやまない。そして、本会は創立 60 周年を迎える。先達の遺産を顧みながら、時代の留まることを知らない流れの中に身を置き、乗るが如くに進んで行きたいと思っており、「揺=Yureru=」から「躍=Odoru=」と託した言葉は、微力ではあったが本会の前進に寄与したものと思っている。

日本赤十字放射線技師会は、平成 25 年度に創立 60 年を迎える。その歩みの中で、我々は何を託されたか、何を残せたか、と自問自答しながら進んでいかなければならない。先達の残した足跡を振り返り、石を積むが如く託された思いに我々が更に石を積み、後輩達に託して行きたいと思う。我々が進む道は、会員諸氏が考えるより荆の道であるが、荆の道を少しでも平坦に安息の道に代えるよう進んでいきたい。60 年と、一言でいえば一瞬の言葉であるが、その積み重ねられた足跡は偉大なものであり、尊敬の念を持ち過去を振り返りながら進んで行きたいと思う。

日本赤十字放射線技師会は、変革の時を迎えている。アナログからデジタルに移行し、一昔前では考えられないことが現実となっている。そして、更に変革を進めていかなければならない。その手法の一つが、ホームページである。次年度は会員諸氏にもっとアクセスいただき、コミュニケーションツールとしての役割を担わせ、ホームページのリニューアルを考える。これも、留まることより進むための一助としたい。また、原点を踏みしめることから「診療」という文字に未来を託すため、本会の名称を替えていかなければならないと思っている。しかし、賛否両論あろう。会員諸氏のご意見を伺いながら進めていく所存である。

更に、全国の会員 1300 名以上が、ホームページを介して情報を膨らませ、情報を育み、共有して行くことが、本会の活路であり、進=susumu=ということに他ならないであろう。会員諸氏と一緒に歩み、60 年を振り返り、原点を踏みしめ、未来に託すべく進んで行くには、分科会の活動、ブロック活動、これらの活性化が不可欠であり、ホームページ共々本会の命綱であると肝に銘じ、進んで行きたいと心より思う。

年度別業務研修会・学術総会

平成16年度

全国赤十字病（産）院診療放射線技師業務研修会

抄 録 集

期 間 平成16年6月23日（水）～24日（木）
会 場 日本赤十字社 本社201会議室

日 本 赤 十 字 放 射 線 技 師 会
Japanese Red Cross Association of Radiological Technologists

平成 16 年度 業務研修会 プログラム

6月23日(水)

9時30分～10時10分：受付

(資料配布・会議費徴収・研究発表資料徴収)

10時10分～10時20分

開会挨拶 会長 星野 保郎 (足利)

本社挨拶 医療事業部 石澤 宣文 部長

10時20分～11時00分

本社講演

「平成15年度赤十字病院の決算について」

病院経営対策課 野口 良樹 課長

進行 星野 保郎 (足利)

11時10分～12時00分：会員研究発表・第1部

座長 古川 晴美 (松江)

1) マンモグラフィーポジショニング

練習用ファントムの使用と効果

下山 可南子 (さいたま)

2) 当院におけるマンモグラフィーの現状

辻本 梨香 (神戸)

3) ステレオガイド下マンモトーム生検の有用性について

櫻井 勝則 (舞鶴)

4) 睡眠時無呼吸症候群におけるセファログラフィの有用性

陰山 真吾 (松江)

12時00分～13時00分：昼食

13時00分～14時30分

教育講演

「世界遺産に登録された日光東照宮」

日光東照宮 禰宜 青山 隆生 先生

座長 星野 保郎 (足利)

14時40分～15時30分：会員研究発表・第2部

座長 松尾 政明 (武蔵野)

1) 当院における脳梗塞急性期血栓溶解術の検証

林 隆宏 (名一)

2) イメージングプレートのフェーディング現象が濃度変化に与える影響

有賀 英二 (名二)

3) HIS/RIS 連携と FPD/CR 混在システムの構築の実際

西村 英明 (福井)

4) コミカミノルタハンディターミナルの使用経験

清水 邦昭 (深谷)

15時40分～16時50分：第51回 定期総会

6月24日(木)

9時30分～10時30分

教育講演

「医療と放射線防護」

放射線医学総合研究所・医学物理部

赤羽 恵一 先生

座長 山縣 徳治 (水戸)

10時40分～11時40分：会員研究発表・第3部

座長 中村 覲郎 (名二)

1) FPGI を使用した前後方向における

セットアップエラーの検証

是平 美由紀 (広島)

2) 唾液腺シンチの後面撮像の有用性

玉田 一 (成田)

3) 血管造影検査における面積線量計の使用経験

池田 幸弘 (大田原)

4) IVR 検査時における皮膚表面吸収線量の測定

鷺見 直弘 (大津)

5) 当科における機器管理の現状

前川 栄寿 (成田)

11時40分～12時40分：会員研究発表・第4部

座長 古河 望 (北見)

1) Volume Rendering 法の3D処理の検討

榎津 浩人 (松山)

2) 4DAS マルチスライス CT における焦点サイズの切り替えによる画質の物理評価

白崎 憲治 (旭川)

3) 兵庫県災害医療センターにおける16列MDCTを用いたCoronaryCTA検査について

中田 正明 (神戸)

4) 当院におけるCTAの有用性について

中川 亮二 (金沢)

5) 頭部3D TOF MRA におけるQDコイルと8chNVコイルの比較検討

雨森 美江 (福井)

12時40分～12時50分

閉会挨拶 会長 星野 保郎 (足利)

平成 17 年度
全国赤十字病（産）院診療放射線技師業務研修会

抄 録 集

期 間 平成 17 年 6 月 14 日（火）～15 日（水）
会 場 日本赤十字社 本社 201 会議室

日 本 赤 十 字 放 射 線 技 師 会
Japanese Red Cross Association of Radiological Technologists

平成 17 年度 全国赤十字病（産）院診療放射線技師業務研修会日程

【6月14日（火）】

9時30分～10時10分 受付 資料配布・会議費徴収・研究発表資料徴収

10時10分～10時20分 挨拶 会長 足利赤十字病院 星野 保郎
日本赤十字社 医療事業部 部長 堀野 政則様

10時20分～11時00分 本社講演 医療事業部 経営指導課長 神波 豊 様
進行 足利赤十字病院 星野 保郎

11時10分～12時05分 会員研究発表 第1部
座長 日本赤十字社 長崎原爆諫早病院 森 幹司

- 1・管理運用「当院放射線科部での病院機能評価再受審への取り組み」
名古屋第一赤十字病院 小田 哲意（オダ テツイ）
- 2・その他 「災害発生時における救急患者への対応 ～航空機乱気流事故を経験して～」
成田赤十字病院 渡邊 一寿（ワタナベ カズトシ）
- 3・管理運用「放射線画像システムの展開（既存システムから電子カルテへの統合・再構築）」
松江赤十字病院 加藤 秀之（カトウ ヒデユキ）
- 4・管理運用「遠隔画像診断システムの導入と使用経験」
長野赤十字上山田病院 神谷 直紀（カミヤ ナオキ）
- 5・管理運用「マンモグラフィアンケート結果の報告（第1報）」
～これから何を読みとらなければならないのか～
深谷赤十字病院 宮関 佳代（ミヤゼキ カヨ）
- 6・管理運用「患者様に安全に検査を受けてもらおう」
武蔵野赤十字病院 佐藤 恒輔（サトウ コウスケ）

12時05分～13時05分 昼食

13時15分～14時45分 特別学術講演 「PETによる腫瘍診断」
国立国際医療センター 第3放射線科（核医学） 窪田 和雄 先生
座長 水戸赤十字病院 山縣 徳治

14時55分～16時25分 特別教育講演 「高線量被曝の病理と放射線診断」
東京大学附属病院 放射線科 中川 恵一 先生
座長 名古屋第二赤十字病院 中村 覲郎

16時35分～18時00分 第52回 定期総会

【6月15日（水）】

9時00分～9時30分 本社講演 医療事業部 管理係長 串田 裕一様
進行 武蔵野赤十字病院 松尾 政明

9時41分～10時25分 会員研究発表 第2部
座長 京都第二赤十字病院 辻 秀憲

- 1・X線撮影「骨密度測定における腰椎と大腿骨頸部の相関関係」
諏訪赤十字病院 長田 年生（ナガタ トシオ）
- 2・X線撮影「臨床の現場における FPD システムの利点と問題点」
福井赤十字病院 上坂 俊輔（カミサカ シュンスケ）
- 3・X線撮影「新たに導入された血管造影 X線診断装置の使用経験」
京都第二赤十字病院 山添 元士（ヤマゾエ ゲンシ）
- 4・管理 「心臓カテーテル検査における被曝線量低減策の検討」
松山赤十字病院 波多野 有香（ハタノ ユカ）
- 5・管理 「胸部正面単純撮影における患者表面吸収線量の測定」
松江赤十字病院 秋田 大輔（アキタ ダイスケ）

10時35分～11時30分 会員研究発表 第3部
座長 横浜市立みなと赤十字病院 川上 直志

- 1・RI 「Attenuation 値が iSSP3.5 に及ぼす影響について」
深谷赤十字病院 清水 邦昭（シミズ クニアキ）
- 2・RI 「収集 STEP 数がもたらす SPECT 画像の影響 —心筋 SPECT 画像を用いて—」
松江赤十字病院 磯田 康範（イソダ ヤスノリ）
- 3・RI 「当院におけるセンチネルリンパ節シンチについて」
福井赤十字病院 村上 冬樹（ムラカミ フユキ）

4・治療 「当院におけるバセドウ病の放射線ヨード療法の10年」
長岡赤十字病院 鈴木 光男（スズキ ミツオ）

5・MRI 「STIR型 SENS・DWIの至適撮像条件の検討」
日本赤十字病院和歌山医療センター 加賀 久喜（カガ ヒサヨシ）

6・管理運用 「当院における新MRI導入による日常業務の考察」
大阪赤十字病院 高津 安男（タカツ ヤスオ）

11時35分～11時45分 閉会挨拶 会長 足利赤十字病院 星野 保郎

11時45分～12時00分 出席証明書授与 終了

平成18年度
全国赤十字病（産）院診療放射線技師業務研修会

抄 録 集

期 間 平成18年6月8日（木）～9日（金）
会 場 日本赤十字社 本社101会議室

日 本 赤 十 字 放 射 線 技 師 会
Japanese Red Cross Association of Radiological Technologists



平成 18 年度

全国赤十字病（産）院診療放射線技師会業務研修会プログラム



【6月8日（木）】

9：30~10：00 受付 資料配布・会議費徴収・研究発表資料徴収

10：00~10：20 挨拶 会長 長野赤十字上山田病院 松山 繁
日本赤十字社 医療事業部 部長 堀野 政則 様

10：20~11：20 本社講演「赤十字の役割」
日本赤十字社 医療事業部 次長 見澤 泉 様
進行 長野赤十字上山田病院 松山 繁

11：30~12：20 会員研究発表 第1部
座長 長野赤十字病院 小林 実

1.¹²³I-IMP Graphplot 法を用いた脳血流測定法の検討
金沢赤十字病院 坂庄 政輝（サカショウ マサテル）

2.Tc-tetrofosmin 心筋薬剤負荷シンチにおける撮像開始時間の検討
横浜市立みなと赤十字病院 小峯 里香（コミネ リカ）

3.当院における PCI とリスクファクターの関係
益田赤十字病院 永安 英正（ナガヤス ヒデマサ）

4.当院における注腸 X 線検査の現状（見逃しについて）
深谷赤十字病院 斉藤 幸夫（サイトウ ユキオ）

5.当院における【カイゼン】目標を利用した一般撮影部門管理の効果
小川赤十字病院 田中 達也（タナカ タツヤ）

12：20~13：20 昼 食

13：20~14：40 特別学術講演 「診療放射線領域におけるリスク・マネジメント」
群馬県立県民健康科学大学診療放射線学部 助教授 倉石 政彦 先生
座長 前橋赤十字病院 久保田 利夫

14：50~15：50 特別教育講演 「一冊の本との出会い」
イラストレーター 藤岡 牧夫 先生
座長 長野赤十字上山田病院 松山 繁

16：00~ 第53回 定期総会



横 野



研修風景

【6月9日（金）】

9：00~10：20

会員研究発表

第2部

座長 原町赤十字病院 萩原 健

1.デジタル断層画像における特性

深谷赤十字病院 富田 欣治（トミタ ヨシハル）

2.IP（イメージング・プレート）の使用劣化についての評価

京都第二赤十字病院 西本 岳（ニシモト タカシ）

3.先天性股関節脱臼のスクリーニングX線検査における性腺防護マスクの検討

松江赤十字病院 中島 清貴（ナカシマ キヨタカ）

4.マンモグラフィ専用ドライ画像記録用フィルム（DI-ML）の検討

長浜赤十字病院 永原 誠子（ナガハラ トモコ）

5.マンモグラフィにおける精度管理および被ばく線量に関する研究

松山赤十字病院 前田 恵（マエダ メグミ）

6.乳房撮影における検査着の検討

福井赤十字病院 中丁 美和（ナカチョウ ミワ）

7.耳鼻科領域の咽頭・喉頭撮影におけるバルサルバ法の有効性

松江赤十字病院 川中 弘之（カワナカ ヒロユキ）

10：30~11：20

会員研究発表

第3部

座長 大阪赤十字病院 高津 安男

1.当直時における緊急MR検査

名古屋第一赤十字病院 小栗 卓也（オグリ タクヤ）

2.肩関節疾患におけるMRI静注造影検査の有用性について

広島赤十字・原爆病院 富中 宗久（トミナカ ムネヒサ）

3.多方向観察を目的とした3DMRDSAの検討

大田原赤十字病院 井戸沼 佳明（イドヌマ ヨシアキ）

4.近畿ブロック研修会で行った部門別アンケートの結果報告について 第一報

姫路赤十字病院 岩見 守人（イワミ モリヒト）

5.近畿ブロック研修会で行った部門別アンケートの結果報告について 第二報

姫路赤十字病院 辻井 貴雄（ツジイ タカオ）

11：30~12：30

シンポジウム「災害医療」

座長 日本赤十字社医療センター 鈴木 利男

災害時医療にどう取り組むか？—災害拠点病院での放射線技師の関わりと中越地震を体験して—

長岡赤十字病院 捧 和雄（ササゲ カズオ）

当院における災害発生時の対応について 成田赤十字病院

安部 沙優花（アベ サユカ）

災害医療への取り組み（阪神淡路大震災の教訓）

神戸赤十字病院 浅妻 厚（アサヅマ アツシ）

12：30~13：30

昼 食（ブロック連絡会）

13 : 30~13 : 45

閉会挨拶

会長

長野赤十字上山田病院

松山 繁

13 : 45~14 : 00

出席証明書授与

終了



情報文委



表彰式

平成 19 年度

全国赤十字病（産）院診療放射線技師業務研修会

抄 録 集

期 間 平成 19 年 7 月 5 日（木）～6 日（金）

会 場 日本赤十字社 本社 201 会議室

日 本 赤 十 字 放 射 線 技 師 会
Japanese Red Cross Association of Radiological Technologists

平成 19 年度 全国赤十字病（産）院診療放射線技師業務研修会日程

【7月5日（木）】

- 9 : 30 ~ 10 : 00 受付 資料配布・会議費徴収・研究発表資料徴収
- 10 : 05 ~ 10 : 15 挨拶 会長 長野赤十字上山田病院 松山 繁
日本赤十字社 医療事業部 部長 神波 豊 様
- 10 : 20 ~ 11 : 15 本社講演「赤十字の現状と課題」
日本赤十字社 医療事業部 経営指導課長 亀井 勝見 様
進行 長野赤十字上山田病院 松山 繁
- 11 : 30 ~ 12 : 20 会員研究発表 第 1 部
座長 京都第二赤十字病院 辻 秀憲
1. 内臓脂肪計測ソフト **Fat Scan** の導入
大田原赤十字病院 増渕 裕介（マスブチ ユウスケ）
2. **Z-sharpening algorithm** の評価と有用性
日本赤十字社和歌山医療センター 加賀 久喜（カガ ヒサヨシ）
3. 当院における **SOMATOM Sensation Cardiac 64** の使用経験
—自動露出機構（care dose 4D）の特性
徳島赤十字病院 赤川 拓也（アカガワ タクヤ）
4. X線 CT 検査における照射録作成支援と被曝線量のデータベース化の試み
山田赤十字病院 松枝 孝次（マツエダ コウジ）
5. 造影 CT で使用されている静脈留置針の質問紙(アンケート)調査
「静脈留置針の耐圧と造影剤注入速度の関係について」
庄原赤十字病院 宇山 浩文（ウヤマ ヒロフミ）
- 12 : 20 ~ 13 : 20 昼 食
- 13 : 20 ~ 14 : 30 教育講演
「患者様に信頼されるための正しいコミュニケーションとマナー」
NHK 学園講師 山岸 弘子 先生
座長 長野赤十字上山田病院 松山 繁

- 14 : 40 ~ 15 : 50 学術講演「MDCT—4列から64列CTまでの使用経験」
 東北大学病院 放射線診断科 高瀬 圭 先生
 座長 前橋赤十字病院 久保田 利夫
- 16 : 00 ~ 第54回 定期総会

【7月6日（金）】

- 9 : 00 ~ 10 : 10 会員研究発表 第2部
 座長 高松赤十字病院 西谷 泰男
1. 当院における胃 X線検査説明書の作成
 深谷赤十字病院 斉藤 幸夫（サイトウ ユキオ）
 2. 注腸 X線検査における選択式前処置法の検討
 置戸赤十字病院 谷川 道一（タニカワ ミチカズ）
 3. 直接変換方式 FPD Sonialvision Safire(X線 TV)
 —任意断層再構成 トモシンセシスのシステムと画像
 京都第二赤十字病院 岡本 繁（オカモト シゲル）
 4. DR装置における IVR の線量管理に関する基礎的検討
 神戸赤十字病院／兵庫県災害医療センター 松村 光章(マツムラ ミツアキ)
 5. 心臓カテーテル検査・LVG での使用造影剤量の検討
 深谷赤十字病院 桐生 幸恵（キリユウ ユキエ）
 6. デリバリーFDG による PET 検査の実際
 名古屋第一赤十字病院 四辻 万利子（ヨツツジ マリコ）
 7. 供給 ¹⁸F-FDG による PET-CT 装置収集時間の画像検討
 松江赤十字病院 磯田 康範（イソダ ヤスノリ）
- 10 : 30 ~ 11 : 40 会員研究発表 第3部
 座長 唐津赤十字病院 宮村 定
1. マンモトーム生検装置の使用経験
 日赤医療センター 宮崎 麻衣子（ミヤザキ マイコ）
 2. 女性職員に対する乳がん検診の啓発（第一報）～事前アンケートをもとに～
 長浜赤十字病院 西関 剛（ニシゼキ タケシ）

3. 女性職員に対する乳がん検診の啓発（第二報）～勉強会を終えて～
長浜赤十字病院 西関 剛
4. PACS 運用上での画像修正の原因とその分析
日赤医療センター 丸山 大樹（マルヤマ ダイキ）
5. MLC を使用したマントル照射について
広島赤十字・原爆病院 大胡 文彦（オオエベス フミヒコ）
6. 本絞り分割型 MLC における Half Field 法の検証
松江赤十字病院 坂本 晴夫（サカモト ハルオ）
7. 当院の胸部定位照射の線量精度検証
福井赤十字病院 上坂 忠敏（ウエサカ タダトシ）
- 12 : 00 ~ 1 : 00 閉会挨拶
ブロック連絡会議（昼 食）
出席証明書授与 終了

平成 20 年度

全国赤十字病（産）院診療放射線技師業務研修会

抄 録 集

期 間 平成 20 年 6 月 2 日（月）～3 日（火）

会 場 日本赤十字社 本社 201 会議室

日 本 赤 十 字 放 射 線 技 師 会
Japanese Red Cross Association of Radiological Technologists

平成 20 年度 全国赤十字病（産）院診療放射線技師業務研修会プログラム

【6月2日（月）】

- 9:30～10:00 受付 資料配布・会議費徴収・スライド
- 10:00～10:15 挨拶 会長 松江赤十字病院 益井 謙
日本赤十字社 医療事業部長 神波 豊 様
- 10:15～11:15 本社講演 「これからの医療体制と赤十字病院について」
日本赤十字社 医療事業部企画課長 大野 博敬 様
座長 松江赤十字病院 益井 謙
- 11:25～12:00 日本赤十字放射線技師会 HP の紹介 名古屋第二赤十字病院 新美 孝永
- 12:00～13:00 昼食
- 13:00～15:00 55周年特別記念講演「医療機器の安全管理体制及び診療報酬上での評価」
(社)日本画像医療システム工業会 野口 雄司 先生
座長 足利赤十字病院 中里 明
- 15:10～15:50 会員研究発表 第1部 一般演題 座長 北見赤十字病院 伊藤 卓也
- 1.PACS 導入及び運用時にあたっての問題点とその対策
京都第二赤十字病院 西本 岳 (ニシモト タカシ)
- 2.放射線業務における医療安全について
松山赤十字病院 大西 寛典 (オオニシ ヒロノリ)
- 3.三次元再構成ソフト Astonish の効果
広島赤十字・原爆病院 原本 康博 (ハラモト ヤスヒロ)
- 4.当院 MRI 検査での心肺停止時における対応についての一考察
大阪赤十字病院 高津 安男 (タカツ ヤスオ)
- 16:00～ 第55回 定期総会

【6月3日（火）】

- 9:20～10:50 学術講演「知っておきたい乳腺診断の流れ」
乳房画像分科会代表世話人 さいたま赤十字病院 尾形 智幸
座長 芳賀赤十字病院 武藤 美子
- 11:10～12:00 会員研究発表 第2部 要望演題 座長 深谷赤十字病院 川合 佳代
- 1.職員によるマンモグラフィ検診----施設画像認定取得に向けて
名古屋第一赤十字病院 長谷 宏美 (ハセ ヒロミ)
- 2.当院における他職種を含めた合同乳がん症例検討会の現状
成田赤十字病院 阿部 真波 (アベ マナミ)
- 3.マンモグラフィに関わるインシデント事例と対策
神戸赤十字病院 辻本 梨香 (ツジモト リカ)
- 4.データベースによる乳房 X 線撮影の技術管理
北見赤十字病院 伊藤 卓也 (イトウ タクヤ)
- 5.デジタル乳房撮影装置における自動露出制御の管理とその重要性
名古屋第二赤十字病院 村瀬 多美 (ムラセ タミ)

12:00～13:00

昼食

13:00～13:50 会員研究発表 第3部 要望演題+分科会報告 座長 芳賀赤十字病院 武藤 美子

1.マンモグラフィにおける客観的ポジショニング評価法—乳腺組織の伸展性—

松江赤十字病院 古川 春美 (フルカワ ハルミ)

2.マンモグラフィにおける客観的ポジショニング評価法の一提案

松江赤十字病院 古川 春美

3.MR 分科会アンケート報告「各施設における乳房 MRI 検査について」

姫路赤十字病院 岩見 守人 (イワミ モリヒト)

4 乳房画像分科会アンケート報告

長浜赤十字病院 西関 剛 (ニシゼキ ツヨシ)

14:00～14:30 会員研究発表 第4部 一般演題 座長 秋田赤十字病院 三浦 司

1.FPD システムにおける自動露出制御の特性把握—放射線管理の精度向上を目指す—

名古屋第二赤十字病院 才賀 治 (サイガ オサム)

2.電子線のカットアウト照射野における MU 算出方法の検討

浜松赤十字病院 布施 拓 (フセ ヒラク)

3.腹部領域における 2D-Quantum De-noising Filter の物理的評価

日本赤十字社和歌山医療センター 加賀 久喜 (カガ ヒサヨシ)

14:30～15:00 ブロック連絡会議、出席証明書授与

平成 21 年度

全国赤十字病（産）院診療放射線技師業務研修会

抄 録 集

期 間 平成 21 年 6 月 8 日（木）～9 日（金）

会 場 日本赤十字社 本社 201 会議室

日 本 赤 十 字 放 射 線 技 師 会
Japanese Red Cross Association of Radiological Technologists

平成 21 年度 全国赤十字病（産）院診療放射線技師業務研修会日程

平成 21 年度 全国赤十字病（産）院診療放射線技師業務研修会プログラム

【6月8日（月）】

9：30 ～ 10：00 受付 資料配布・会議費徴収・研究発表資料徴収

10：00 ～ 10：20 挨拶
会 長 松江赤十字病院 益井 謙
日本赤十字社 医療事業部長 神波 豊 様

10：30 ～ 11：30 本社講演「日赤病院を取り巻く医療環境について」
日本赤十字社 医療事業部企画課長 大野 博敬 様
座 長 松江赤十字病院 益井 謙

11：40 ～ 12：10 特別企画「ユビキタスで技師会活動はこう変わる！
～ HP と ML の有効活用術」
日本赤十字放射線技師会 企画担当
名古屋第二赤十字病院 新美 孝永

12：10 ～ 13：10 昼 食

13：10 ～ 14：10 会員研究発表 第 1 部
座 長 日本赤十字社和歌山医療センター 井澤 秀恭

1. 冠動脈 CT 撮影時の被写体位置が画質に及ぼす影響
(コントラスト分解能及び画像ノイズの物理的評価)
大阪赤十字病院 加賀 久喜
2. 当院の心臓 CT 撮影技師育成における見本解析画像の作成
深谷赤十字病院 齋藤 幸夫
3. CT による内臓脂肪面積測定ソフト **Fatscan1000** 例の経験と
肺気腫計測ソフト **LungVision** の使用経験
日本赤十字社 長崎原爆諫早病院 大町 繁美
4. OPE 室 CT の使用経験
名古屋第一赤十字病院 臼井 友彦
5. MV Cone Beam CT の使用経験
横浜市立みなと赤十字病院 落石 祐一

14 : 20 ~ 15 : 10 会員研究発表 第 2 部

- 座 長 水戸赤十字病院 新藤 裕之
6. 大腿骨上顆軸撮影 (Epicondylar View)の検討
松山赤十字病院 栗田 幸
7. 頭部単純 X 線撮影法の検証と新しいポジショニング法の提案
— 頬骨弓軸位法と Waters 氏法を対象として—
前橋赤十字病院 長瀬 博之
8. MRI における手関節部機能撮影補助具作成および解析の試み
大阪赤十字病院 高津 安男
9. デジタルマンモグラフィとアナログマンモグラフィにおける
低コントラスト分解能の比較
京都第二赤十字病院 山本 絵美

15 : 30 ~ 17 : 00 定期総会

【6月9日(火)】

9 : 00 ~ 9 : 50 会員研究発表 第 3 部

- 座 長 熊本赤十字病院 竹野 俊一
10. FPD オーバーチューブ透視装置における術者被ばく軽減への取り組み
広島赤十字・原爆病院 古西 健太
11. 当院放射線科におけるリスクマネージメントの取り組みと課題
横浜市立みなと赤十字病院 西山 和幸
12. 可搬媒体による診療情報提供の問題
日本赤十字社 医療センター 増田 明宏
13. 災害医療におけるコメディカルの必要性
～DMAT 研修でのアンケートより～
神戸赤十字病院 中田 正明

10 : 10 ~ 11 : 40 教育講演「災害医療における放射線技師の役割
—あなたにできることは何か?—」
兵庫県災害医療センター 副センター長 中山 伸一 様
座 長 水戸赤十字病院 山縣 徳治

11 : 50 ~ 12 : 20 ディスカッション「今から始める災害医療 (仮題)」
出席者 中山 伸一先生 及び DMAT 研修修了者
進 行 神戸赤十字病院 浅妻 厚

12 : 20 ~ 13 : 20 昼 食

13 : 20 ~ 14 : 20 学術講演「3T MRI の使用経験
— Siemens 社製 Magnetom Trio 3.0T —」
MR 分科会 仙台赤十字病院 安彦 茂 様
座 長 MR 分科会代表世話人
大阪赤十字病院 高津 安男

14 : 30 ~ 15 : 30 優秀発表賞の表彰、ブロック会議、出席証明書授与

平成 22 年度

日本赤十字放射線技師学術総会

抄 録 集

期 間 平成 22 年 6 月 10 日 (木) ~ 11 日 (金)

会 場 東京国際フォーラム G409 号会議室

日 本 赤 十 字 放 射 線 技 師 会

Japanese Red Cross Association of Radiological Technologists

平成 22 年度 日本赤十字放射線技師学会総会プログラム

6月10日(木)

- 9:30~10:00 受付
- 10:00~10:10 開会式 開会宣言 日本赤十字放射線技師学会会長 益井 謙
- 10:10~10:50 本社講演「赤十字を取り巻く医療環境について」
医療事業部 次長 竹内 賢治 様
座長 益井 謙 (会長)
- 11:00~12:10 学術講演「研究課題の見つけ方・すすめ方 -CT造影法を中心として-」
長野赤十字病院 八町 淳 様
座長 藤村 貴順 (CT分科会 盛岡)
- 12:10~13:00 ランチョンセミナー①
GEヘルスケア・ジャパン KK 事業部長 神田 宗宏 様
座長 石田 智広 (福井)
- 13:20~14:10 学術研究発表① 座長 八町 淳 (CT分科会 長野)
- ① 冠動脈 CTA における造影効果に影響する要因の検討
大阪赤十字病院 加賀 久喜
- ② 「死亡時画像検査」所見からの撮影条件の検討
大田原赤十字病院 中野 繁明
- ③ OPE 室 CT の年間使用実績とその有用性の検討
名古屋第一赤十字病院 山崎 絵莉
- ④ DPC 導入による CT 検査採算性の検討
名古屋第二赤十字病院 日置 竹志
- 14:20~15:10 学術研究発表② 座長 安彦 茂 (MR分科会 仙台)
- ⑤ ファントム実験による Gd 造影後における、in-phase ・ out-of-phase での脂肪評価の検証
松山赤十字病院 松村 茂
- ⑥ 頸動脈内膜剥離術 (CEA) 術前における非造影 MR 検査についての一考察
大阪赤十字病院 高津 安男
- ⑦ 四肢 MRI 検査におけるコイル選択と撮像条件設定の検討
大田原赤十字病院 大谷津 崇
- ⑧ 放射線技術課におけるインシデント事例の統計
和歌山医療センター 渡邊 真也
- 15:20~15:50 国際活動 座長 久保田 利夫 (前橋)
- ① 海外救援活動報告
日本赤十字社 和歌山医療センター 川村 佳生

② 海外救援要因として活動するためには

日本赤十字社 和歌山医療センター 口井 信孝

16:00~17:00 総会

17:00~ ナイトセミナー

東芝メディカルシステムズ

座長 清水 文孝 (深谷)

6月11日 (金)

9:00~10:00 学術研究発表③ 座長 川合 佳代 (乳房画像分科会 深谷)

⑨ ST マンモグラフィガイド下生検装置におけるポジショニング, ターゲッティング習得のための石灰化擬似ファントムの作成

さいたま赤十字病院 北山 早苗

⑩ 1 Shot Phantom における CNR の評価

京都第二赤十字病院 楠 理恵

⑪ マンモトームを使用したステレオガイド下バイオプシの技術的検討

鳥取赤十字病院 上田 阿希

⑫ ステレオガイド下マンモトーム装置導入の報告と検討

福岡赤十字病院 桑野 さゆり

⑬ 救急撮影における脊椎固定具が胸部画像に与える影響と画像評価

秋田赤十字病院 三浦 直樹

10:10~10:50 学術研究発表④ 座長 口井 信孝 (和歌山医療センター)

⑭ EPID を用いた IGRT における位置照合精度の検討

成田赤十字病院 大山 淳一

⑮ コリメータ回転軸外線量評価点に対応した MU 値検証プログラムの開発

神戸赤十字病院 西海 哲也

⑯ スタッフ間の早期情報共有化に対する取り組み~電子カルテ端末 (RIS 端末) の有効利用~

福井赤十字病院 西川 由梨

11:00~12:10 分科会報告 座長 浅妻 厚 (神戸)

①乳房検査の標準化について

MR 分科会 岩見 守人 (姫路)

②検査説明用 DVD 製作について

MR 分科会 高津 安男 (大阪)

③アンケート結果報告

CT 分科会 藤村 貴順 (盛岡)

12:10~13:00 ランチョンセミナー②

メジフィジックス

座長 清水 文孝 (深谷)

- 13 : 30～14 : 50 教育講演「放射線部における医療安全管理について」
京都大学医学部附属病院 放射線技師長 東村 享治 様
座長 辻 秀憲 (京都第二)
- 15 : 00～15 : 20 ブロック連絡会議
- 15 : 20～15 : 40 優秀発表賞表彰式
- 15 : 40～16 : 00 出席証明書授与および閉会式

平成 22 年度 日本赤十字放射線技師学術総会
学術総会報告

総務部 辻 秀憲

平成 22 年 6 月 10 日（木）～11 日（金）の 2 日間、会員 109 名（71 施設）出席のもとに、東京国際フォーラム G409 号室にて第 1 回学術総会が開催されました。今回は、本社が工事の関係で、東京国際フォーラムで開催。

挨拶には、日本赤十字放射線技師会 益井謙会長、そして、本社講演として医療事業部次長 竹内賢治様による「赤十字病院を取り巻く医療環境について」、学術講演は、CT 分科会世話人 長野赤十字病院 八町淳様による「研究課題の見つけ方・すすめ方 -CT 造影法を中心として-」、教育講演は、京都大学医学部付属病因技師長 東村享治氏による「放射線部における医療安全管理について」、この他に、国際活動をされている和歌山医療センターの 2 人による、海外救援活動報告、各分科会による報告、そして、今回、業者 3 社による、ランチョンセミナーやナイトセミナーを企画、GE ヘルスケアジャパン社大越厚氏による「医療におけるデータ共有の現状と将来」、日本メジフィジックス社高谷佳秀氏による「平成 22 年度 DPC 改定の概要と核医学検査の位置づけ」、東芝メディカルシステム社淀健治氏による「Everyday clinical Use ～日常臨床で有用な新しい領域の 3 テスラ Vantage Titan3T～」のそれぞれの講義であった。今回も、インターネット環境を準備し、会員に提供して HP の理解をしていただいた。また、参加者に、学術総会におけるアンケートを取り、今後の総会をさらに充実させるために協力をお願いした。

会員研究発表は、16 演題あり、CT、MRI、マンモ、治療その他とバラエティにとんだ研究発表で、それぞれ活発な質問や意見交換が飛びかわされ、有意義な研究発表であった。今年度も最優秀発表賞、優秀発表賞の最終選考が行われ、以下の 4 名の方々が受賞されました。また、今回、特別賞として、日本赤十字社の医療事業部次長賞を設け、海外救援活動の和歌山医療センターの 2 人が受賞されました。

最優秀発表賞

楠 理恵氏（京都第二赤十字病院）

優秀発表賞

加賀 久喜氏（大阪赤十字病院）

高津 安男氏（大阪赤十字病院）

西海 哲也氏（神戸赤十字病院）

次長賞

和歌山医療センター 川村 佳生氏、口井 信孝氏

10 日（木）の午後 4 時から、第 57 回定期総会が行われました。11 日（金）の午後 3 時 30 分には、研修会が終了し、その後、各ブロック別連絡会議が行われ、午後 4 時には、全行程を終了しました。

以上

日本赤十字放射線技師学術総会の船出

日本赤十字放射線技師会 会長 益井 謙

その日、平成 22 年 6 月 10 日、東京国際フォーラムは、陽光を閉じ込め、多湿の東京湾の浜風を、その船型の美体になびかせていた。この日、我々の日本赤十字放射線技師学術総会は、この母船に姿を遷して新たな青史を刻む処女航海に出帆するのだ。その日、梅雨前線北上直前の天は、抜けるような青空で我々に微笑んでいた。

従来の業務研修会の旧名を廃し、学術総会として新生船出した航海日誌の一頁目は、東京フォーラム G409 より始まると記されたのである。

時代は、大航海時代の再来の如く、風雲と嵐を呼び、その荒天波乱に人々を怖気付かせていたが、フォーラムの艦橋の G409 会議場に集結した会員は、上気しながらも至って平静平穏であった。荒海を恐れぬ時代を担う者の気概は、何時でも湿れる松明を燃やすように静かな風の様相を帯びるものなのである。

そこでは、全国の赤十字病院の担い手や舵取りが、100 名以上参集して、赤十字医学総会と棲み分けを目指した自立した新システムを理解し、能動的機能的に刷新されたパフォーマンスを、自ら淡々と努めていくのである。

そこは自然科学世界の大海原、その波頭を乗り越え、各々が積極的に活用運営勇躍する場であり、舞台なのである。学術発表は、学術分科会の長（おさ）が、航海長として取り仕切る。本社講演は燈台。眩しいが航路を照らす。学術講演や教育講演は羅針盤。知的好奇心の方向性を示し、航路の学術的方向性を確保する。災害救護や分科会報告はバラストやキール。船体を安定させ、実学の荷崩れを防ぐ。

役員である各理事は、水面下の船底で煮えたぎった内燃機関に油を注ぎ、パワーを加減する海技機関士であり、全国の通信網を制御する IT 通信士でもある。喫水線を挟み、水面上と水面下と運命共同体（船体）の協調に拠り、航跡の乱れを補正する。

今や 57 年利用した懐かしの埠頭の岸から離れ、雄々しいチームスピリットの汽笛を響かせて学問の水平線の彼方に向かって船出した。

船出の夜、7 階の最上艦橋では、満天の星の如き大都の夜景に眼を瞠りながら、向上無限の航海の安全を各々が祈願したのである。

平成 23 年度

日本赤十字放射線技師学術総会

東日本大震災のため中止となる

全国赤十字放射線技師学術総会の中止について

日本赤十字放射線技師会 会長 益井 謙

3. 11 東日本大震災は、1000 年に 1 度の未曾有さと、その被災地の広域性に因り、瞬時に多くの犠牲者と被災者を伴う大惨事となりました。此処に、深い哀悼の念とお見舞いを捧げるものであります。

日本赤十字社は、災害救助法 第 31 条に基づく災害救助の責務を担っていますが、我々赤十字放射線技師会の会員も、DMAT や救護班の一員として被災現場で引き続き救助活動を行っています。

特に、震災で誘発された福島第一原子力発電所の事故に対処する為、日本赤十字社長崎原爆病院や広島赤十字・原爆病院は、当初より福島に腰を据え、放射線被曝や放射能汚染に懸命に対処して来られました。

歴史的にどんな災禍であっても、常に救助、救済、復興、振興の順を踏み出し雄々しく再建されるものですが、今回は救助から救済までの本戦が長期化の様相を呈して来ています。そういった現状下で今後も、赤十字の一員として、診療放射線技師として、その専門性を活かした救済活動の一翼を担うことが想定されています。

当会は、例年 6 月に全国赤十字放射線技師学術総会を恒例行事とし、学術の振興と組織の運営を報告し、その活動を精査して戴いて来ました。大震災の影響が色濃く反映する時局に直面する中、4 月 22 日、全国理事会を臨戦下の赤十字本社で開催致し、様々な観点から、我々の活動について、多様な可能性を全員で協議しました。その結果、学術総会を以下の如く決議致しました。

有事の際の特例として、有事に叶った覚悟を示す決議だと思っています。時節柄、各位のご理解とご協力、そしてご支援を賜りますようお願い申し上げます。

記

1,平成 23 年度 全国赤十字放射線技師学術総会 (23.6.7~8) は、開催中止する。

2,学術発表は、日赤医学総会 (23.10.20~21) に登録の移籍を依頼するか、又は JRCART の HP 上で web 発表を奨励する。

3,第 58 回定期総会 (23.6.7 予定の) は、JRCART の HP 上で web 開催とし、活動報告を審議し、会計報告は会員への周知徹底と理解を求める為、ネットワークとあらゆる通信手段を用いて行うこと。

4,今回の一連の特例事案について、常任理事並びにブロック理事は、手段と方法を尽くして会員に説明し、得心して戴くこと。

以上

平成 24 年度

日本赤十字放射線技師学術総会

期 間 平成 24 年 5 月 31 日 (木) ~ 6 月 1 日 (金)

会 場 東京国際フォーラム ホール D5

日 本 赤 十 字 放 射 線 技 師 会

Japanese Red Cross Association of Radiological Technologists

平成 24 年度 日本赤十字放射線技師学術総会プログラム

【5月31(木)】

9:00～9:30 受付

9:40～9:40 開会式 開会宣言 日本赤十字放射線技師会会長

9:40～10:20 本社講演 座長 日本赤十字放射線技師会 会長 清水 文孝 (深谷赤十字)
「赤十字病院の現状と課題」
医療事業部次長 飯嶋 喜史 様

10:30～11:30 特別講演 座長 副会長 久保田 利夫 (前橋赤十字)
「東日本大震災における石巻赤十字病院の対応」
石巻赤十字病院 第1放射線技術課長 及川 順一 先生

11:50～12:40 ランチョンセミナー① 座長 加賀 久喜 (大阪赤十字)
「ZIOSTATION の最新技術紹介」

13:00～14:00 災害医療分科会活動報告 座長 副会長 久保田 利夫 (前橋赤十字)
1.医療機器支援活動報告 駒井 一洋 (名古屋第二赤十字病院)
2.放射線被ばく医療支援活動報告1 坂井 征一郎 (唐津赤十字病院)
3.放射線被ばく医療支援活動報告2 森 幹司 (日本赤十字社 長崎原爆病院)
4.災害医療アンケート報告 坂井 征一郎 (唐津赤十字病院)

14:10～14:50 学術研究発表① 座長 宇田 暢樹 (小川赤十字)
1.手指の撮像における自作 Sat Pat の検討
松山赤十字病院 高橋 奈津樹
2.静音化技術が SE 撮像へ及ぼす影響の基礎的検討
名古屋第一赤十字病院 村井 康史
3.手術中 MRI 導入時の安全確保についての取り組み
伊勢赤十字病院 谷貞 和明
4.安全な検査をおこなうためにー3.0 テスラ MRIー
大田原赤十字病院 佐藤 統幸

15:10～16:10 総会

16:10～17:00 イブニングセミナー 座長 副会長 辻 秀憲 (京都第二)
「医用モニタの品質管理と最新技術」
株式会社ナナオ 品質保証部 技術管理課 医療規格グループ 橋本 憲幸 先生

17:30～ 情報交換会 7F ラウンジ

【6月1日（金）】

9:00～9:30 学術研究発表②

座長 加藤 秀之(松江赤十字)

5.画像データ外部保管サービスの導入

深谷赤十字病院 富田 欣治

6.CT 検査予約の現状と今後への対策

和歌山医療センター 川嶋 宏樹

7.MRI 検査業務内容の見直しをおこなって（1.0T から 1.5T、3.0T へ）

足利赤十字病院 中室 智之

9:40～10:20 学術研究発表③

座長 細川 博明(松山赤十字)

8.X 線防護衣の QC

武蔵野赤十字病院 藤岡 由紀

9.体検出器を用いた X 線アナライザによる品質管理の有用性について

神戸赤十字病院 野山 恭旦

10.診断用 CT を用いた肝機能測定ソフトの検討

伊勢赤十字病院 森嶋 毅行

11.治療台回転精度の検証

広島赤十字・原爆病院 渡邊 良彦

10:40～11:30 分科会報告

座長 竹安 直行(医療センター)

1.分科会

河本 勲則(京都第二赤十字病院)

2.情報分科会

加藤 秀之(松江赤十字病院)

11:30～11:50 ブロック連絡会議

12:10～13:10 ランチョンセミナー②

座長 安彦 茂(仙台赤十字)

「シーメンスの MR 最新技術」

シーメンスジャパン(株) MR ビジネスマネージメント部 諸井 貴 先生

13:30～15:00 教育講演

「チーム医療におけるノンテクニカルスキルの重要性」

大阪大学医学部附属病院 中央クオリティマネジメント部 部長・病院教授

中島 和江 先生

15:20～15:40 優秀発表 表彰式

15:40～16:00 出席証明書授与および閉会式

年度別 定期総会

平成16年

第51回定期総会資料

日 時 平成16年6月23日（水）午後3時40分より

会 場 日本赤十字社 本社201会議室

総会次第

開会の辞

会長挨拶

表 彰

来賓挨拶

議長選出

議 事

1・平成15年度 会務報告

2・平成15年度 事業報告

3・平成15年度 決算報告

4・平成15年度 監査報告

5・平成16年度 事業計画案

6・平成16年度 予算案

7・その他

閉会の辞

日本赤十字放射線技師会

平成 15 年度 会務報告

1. 会員数

| | |
|--------|---------|
| 前年度会員数 | 1,086 名 |
| 新入会員数 | 50 名 |
| 退会会員数 | 37 名 |
| 現在会員数 | 1,099 名 |

2. 会議ならびに事業

| | | |
|--------------------------------------|---------------------------|----------------------------|
| 平成 15 年度全国赤十字病（産）院 診療放射線技師業務研修会開催 | 平成 15 年 6 月 3 日～4 日 | 日本赤十字社 201 会議室 |
| 第 50 回定期総会開催 | 平成 15 年 6 月 3 日 | 日本赤十字社 201 会議室 |
| 平成 15 年度監査(会計,会務) | 平成 16 年 4 月 22 日 | 日本赤十字社 202 会議室 |
| 平成 15 年度理事会開催 | 平成 16 年 4 月 22 日 | 日本赤十字社 202 会議室 |
| 常任理事会 第 1 回 | 平成 15 年 4 月 22 日 | 日本赤十字社医療センター内会議室 |
| 第 2 回 | 平成 15 年 7 月 26 日 | 日本赤十字社 202 会議室 |
| 第 3 回 | 平成 15 年 10 月 3 日 | 日本赤十字社 202 会議室 |
| 第 4 回 | 平成 16 年 3 月 12 日 | 日本赤十字社 202 会議室 |
| 表彰委員会 | 平成 15 年 10 月 3 日 | 常任理事会開催時推薦事項確認 |
| | 平成 16 年 3 月 31 日 | 推薦締め切り |
| | 平成 16 年 4 月 22 日 | 理事会開催時表彰者決定 |
| 学術部 | 中村副会長を中心に山縣理事による学術活動 | |
| 広報部 | 松尾副会長を中心に岩井理事による会誌編集活動 | |
| | 平成 16 年 2 月 1 日 | 会誌発行(vol.45) |
| 企画部 | 松尾副会長を中心に小川理事によるアンケート分析報告 | |
| | 日本赤十字放射線技師会のホームページ開設に向けて | |
| 組織調査部 | 森副会長を中心に川上理事による会員台帳調査活動 | |
| 財務部 | 森副会長を中心に長永理事による会費徴収と財務管理 | |
| 総務部 | 星野会長を中心に松山理事による会議運営と議事録作成 | |
| 事務局 | 星野会長を中心に中里理事による会務事務処理 | |
| 日赤放技ニュース発行 | 平成 15 年 8 月 20 日 | No.1 日赤放技ニュース発行 |
| | 平成 15 年 12 月 15 日 | No.2 日赤放技ニュース発行 |
| | 平成 16 年 3 月 19 日 | No.3 日赤放技ニュース発行 |
| 慶事(祝電) | 平成 16 年 12 月 8 日 | 横山 幸夫様(名誉会員)瑞宝双光章 受賞祝賀会 |

他 2 通

ブロック活動報告

| | | |
|--------------------|------------------------|---------------|
| 第 13 回北海道ブロック学術研修会 | 平成 15 年 9 月 27 日～28 日 | 当番病院 伊達赤十字病院 |
| 第 4 回九州ブロック学術研修会 | 平成 15 年 10 月 4 日～5 日 | 当番病院 長崎原爆病院 |
| 第 16 回東部ブロック学術研修会 | 平成 15 年 11 月 29 日～30 日 | 当番病院 長岡赤十字病院 |
| 第 12 回近畿ブロック学術研修会 | 平成 16 年 2 月 21 日～22 日 | 当番病院 京都第赤十字病院 |

各部事業報告

【広報部】 岩井 計成 (日本赤十字社 和歌山医療センター)

(1) 会誌発行について

本年度の会誌は、予定通り 2 月 1 日に発行しましたが、発送作業に手間取り会誌発送が遅れましたこと
をお詫

申し上げます。

(2) 会誌配布先

例年通り、会員・施設長・広告掲載社をはじめ国立国会図書館・日本放射線技師会及び広告掲載
見送り会社等に配布しました。

内容は以下の通りです。

会員 1,109 部、名誉会員 7 部、施設長 92 部、日赤本社医療事業部 6 部、関係諸団体 2 部
原稿依頼者 2 部、広告掲載業者 15 部、その他 10 部 (配布部数 1,243 部、印刷部数 1,300 部)

その他は、広告未掲載会社(会誌を見て再検討していただくため)に配布し、また残りは、来年度に原
稿を依頼する方々に参考として見て頂くため配布する予定です。

(3) 会誌内容

研修会報告を始め各ブロックの活動報告を掲載しました。施設紹介では、6 施設の投稿協力が得られ
ました。そして、診療放射線技師の教育について、現在教育の現場に携わっておられる駒澤大学教授
の山本先生と名誉会員・会員の方から意見を頂きました。また、多方面からの見解に耳を傾けられる
ように民間の先生から原稿 を頂きました。

(4) 会誌編集委員会は必要時随時開催して計画を練りました。

(5) 会誌発行に関する経費は会計決算報告の通りです。

以上

【学術部】 山縣 徳治 (水戸赤十字病院)

(1)平成 15 年度全国赤十字病(産)院診療放射線技師業務研修会・50 周年記念大会において以下の様に行い
ました。

1・創立 50 周年記念講演 『四年制大学の診療放射線技師教育について』

駒澤大学医療健康科学学部教授 山本 裕右先生

2・学術講演 『ヒューマンファクター工学からみた医療システムの安全性』

東京電力株式会社 技術開発研究所主管研究員 河野 龍太郎先生

教育公演 『グレートジャーニー 地球を這って考えたこと』

武蔵野美術大学教授・医師探検家 関野 吉春先生

3・創立 50 周年記念シンポジウム

『アナログからデジタルへ～マンモグラフィーの現状と将来』

座長：名古屋第 2 赤十字病院 新美 孝永

シンポジスト：福井赤十字病院 西郡 克寛氏 小川赤十字病院 田中 達也氏
益田赤十字病院 栗山 靖之氏 伊達赤十字病院 千葉 真貴子氏
大津赤十字病院 本田 真理子氏 日赤医療センター 青山 恵巳氏

4・各分野から 10 題の演題発表がありました。多忙な業務にもかかわらず、会員の皆様のご努力に深く感謝いたします。

(2) 学術表彰

奨励賞に値するとして 5 施設を表彰委員会に推薦しました。

(3) 長期活動テーマ

「CR での小児科・産婦人科系の撮影条件の最適化」としてパラメータと撮影条件の調査を行った。しかし、認識不足のため一社に偏った調査方式となり、他の二社ユーザーの施設にはご不快思いをさせてしまい、お詫び申し上げます。また、全施設から回答が得られなかった点とお聞きした点と別回答をした施設があったため、以上の三点については来年度、再調査いたします。

メーリングリスト

全国赤十字病院 96 施設の会員間の学術上、業務上の情報交換を目的としたメーリングリストを名古屋第二赤十字病院様のご厚意により開設しております。会員であればどなたでも参加できます。

申し込み方法：申込者の氏名及び所属施設を明記したメールを下記までお送りください。

art-ac-admin@nagoya2.jrc.or.jp

以上

【企画部】 小川 正（大津赤十字病院）

今年度実施した業務・組織アンケート調査の結果を分析し、各施設における放射線部門の実態を比較検討しました。今回は救急部門をはじめ多くの項目についてお伺いいたしました。

結果集約を理事会にて報告し、会員皆様のお手元にお届けいたしました。

放射線部門業務体制の多様化への課題

学士資格取得者の待遇改善推進

各施設開催委員会等への放射線部責任者の積極的な参加推進

放射線部門の電子化への情報提供

このような課題を技師会活動に取り込んで頂くよう理事会にて提案いたしました。

また日本赤十字放射線技師会のホームページ開設に向けての検討を行いました。アンケートの結果からも多く会員が開設を希望しており、方向性を見出すことができました。

以上

【組織調査部】 川上 直志（横浜赤十字病院）

会員台帳の整備を目的に調査しました。広報、財務、事務局と連絡を取り合って調査をし、年度ごとに 1 枚のフロッピーで保管、管理をしました。

尚、会員の皆様には、調査にご協力いただき感謝申し上げます。

以上

【表彰委員会】 並木 荘一 (成田赤十字病院)

会員及びブロック理事、各施設技師(課)長を通じて幅広く調査し、表彰規定に基好き表彰者の推薦をいただきました。

4月22日の理事会で、本年度表彰対象者を下記のとおり決定いたしました。

1・功労賞 (第2条の1)

荒川 洋 (水戸赤十字病院) 長谷川 隆雄 (松山赤十字病院)
田村 悟郎 (長岡赤十字病院) 敬称略 順不同

2・奨励賞 (第2条の2)

[個人] 小林 篤 (山田赤十字病院) 敬称略
[施設] 長浜赤十字病院 放射線科部

3・感謝状 (第2条の3)

[個人] 口井 信孝 (和歌山医療センター) 敬称略
[施設] 該当施設なし

一般会計決算報告書

| 収入の部 | | | | | 支出の部 | | | | |
|--------|-----------|-----------|---------|---------------|---------|-------------------------|-----------|------------|--------------|
| 科目 | 15年度予算額 | 15年度決算額 | 増減 | 備考 | 科目 | 15年度予算額 | 15年度決算額 | 増減 | 備考 |
| 会費 | 3,258,000 | 3,264,000 | 6,000 | 3,000円×1,088名 | 総会研修会費 | 500,000 | 412,425 | △87,575 | 総会研修会運営費 |
| 過年度会費 | 63,000 | 36,000 | △27,000 | 3,000円×12名 | 会議費 | 1,500,000 | 1,211,195 | △288,805 | 常任理事会・理事会費 |
| 入会金 | 20,000 | 50,000 | 30,000 | 1,000円×50名 | 役員活動費 | 119,000 | 115,500 | △3,500 | 3,500×33名 |
| 雑収入 | 1,000 | 0 | △1,000 | | ブロック活動費 | 350,000 | 200,000 | △150,000 | 50,000×4ブロック |
| 前年度繰越金 | 1,112,573 | 1,112,573 | 0 | | 表彰費 | 150,000 | 119,438 | △30,562 | 賞状副賞・活動費 |
| | | | | | 学術部費 | 200,000 | 22,640 | △177,360 | 活動費 |
| | | | | | 財務部費 | 50,000 | 36,116 | △13,884 | 活動費 |
| | | | | | 組織調査部費 | 50,000 | 15,200 | △34,800 | 活動費 |
| | | | | | 広報部費 | 50,000 | 48,520 | △1,480 | 活動費 |
| | | | | | 企画部費 | 100,000 | 45,200 | △54,800 | 活動費 |
| | | | | | 会誌発行費 | 500,000 | 500,000 | 0 | 会誌特別会計へ繰出し |
| | | | | | 事務局費 | 400,000 | 315,399 | △84,601 | 活動費 |
| | | | | | 慶弔費 | 30,000 | 1,050 | △28,950 | 祝電その他 |
| | | | | | 基金積立金 | 30,000 | 30,000 | 0 | 特別積み立て基金へ繰出し |
| | | | | | 予備費 | 425,573 | 0 | △425,573 | |
| 合計 | 4,454,573 | 4,462,573 | 8,000 | | 合計 | 4,454,573 | 3,072,683 | △1,381,890 | |
| | | | | | | 残金1,389,890円は次年度へ繰越し | | | |
| | | | | | | 以上のとおり報告いたします。 財務部 長永徳秀 | | | |

平成15年度会誌特別会計決算報告書

平成16年3月31日現在

| 収入の部 | | | 支出の部 | | |
|--------------|-----------|----------------|----------|-----------|------------|
| 科目 | 金額 | 備考 | 科目 | 金額 | 備考 |
| 前年度繰越金 | 473,934 | | 会誌印刷・郵送費 | 850,500 | 印刷、発行費 |
| 利息収入 | 6 | 銀行振り込 | 通信費 | 43,310 | 切手、はがき代・送料 |
| 会誌(44号)未納広告料 | 130,000 | 5万円×1社・8万円×1社 | 事務消耗品費 | 23,556 | 事務用品代 |
| 会誌(45号)広告料 | 780,000 | 5万円×14社・8万円×1社 | 原稿依頼費 | 106,200 | 現金及び図書カード |
| 会誌(46号)前払広告料 | 50,000 | 5万円×1社 | | | |
| 会誌発行費 | 500,000 | 一般会計より | 次年度繰越金 | 910,374 | |
| | 1,933,940 | | | 1,933,940 | |

上記のとおり報告いたします

日本赤十字放射線技師会

広報部長 岩井 計成

平成15年度全国赤十字放射線技師業務研修会決算報告書

平成15年6月3日、4日

| 収入の部 | | | 支出の部 | | |
|------|-----------|--------------|-------|-----------|---------------|
| 項目 | 金額 | 備考 | 項目 | 金額 | 備考 |
| 会費 | 1,160,000 | 10,000円×116名 | 通信費 | 43,594 | 抄録誌発送費 |
| | | | 印刷費 | 184,800 | 抄録誌印刷代 |
| | | | 食費 | 308,437 | 弁当代、飲料水等(2日分) |
| | | | 雑費 | 69,550 | 記念品代 |
| | | | 会議費 | 207,060 | 会場使用料 |
| | | | 研修費 | 310,000 | 3名の講師謝礼 |
| | | | 準備調査費 | 36,559 | |
| 合計 | 1,160,000 | | 合計 | 1,160,000 | |

総務部 松山 繁

監査報告書

平成 16 年 4 月 22 日（木）午前 10 時より、日本赤十字本社内において、日本赤十字放射線技師会会則第 3 章第 15 条に基づき、

- 1・平成 15 年度特別積立金
- 2・平成 15 年度会誌特別会計
- 3・平成 15 年度業務研修会決算
- 4・平成 15 年度一般会計決算
- 5・平成 15 年度会務（年度事業計画に基づく）

以上の証拠書類の照合および検算を厳正に監査した結果、いずれも適正に行われていたことを認めます。

平成 16 年 4 月 22 日

監事 鈴木 利男 (印)

監事 黒田 順平 (印)

各部事業計画案

【広報部】 岩井 計成（日本赤十字社 和歌山医療センター）

- (1) 昨年同様グローバルな見解に耳を傾けられるよう多方面からの方々に原稿を依頼するとともに、幅広い分野から今一度自分たちを見直すことが出来る会誌作りを行います。今年も、私達診療放射線技師の職務に関連した内容を取り上げ、それについて各方面の方々から意見を頂きたいと考えています。
- (2) 研修会や学術発表等、会としての方向性がわかるような会誌作りを行います。
- (3) 各委員会やブロックからの情報、各部からの報告等を十分考慮し掲載します。
- (4) 会員間の情報提供の場として、活用してもらえよう考慮します。
- (5) 会誌発行は平成 17 年 2 月を目処に作成します。

以上

【学術部】 山縣 徳治（水戸赤十字病院）

- (1) 全国赤十字病(産)院診療放射線技師業務研修会における会員研究発表と教育学術講演は、会員の資質向上に役立ちその意義は大きく、平成 16 年度についても次の事項を従来通り継続していきます。
 - ・会員の研究発表及び会誌投稿の機会を与えます。
 - ・会員の学術表彰を受けられる機会を与えます。
- (2) 前年度、不備のあった [CR での小児科・産婦人科系の撮影条件の最適化] について調査内容・項目等を検討し再調査します。
- (3) メーリングリストへの参加を促進し、活発な意見・情報の交換の場としていきます。会員の皆様のご協力をお願いします。

以上

【企画部】 小川 正（大津赤十字病院）

今年度は日本赤十字放射線技師会ホームページ開設を行います。

昨年度実施アンケート結果をもとにホームページが果たす役割を再検討し、会員が期待する情報が提供できるものとなるよう企画するとともに、新鮮な情報がすばやく反映できる体制を検討していきます。

なおこの分野にたけた会員でご協力いただける方がおられましたらお知らせください。

今年度より独立行政法人となった国立病院での現状を、今まで企画部にて実施したアンケート調査を基に当会活動に生かせるよう比較検討を行います。

以上

【組織調査部】 川上 直志（横浜赤十字病院）

平成 16 年度も継続して会員台帳の整備と充実を図ります。

会員の皆様のご協力をお願いします。

以上

【表彰委員会】 並木 荘一（成田赤十字病院）

表彰対象者の方は本会の名誉であり、また本会の活動のアピールともなります。本年度も表彰規定に該当する方を会員各位のご協力をいただき漏れなく調査いたします。 以上

平成16年度一般会計予算(案)

| 収 入 の 部 | | | | | 支 出 の 部 | | | | |
|---------|-----------|-----------|---------|---------------|---------|-----------|-----------|---------|-------------|
| 科 目 | 15年度予算額 | 16年度決算額 | 増 減 | 備 考 | 科 目 | 15年度予算額 | 16年度決算額 | 増 減 | 備 考 |
| 会費 | 3,258,000 | 3,357,000 | 99,000 | 3,000円×1,119名 | 総会研修会費 | 500,000 | 500,000 | 0 | 総会研修会運営費 |
| 過年度会費 | 63,000 | 60,000 | △ 3,000 | 3,000円×20名 | 会議費 | 1,500,000 | 1,500,000 | 0 | 常任理事会・理事会費 |
| 入会金 | 20,000 | 20,000 | 0 | 1,000円×20名 | 役員活動費 | 119,000 | 119,000 | 0 | 3,500×34名 |
| 雑収入 | 1,000 | 196,950 | 195,950 | 50周年記念事業残金 | ブロック活動費 | 350,000 | 350,000 | 0 | 50000×4ブロック |
| 前年度繰越金 | 1,112,573 | 1,389,890 | 277,317 | | 表彰費 | 150,000 | 200,000 | 50,000 | 賞状副賞・活動費 |
| | | | | | 学部部費 | 200,000 | 200,000 | 0 | 活動費 |
| | | | | | 財務部費 | 50,000 | 50,000 | 0 | 活動費 |
| | | | | | 組織調査部費 | 50,000 | 50,000 | 0 | 活動費 |
| | | | | | 広報部費 | 50,000 | 50,000 | 0 | 活動費 |
| | | | | | 企画部費 | 100,000 | 200,000 | 100,000 | 活動費 |
| | | | | | 会誌発行費 | 500,000 | 700,000 | 200,000 | 会誌特別会計へ繰出し |
| | | | | | 事務局費 | 400,000 | 400,000 | 0 | 活動費 |
| | | | | | 慶弔費 | 30,000 | 30,000 | 0 | 祝電その他 |
| | | | | | 基金積立金 | 30,000 | 50,000 | 20,000 | 特別積立基金へ繰出し |
| | | | | | 予備費 | 425,573 | 624,840 | 199,267 | |
| 合 計 | 4,454,573 | 5,023,840 | 569,267 | | 合 計 | 4,454,573 | 5,023,840 | 569,267 | |

平成 17 年

第 52 回定期総会資料

日 時 平成 17 年 6 月 14 日（火）午後 18 時 45 分より

会 場 日本赤十字社 本社 201 会議室

総会次第

開会の辞
会長挨拶
表 彰
議長選出
議 事

- 1・平成 16 年度 会務報告
- 2・平成 16 年度 事業報告
- 3・平成 16 年度 決算報告
- 4・平成 16 年度 監査報告
- 5・平成 17 年度 事業計画案
- 6・平成 17 年度 予算案
- 7・その他

閉会の辞

日本赤十字放射線技師会

16 年度事業報告

平成 16 年度は国の内外を問わず、自然災害が多発した年でした。技師会員の中にも被災した方がいると思いますが、心よりお見舞い申し上げます。

赤十字放射線技師会の 16 年度事業計画を基に事業を進め、本社研修会では日光東照宮禰宜による教育講演と、放医研の赤羽先生による放射線防護についての講演を企画実行しました。又会員の研究発表も 18 演題と最近になく多いとともに、10 月の長野県で開催された日本赤十字医学会総会でも、放射線技術部門で 17 演題と年々増加しており会員の職業倫理の高揚をうかがわせます。

企画部の努力により、懸案であった赤十字放射線技師会のホームページも 12 月には開設されました。開設間もないためまだ不備の点もあると思いますが、徐々に充実して行こうと思います。これには会員の皆様の情報提供が必要不可欠ですので、是非ご協力をお願いします。

また医療事業部企画課長と話し合いの場を持ち、放射線技術部の必要性を訴えましたが、本社側では各赤十字病院を参考にして、各部門の標準を作成することとすることで特に進展はありませんでしたが、企画部で行なった独立行政法人国立病院機構のアンケートを参考に、今後の話し合いに望みたいと思います。

1. 会員の職業倫理の高揚に関する事業

本社医療事業部との話し合いの場を持ち、放射線技師が関与した医療訴訟、国際救援、職制等について話し合いました。

日光東照宮の 青山隆生 禰宜を講師に招き教養の向上に努めました。

2. 学術講演ならびに研究発表会に関する事業。

全国赤十字病（産）院診療放射線技師業務研修会を平成 16 年 6 月 23 日・24 日

の 2 日間本社 201 会議室で開催し 73 施設 113 名の参加があり、18 演題の発表がありました。

又、長野で開催された日本赤十字医学会総会に多数の参加を見ると共に 17 演題の発表がありました。

3. 放射線安全管理の徹底及び被曝軽減に関する事業。

放射線医学総合研究所の 赤羽恵一 先生を講師に招き放射線防護について聴講しました。

4. 会誌・日赤放技ニュース・その他印刷物の発行事業

計画どおりに発行しました。

5. 会員相互の福利厚生に関する事業。

慶弔規定に則り対応しました。

6. その他本会の目的達成に必要な事業。

ブロック研修会は 4 ブロックで開催しました。

平成 16 年 12 月にホームページを開設しました。

各部事業報告

【広報部】 岩井 計成 （日本赤十字社 和歌山医療センター）

（1）会誌発行について

本年度の会誌は、予定通りに平成 17 年 2 月 1 日に発行いたしました。会誌発送の際の不幸により、会員の皆様にご迷惑をお掛けしましたこととお詫び申し上げます。

（2）会誌配布先

例年どおり、会員・施設長・広告掲載会社をはじめ国立国会図書館・日本放射線技師会及び広告掲載見送り会社等に配布しました。

内容は以下のとおりです。

会員 1,133 部、 名誉会員 8 部、 施設長 92 部、 日赤本社医療事業部 6 部、
関係諸団体 2 部、 原稿依頼者 5 部、 広告掲載業者 14 部、 その他 11 部

（配布部数 1,271 部、 印刷部数 1,300 部）

その他は、広告未掲載会社（会誌を見て再検討していただくため）に配布しました。

（3）会誌内容

研修会報告を始め各ブロックの活動報告を掲載しました。施設紹介では、6 施設の投稿が得られ、そして、OB、会員の方から多くの投稿協力を頂きました。

特別寄稿として、武蔵野赤十字病院 医療安全推進室長・矢野先生に、「医療事故防止マニュアル不要論」と題しまして、日常の業務における我々医療スタッフの安全に対する心掛け等について原稿を頂き、泉州救命救急センター・技師長の坂下先生には、「診療放射線技師の教育について思うこと」と題しまして、実際に専修学校において学生を教えておられる教師の立場から、これからの診療放射線技師教育に必要な事を投稿して頂きました。また、グローバルな見解に耳を傾けられるよう智弁学園和歌山高校 野球部監督・高嶋先生より原稿を頂戴しました。

（4）会誌編集委員会は必要時随時開催して計画を練りました。

（5）会誌発行に関する経費は会計決算報告のとおりです。

以上

【学術部】 山縣 徳治 （水戸赤十字病院）

（1）学術部技術報告集（1988～2002）を新美孝永氏・真野晃浩氏・日置竹志氏・中村覲郎氏（名古屋第二赤十字病院）が編集され、各施設へ配布していただきました。

（2）平成 16 年度全国赤十字病（産）院診療放射線技師業務研修会において以下の様に行いました。

1・教育講演 『世界遺産に登録された日光東照宮』

日光東照宮 禰宜 青山 隆生 先生

学術講演 『医療と放射線防護』

放射線医学総合研究所 医学物理部 赤羽 恵一 先生

2・各分野から 18 題の演題発表がありました。多忙な業務にもかかわらず、会員の皆様のご協力に深く感謝いたします。尚、各演題の抄録・スライド原稿は日本赤十字放射線技師会ホームページに掲載いたしました。

- (3) 長期活動テーマ「CRでの小児胸部撮影および産婦人科骨盤計測の撮影条件と処理パラメータ」の再調査を行いました。
- (4) 全国赤十字病（産）院の会員間の学術上、業務上の情報交換を目的としたメーリングリストを名古屋第二赤十字病院様のご厚意により開設しております。会員であればどなたでも参加できます。
- 申し込み方法：申込者の氏名及び所属施設を明記したメールを下記までお送り下さい。

art-ac-admin@nagoya2.jrc.or.jp

以上

【企画部】 小川 正 （大津赤十字病院）

今年度は昨年行った日赤医療施設へのアンケート調査をふまえ同じ厚生労働省管轄の全国組織である国立病院機構医療施設へのアンケート調査を行い集約をレポートとしてまとめ理事会にて報告するとともに、ご協力頂きました国立病院医療施設および全国赤十字医療施設放射線科部責任者に送付致しました。

また日本赤十字放射線技師会ホームページを立ち上げ、会員への情報提供の場として活用できる土台作りを行いました。内容も新しい情報があり次第掲載し充実するように更新しています。また各ブロック情報を掲載できるよう現在各ブロックに情報提供を呼びかけています。ご協力をお願い致します。

日本赤十字放射線技師会ホームページ

HTTP : www.jrcart.jp

Mail Address : info@jrcart.jp

以上

【組織調査部】 川上 直志 （横浜市立みなと赤十字病院）

平成 16 年度は会員台帳の調査開始を 4 月下旬から開始しました。総会までに今年度の会員数の把握につとめました。お手数を掛けすみませんでした。尚、会員の皆様には、調査にご協力いただき感謝申し上げます。

以上

【表彰委員会】 並木 荘一 （成田赤十字病院）

- (1) データベースにより表彰委員会にて確認した奨励賞の推薦者について各個人、施設について表彰委員にて確認を行いました。
- (2) 平成 17 年 1 月に全国の日赤病院の放射線科部の技師長・課長宛と、取りまとめをお願いする日赤技師会ブロック理事・委員宛に郵送した表彰の推薦書の返信を確認してまとめました。
- 4 月 22 日の理事会で、本年度の表彰対象者を下記のとおり決定しました。

功労賞（第2条の1）

増田 淑雅（名古屋第一赤十字病院）
 中村 裕貴（成田赤十字病院）
 石井 出一（石巻赤十字病院）
 藤原 信行（大分赤十字病院）

服部 昭（長浜赤十字病院）
 山本 祐司（大津赤十字病院）
 大関 魁造（長岡赤十字病院）

敬称略 順不同

奨励賞（第2条の2）

[個人]有賀 英司（名古屋第二赤十字病院）

西村 英明（福井赤十字病院）

[施設]福井赤十字病院 放射線科部

敬称略 順不同

感謝状（第2条の3）

個人、施設とも該当者なし

以上

| 平成16年度一般会計決算報告書 | | | | | | | | | |
|---|-----------|-----------|---------|---------------------|--|-----------|-----------|------------|---------------|
| 平成17年度3月31日現在 金額(円) | | | | | | | | | |
| 収入の部 | | | | | 支出の部 | | | | |
| 科目 | 16年度予算額 | 16年度決算額 | 増減 | 備考 | 科目 | 16年度予算額 | 16年度決算額 | 増減 | 備考 |
| 会費 | 3,357,000 | 3,375,000 | 18,000 | 3,000×1125名 | 総会費 | 500,000 | 150,170 | △349,830 | 総会運営費 |
| 過年度会費 | 81,000 | 81,000 | 0 | 14年度分-9名、H15年度分-18名 | 会議費 | 1,500,000 | 1,099,246 | △400,754 | 常任理事会・理事会費 |
| 入会金 | 20,000 | 42,000 | 22,000 | 1,000×42名 | 役員活動費 | 119,000 | 112,000 | △7,000 | 3,500×32名 |
| 雑収入 | 196,950 | 292,086 | 95,136 | 0周年記念事業残金、研修会残金 | ブロック活動費 | 350,000 | 200,000 | △150,000 | 50,000×4ブロック |
| 前年度繰越金 | 1,389,890 | 1,389,890 | 0 | | 表彰費 | 200,000 | 75,070 | △124,930 | 賞状副賞・活動費 |
| | | | | | 学術部費 | 200,000 | 117,395 | △82,605 | 活動費 |
| | | | | | 財務部費 | 50,000 | 43,095 | △6,905 | 活動費 |
| | | | | | 組織調査部費 | 50,000 | 15,300 | △34,700 | 活動費 |
| | | | | | 広報部費 | 50,000 | 49,490 | △510 | 活動費 |
| | | | | | 企画部費 | 200,000 | 112,564 | △87,436 | 活動費 |
| | | | | | 会誌発行費 | 700,000 | 700,000 | 0 | 会費特別会計へ繰出し |
| | | | | | 事務局費 | 400,000 | 316,201 | △83,799 | 活動費 |
| | | | | | 慶弔費 | 30,000 | 2,700 | △27,300 | 祝電その他 |
| | | | | | 基金積立費 | 50,000 | 50,000 | 0 | 特別積み立て基金へ繰り出し |
| | | | | | 予備費 | 645,840 | 0 | △645,840 | |
| 合計 | 5,044,840 | 5,179,976 | 135,136 | | 合計 | 5,044,840 | 3,043,231 | △2,001,609 | |
| (平成16年度収入5,179,976-支出3,043,231=残金2,136,745) 残金 2,136,745円は次年度へ繰越し | | | | | | | | | |
| 上記の通り報告致します | | | | | 日本赤十字放射線技師会 会長 星野 保郎（印） 財務部 森 正三（印） | | | | |

| 平成16年度会誌特別会計決算報告書 | | | | | |
|-------------------|------------|----------------|--------------------------|------------|--------------|
| | | | | | 平成17年3月31日現在 |
| 収入の部 | | | 支出の部 | | |
| 科目 | 金額 | 備考 | 科目 | 金額 | 備考 |
| 前年度繰越金 | ¥910,374 | | 会誌印刷・郵送費 | ¥850,500 | 印刷、発送費 |
| 利息収入 | ¥5 | 銀行振込 | 通信費 | ¥36,480 | 切手、はがき代・送料 |
| 会誌(46号)広告料 | ¥680,000 | 5万円×12社・8万円×1社 | 事務消耗費 | ¥6,691 | 事務用品代 |
| 会誌発行費 | ¥700,000 | 一般会計より | 原稿依頼費 | ¥130,500 | 現金及び図書カード |
| | | | 次年度繰越金 | ¥1,266,208 | |
| | ¥2,290,379 | | | ¥2,290,379 | |
| 上記の通り報告いたします | | | 日本赤十字放射線技師会 広報部 岩井 計成(印) | | |

| 平成16年度日本赤十字放射線技師会特別積立基金決算報告書 | | | | | |
|------------------------------|------------|-------------------|-------------------------|--|--------------|
| | | | | | 平成17年3月31日現在 |
| 科目 | 金額 | 備考 | | | |
| 前年度繰越金 | ¥1,098,588 | 内 1,000,000円は定期預金 | | | |
| 16年度積立金 | ¥50,000 | 一般会計より繰り入れ | | | |
| 利息収入 | ¥4 | | | | |
| 合計 | ¥1,148,592 | 次年度繰越金 | | | |
| 上記の通り報告いたします | | | 日本赤十字放射線技師会 会長 星野 保郎(印) | | |

| 平成16年度全国赤十字放射線技師業務研修会決算報告書 | | | | | |
|----------------------------|------------|--------------|-------------------------|------------|---------------|
| | | | | | 平成16年6月23,24日 |
| 収入の部 | | | 支出の部 | | |
| 科目 | 金額 | 備考 | 科目 | 金額 | 備考 |
| 会費 | ¥1,110,000 | 10,000円×111名 | 通信費 | ¥53,490 | 事前資料印刷、送付 |
| | | | 印刷費 | ¥181,960 | 抄録集印刷代 |
| | | | 会場 機器使用料 | ¥474,640 | 食費2日分、記念品代 |
| | | | 研修費 | ¥190,000 | 2名の講師謝礼 |
| | | | ネーム入れ 名札 | ¥53,025 | 修了証印刷代 |
| | | | 準備調査費 | ¥71,777 | |
| | ¥1,110,000 | | | ¥1,024,892 | |
| | | | 残金85,108円(一般会計へ繰越) | | |
| 上記の通り報告いたします | | | 日本赤十字放射線技師会 総務部 松山 繁(印) | | |

各部事業計画案

【広報部】 岩井 計成 （日本赤十字社 和歌山医療センター）

- (1) 昨年同様グローバルな見解に耳を傾けられるよう多方面からの方々に原稿を依頼するとともに、私達診療放射線技師の職務に関連した内容を取り上げ、それについて各方面の方々からの意見を頂戴したいと考えています。
- (2) 研修会や学術発表等、会としての方向性がわかるような会誌作りを行います。
- (3) 各委員会やブロックからの情報、各部からの報告等を十分考慮し掲載します。
- (4) 会員間の情報提供の場として、活用してもらえよう考慮します。
- (5) 会誌発行は平成 18 年 2 月を目処に作成します。

以上

【学術部】 山縣 徳治 （水戸赤十字病院）

- (1) 全国赤十字病（産）院診療放射線技師業務研修会における会員研究発表と教育学術講演は、会員の資質向上に役立ちその意義は大きく、平成 17 年度についても次の事項を従来通り継続していきます。
 - ・会員の研究発表及び会誌投稿の機会を与えます。
 - ・会員の学術表彰を受けられる機会を与えます。
- (2) メーリングリストへの参加を促進し、活発な意見・情報の交換の場としていきます。会員の皆様のご協力をお願いいたします。

以上

【企画部】 小川 正 （大津赤十字病院）

企画部が立ち上がり早 4 年となります。今まで行った 3 回のアンケート調査をもとに赤十字医療施設の現状把握、また組織編成を行った国立病院機構医療施設との比較検討課題を再検討し、当会活動に取り入れていけるよう企画検討致します。

また昨年度開設したホームページの活用法を検討し、会員各位に有効利用して頂けるよう企画するとともに、一般市民への啓蒙情報も掲載していく予定です。会員からの投稿も歓迎します。

以上

【組織調査部】 川上 直志 （横浜市立みなと赤十字病院）

平成 17 年度も継続して会員台帳を充実させていきます。

会員の皆様のご協力をお願いします。

以上

【表彰委員会】 並木 荘一 （成田赤十字病院）

表彰に該当する会員の情報をできるだけ表彰委員に伝えやすいやり方を考えております。具体的には、今後検討していきたいと考えております。

以上

平成17年度予算（案）

| 金額(円) | | | | | | | | | |
|----------------------------------|-----------|-----------|----------|-------------|--|-----------|-----------|---------|--------------|
| 収入の部 | | | | | 支出の部 | | | | |
| 科目 | 16年度予算額 | 17年度予算案 | 増減 | 備考 | 科目 | 16年度予算額 | 17年度予算案 | 増減 | 備考 |
| 会費 | 3,357,000 | 3,447,000 | 90,000 | 3,000×1149名 | 総会費 | 500,000 | 650,000 | 150,000 | 総会運営費 |
| 過年度会費 | 81,000 | 12,000 | △69,000 | 3000×4名 | 会議費 | 1,500,000 | 1,500,000 | 0 | 常任理事会・理事会費 |
| 入会金 | 20,000 | 20,000 | 0 | 1,000×20名 | 役員活動費 | 119,000 | 119,000 | 0 | 3,500×34名 |
| 雑収入 | 196,950 | 20,000 | △176,950 | | ブロック活動費 | 350,000 | 350,000 | 0 | 50,000×7ブロック |
| 前年度繰越金 | 1,389,890 | 2,136,745 | 746,855 | | 表彰費 | 200,000 | 200,000 | 0 | 賞状副賞・活動費 |
| | | | | | 学術部費 | 200,000 | 200,000 | 0 | 活動費 |
| | | | | | 財務部費 | 50,000 | 100,000 | 50,000 | 活動費 |
| | | | | | 組織調査部費 | 50,000 | 50,000 | 0 | 活動費 |
| | | | | | 広報部費 | 50,000 | 100,000 | 50,000 | 活動費 |
| | | | | | 企画部費 | 200,000 | 200,000 | 0 | 活動費 |
| | | | | | 会誌発行費 | 700,000 | 700,000 | 0 | 会誌特別会計へ繰出し |
| | | | | | 事務局費 | 400,000 | 500,000 | 100,000 | 活動費 |
| | | | | | 慶弔費 | 30,000 | 30,000 | 0 | 祝電その他 |
| | | | | | 基金積立費 | 50,000 | 250,000 | 200,000 | 特別積立基金へ繰出し |
| | | | | | 予備費 | 645,840 | 686,745 | 40,905 | |
| 合計 | 5,044,840 | 5,635,745 | 590,905 | | 合計 | 5,044,840 | 5,635,745 | 590,905 | |
| 以上、日本赤十字放射線技師会 平成17年度予算(案)を報告します | | | | | 日本赤十字放射線技師会 会長 星野 保郎 (印) 財務部 森 正三 (印) | | | | |

平成 18 年

第 53 回定期総会資料

日 時 平成 18 年 6 月 8 日（木）午後 0 時 00 分より

会 場 日本赤十字社 本社 201 会議室

総会次第

開会の辞
会長挨拶
表 彰
議長選出
議 事

- 1・平成 17 年度 会務報告
- 2・平成 17 年度 事業報告
- 3・平成 17 年度 決算報告
- 4・平成 17 年度 監査報告
- 5・平成 18 年度 事業計画案
- 6・平成 18 年度 予算案
- 7・その他

閉会の辞

日本赤十字放射線技師会

平成 17 年度 会務報告

1. 会員数 (平成 18 年 3 月 31 日付け)

| | |
|--------|---------|
| 前年度会員数 | 1,129 名 |
| 新入会員数 | 45 名 |
| 退会会員数 | 24 名 |
| 現在会員数 | 1,150 名 |

2. 会議ならびに事業

平成 17 年度全国赤十字病 (産) 院

診療放射線技師業務研修会開催

平成 17 年 6 月 14 日～15 日 日本赤十字社 201 会議室

第 52 回定期総会開催

平成 17 年 6 月 14 日 日本赤十字社 201 会議室

平成 17 年度監査(会計,会務)

平成 18 年 4 月 28 日 日本赤十字社 202 会議室

平成 17 年度理事会開催

平成 18 年 4 月 28 日 日本赤十字社 202 会議室

常任理事会 第 1 回

平成 17 年 4 月 22 日 日本赤十字社 202 会議室

第 2 回

平成 17 年 7 月 29 日 日本赤十字社 403 会議室

第 3 回

平成 17 年 10 月 28 日 日本赤十字社 403 会議室

第 4 回

平成 18 年 2 月 17 日 日本赤十字社 403 会議室

表彰委員会

平成 17 年 10 月 28 日 常任理事会開催時推薦事項確認

平成 18 年 3 月 31 日 推薦締め切り

平成 18 年 4 月 28 日 理事会開催時表彰者決定

学術部

中里副会長を中心に久保田理事による学術活動

広報部

黒田副会長を中心に益井理事による会誌編集活動

平成 18 年 3 月 1 日 会誌発行(vol.47)

企画部

黒田副会長を中心に武田理事によるホームページ情報提供

日本赤十字放射線技師会のホームページの更新

組織調査部

松山会長を中心に川上理事による会員台帳調査活動

財務部

松山会長を中心に並木理事による会費徴収と財務管理

総務部

中里副会長を中心に山縣理事による会議運営と議事録作成

事務局

松山会長を中心に中里副会長による会務事務処理

日赤放技ニュース発行

平成 17 年 8 月 26 日 No.1 日赤放技ニュース発行

平成 17 年 12 月 6 日 No.2 日赤放技ニュース発行

平成 18 年 3 月 22 日 No.3 日赤放技ニュース発行

ブロック活動報告

第 15 回北海道ブロック学術研修会

平成 17 年 9 月 10 日～11 日 当番病院 北見赤十字病院

第 6 回九州ブロック学術研修会

平成 17 年 10 月 22 日～23 日 当番病院 日赤熊本健管センター

第 18 回東部ブロック学術研修会

平成 17 年 11 月 12 日～13 日 当番病院 芳賀赤十字病院

第 14 回近畿ブロック学術研修会

平成 18 年 2 月 25 日～26 日 当番病院 姫路赤十字病院

平成 19 年

第 54 回定期総会資料

日 時 平成 19 年 7 月 5 日（木）午後 4 時 00 分より

会 場 日本赤十字社 本社 101 会議室

総会次第

開会の辞
会長挨拶
表彰
議長選出
議 事

- 1・平成 18 年度 会務報告
- 2・平成 18 年度 事業報告
- 3・平成 18 年度 決算報告
- 4・平成 18 年度 監査報告
- 5・平成 19 年度 事業計画案
- 6・平成 19 年度 予算案
- 7・役員改選
- 8・その他

閉会の辞

日本赤十字放射線技師会

平成 18 年度 各部事業報告

【広報部】 益井 謙 (松江赤十字病院)

(1) 会誌発行について

平成 19 年 3 月技師会誌を発行。

(2) 会誌配布先

以下のとおり配布。

総部数 1500 部

会員 1199 部、名誉会員 9 部、施設長 95 部、日赤医療事業部 5 部

日赤医療事業部長 1 部、国立国会図書館 1 部、日放技会長 1 部

原稿依頼者(会員外) 7 部、広告依頼社 19 部、その他 163 部(会長、各部)

(3) 会誌内容

理事会の決議を元に、レイアウト・会員名簿の変更・特集の印刷を行う。

(4) 会誌編集会議

スケジュールに従って、随時開催。

(5) 会誌発行に関する経費は、会計決算報告として財務に提出済み。

【学術部】 久保田 利夫 (前橋赤十字病院)

(1) 平成 18 年度全国赤十字病(産)院診療放射線技師業務研修会において以下の様に行いました。

1. 教育講演 『1 冊の本との出会い』

イラストレーター 藤岡 牧夫 先生

学術講演 『診療放射線領域におけるリスク・マネジメント』

群馬県立県民健康科学大学診療放射線学部 助教授 倉石 政彦 先生

2. シンポジウム 『災害医療』

座 長 日本赤十字社医療センター 鈴木 利男

シンポジスト 長岡赤十字病院 捧 和夫

成田赤十字病院 安部 沙優花

神戸赤十字病院 浅妻 厚

3. 各分野から 17 題の演題発表がありました。会員の皆様の御協力に感謝いたします。

なお、シンポジスト及び研究発表者の了解を得たスライド原稿を日本赤十字放射線技師会のホームページに掲載いたしました。

(2) ヒヤリハットのアンケート調査結果を会誌に掲載しました。御協力ありがとうございました。

(3) 会員間の学術上、業務上の情報交換を目的としたメーリングリストを名古屋第二赤十字病院のご厚意により開設しております。昨年度は、何度か情報交換が行われましたが、まだアクセス数がそう多くありません。

会員の方ならどなたでも参加できますので、是非活用してください。

申込み方法：申込者の氏名および所属施設を明記したメールを下記までお送り下さい。

art-ac-admin@nagaya2.jrc.or.jp

【企画部】 武田 宣明 (大津赤十字病院)

昨今、放射線検査や放射線治療の資質の向上と専門性の統一的な展開を図るため、各種認定技師制度が関係学会や関係団体の協力のもと設立されています。日本赤十字放射線技師会として、全国の赤十字医療施設内の各種認定制度への取り組みや資格取得状況などを調査し、現状と問題点を考察し結果を平成 18 年度日本赤十字放射線技師会会誌に掲載しました。会員の皆様にご協力いただいたことに感謝いたします。

また、ホームページでは、業務研修会時の会員発表掲載などを行うと共に、会員よりの意見メールや質問メールに対応しました。

【組織調査部】 川上 直志 (横浜市立みなと赤十字病院)

平成 18 年 4 月に全国赤十字病院技師長、課長宛に会員台帳の調査を開始しました。総会までに今年度の会員数の把握につとめました。

なお、会員の皆様には、調査にご協力いただき感謝申し上げます。

【表彰委員会】 川上 直志 (横浜市立みなと赤十字病院)

平成 18 年 12 月に全国の赤十字病院の放射線科部技師長・課長宛と、取りまとめをお願いする技師会ブロック理事・委員宛に郵送した表彰の推薦書の返信を確認してまとめました。

平成 19 年 5 月 11 日の全国理事会で、表彰対象者を下記のとおり決定しました。

表彰受賞者

功労賞 (第 2 条の 1)

| | |
|--------------------|----------------|
| 花田 和夫氏 (仙台赤十字病院) | 平成 19 年 3 月退職 |
| 小田切 楠夫氏 (日赤医療センター) | 平成 19 年 3 月退職 |
| 神村 良雄氏 (成田赤十字病院) | 平成 19 年 3 月退職 |
| 玉田 一氏 (成田赤十字病院) | 平成 18 年 12 月退職 |
| 多賀 昭雄氏 (岐阜赤十字病院) | 平成 19 年 3 月退職 |
| 永田 三千男氏 (大阪赤十字病院) | 平成 19 年 3 月退職 |

奨励賞 (第 2 条の 2)

個人

岩見 守人氏 (姫路赤十字病院)

施設

松江赤十字病院 放射線科部

横浜市立みなと赤十字病院 放射線科部

順不同

平成 18 年度 会務報告

1. 会員数 (平成 19 年 3 月 31 日付)

| | |
|--------|--------|
| 前年度会員数 | 1149 名 |
| 新入会員数 | 77 名 |
| 退会会員数 | 10 名 |
| 現在会員数 | 1186 名 |

2. 会議ならびに事業

平成 18 年度全国赤十字病(産)院

診療放射線技師業務研修会開催

平成 18 年 6 月 8 日～9 日 日本赤十字社 101 会議室

第 53 回定期総会開催

平成 18 年 6 月 8 日 日本赤十字社 101 会議室

平成 18 年度監査(会計,会務)

平成 19 年 5 月 11 日 日本赤十字社 403 会議室

平成 18 年度理事会開催

平成 19 年 5 月 11 日 日本赤十字社 403 会議室

常任理事会 第 1 回

平成 18 年 4 月 28 日 日本赤十字社 202 会議室

第 2 回

平成 18 年 8 月 4 日 日本赤十字社 403 会議室

第 3 回

平成 18 年 12 月 1 日 日本赤十字社 403 会議室

第 4 回

平成 19 年 2 月 9 日 日本赤十字社 403 会議室

表彰委員会

平成 18 年 12 月 1 日 常任理事会開催時推薦事項確認

平成 19 年 3 月 31 日 推薦締め切り

平成 19 年 5 月 11 日 理事会開催時表彰者決定

学術部

中里副会長を中心に久保田理事による学術活動

広報部

黒田副会長を中心に益井理事による会誌編集活動

平成 19 年 3 月 1 日 会誌発行(vol.48)

企画部

黒田副会長を中心に武田理事によるホームページ情報提供

日本赤十字放射線技師会のホームページの更新

組織調査部

松山会長を中心に川上理事による会員台帳調査活動

財務部

松山会長を中心に並木理事による会費徴収と財務管理

総務部

中里副会長を中心に山縣理事による会議運営と議事録作成

事務局

松山会長を中心に中里副会長による会務事務処理

日赤放技ニュース発行

平成 18 年 7 月 25 日 No.1 日赤放技ニュース発行

平成 18 年 12 月 18 日 No.2 日赤放技ニュース発行

平成 19 年 3 月 16 日 No.3 日赤放技ニュース発行

ブロック活動報告

第 16 回北海道ブロック学術研修会

平成 18 年 9 月 23 日～24 日 当番病院 北見赤十字病院

第 7 回九州ブロック学術研修会

平成 18 年 9 月 30 日～10 月 1 日 当番病院 鹿児島,筑前山田

唐津赤十字病院

第 19 回東部ブロック学術研修会

平成 18 年 11 月 11 日～12 日 当番病院 原町赤十字病院

第 15 回近畿ブロック学術研修会

平成 19 年 2 月 24 日～25 日 当番病院 大阪赤十字病院

日赤大阪府支部

平成18年度一般会計決算報告書

平成19年3月31日現在 金額(円)

| 収入の部 | | | | 支出の部 | | | | | |
|--------|-----------|-----------|----------|-------------|----------|-----------|-----------|------------|---------------|
| 科目 | 18年度予算額 | 18年度決算額 | 増減 | 備考 | 科目 | 18年度予算額 | 18年度決算額 | 増減 | 備考 |
| 会費 | 3,462,000 | 3,597,000 | 135,000 | 3,000×1199名 | 総会費 | 650,000 | 139,776 | △510,224 | 総会運営費 |
| 入会金 | 20,000 | 77,000 | 57,000 | 1,000×77名 | 会議費 | 1,500,000 | 895,237 | △604,763 | 常任理事会・理事会費 |
| 雑収入 | 20,000 | 11,262 | △8,738 | | 役員活動費 | 119,000 | 105,000 | △14,000 | 3,500×34名 |
| 業務研修会費 | 880,000 | 832,000 | △48,000 | | ブロック活動費 | 700,000 | 400,000 | △300,000 | 100,000×7ブロック |
| 会誌広告収入 | 700,000 | 421,102 | △278,898 | | 表彰費 | 200,000 | 87,870 | △112,130 | 賞状副賞・活動費 |
| 前年度繰越金 | 4,011,347 | 4,011,347 | 0 | | 学術部費 | 200,000 | 36,305 | △163,695 | 活動費 |
| | | | | | 財務部費 | 100,000 | 39,762 | △60,238 | 活動費 |
| | | | | | 組織調査部費 | 50,000 | 15,200 | △34,800 | 活動費 |
| | | | | | 広報部費 | 200,000 | 195,940 | △4,060 | 活動費 |
| | | | | | 企画部費 | 200,000 | 60,834 | △139,166 | 活動費 |
| | | | | | 事務局費 | 500,000 | 262,796 | △237,204 | 活動費・慶弔費 |
| | | | | | 業務研修会開催費 | 880,000 | 913,950 | 33,950 | |
| | | | | | 会誌発行費 | 1,400,000 | 1,090,799 | △309,201 | 会誌発行費 |
| | | | | | 基金積立費 | 50,000 | 50,000 | 0 | 特別積み立て基金へ繰り出し |
| | | | | | 予備費 | 2,344,347 | 0 | △2,344,347 | |
| 合計 | 9,093,347 | 8,949,711 | △143,636 | | 合計 | 9,093,347 | 4,293,469 | △4,799,878 | |

(収入8,949,711－支出4,293,469＝残金4,656,242)

残金4,656,242円は次年度に繰越し

日本赤十字放射線技師会 会長 松山 繁 (印)

財務部 並木 荘一 (印)

平成18年度日本赤十字放射線技師会特別積立基金決算報告書

2007/3/31現在

| 科目 | 金額 | 備考 |
|---------|------------|-------------------|
| 前年度繰越金 | ¥1,398,603 | 内 1,300,000円は定額貯金 |
| 18年度積立金 | ¥50,000 | 一般会計より繰り入れ |
| 利息収入 | ¥98 | |
| 合計 | ¥1,448,701 | 次年度繰越金 |

上記の通り報告いたします

日本赤十字放射線技師会 会長 松山 繁 (印)

監査報告書

平成 19 年 5 月 11 日（金）午前 10 時より、日本赤十字本社内において、日本赤十字放射線技師会会則第 3 章第 15 条に基づき、

- 1・平成 18 年度特別積立金
- 2・平成 18 年度会誌特別会計
- 3・平成 18 年度業務研修会決算
- 4・平成 18 年度一般会計決算
- 5・平成 18 年度会務（年度事業計画に基づく）

以上の証拠書類の照合および検算を厳正に監査した結果、いずれも適正に行われていたことを認めます。

平成 19 年 5 月 11 日

監事 鈴木 利男 印

監事 引屋敷 聖晴 印

平成 19 年度事業計画案

赤十字放射線技師会の存在感や、会員相互間のつながりにくい中で、飛躍的な変化を望む事が不可能に近いと思われるが、会誌の変化、理事会へのブロック理事、ブロック委員の理事会への間接的な参加も少しずつではありますが浸透してきておりますので、充分に活用のできる状態に近づけていく必要があります。 本社医療事業部との話し合いを十分に持ち、最新情報をいただけるよう綿密な関係を築き会員に最新情報等が提供できるような体制作りをさらに目指していきます。 日本赤十字社医学会総会への積極的な参加により今年度より技師会からの評議委員会への参加が認められました。今後も、医学会総会への積極的な参加ができるように啓蒙していきます。

1. 会員の職業倫理の高揚に関する事業

理事会時本社医療事業部との話し合いを機会あるごとに設定し、最新の情報を会員にすみやかに提供ができるようにします。日本赤十字社医学会総会への積極的な参加を引き続き推進します。

2. 学術講演ならびに研究発表会に関する事業

全国赤十字病（産）院診療放射線技師業務研修会を開催し本社講演、学術、教育講演、研究発表を基本とし、会員の向上を目指します。

3. 放射線安全管理の徹底及び被曝軽減の促進に関する事業

安全な放射線管理及び、リスクマネジメントの実践を推進いたします。

4. 会誌、日赤放技ニュース、その他印刷物の発行事業

会誌は年 1 回、日赤技放ニュースは年 3 回、その他必要に応じて印刷物を発行します。

5. 会員相互の福利厚生に関する事業

慶弔規定に則り対応致します。

6. その他

ブロック研修会の開催を推進し会員相互間の信頼関係の充実を図ります。
充実した内容のホームページの作成を図ります。

平成 19 年度 各部事業計画案

【広報部】 益井 謙 （松江赤十字病院）

会誌発行について

特集をより充実し、各方面からの色々な意見、情報を頂戴し掲載していきます。

各部、各ブロックの活性活動を盛り込みます。

発行は平成 20 年 2 月を目指します。

【学術部】 久保田 利夫 （前橋赤十字病院）

全国赤十字病（産）院診療放射線技師業務研修会において、会員研究発表および教育学術講演など会員皆様の資質向上に役立つ事業を継続します。

メーリングリストへの活発な活用に努めていきます。

【企画部】 武田 宣明 (大津赤十字病院)

平成18年度企画部にて行なったアンケートの結果、赤十字医療施設に従事する放射線技師の入会率が最も高かった放射線関連団体は日本赤十字放射線技師会であり、本会に対する関心の高さが伺えます。過去のアンケートを再分析すると共にHP等を利用し、会員のニーズに応えられる様な内容を企画し、当会活動に取り入れていけるよう検討致します。

【組織調査部】 川上 直志 (横浜市立みなと赤十字病院)

平成19年度も継続して会員台帳を充実させていきます。
会員の皆様の御協力をお願い致します。

【表彰委員会】 川上 直志 (横浜市立みなと赤十字病院)

表彰に該当する会員の情報を出来るだけ表彰委員会に伝わりやすい方法を、今後検討していきたい。

平成19年度一般会計予算(案)

金額(円)

| 収入の部 | | | | 支出の部 | | | | | |
|--------|-----------|-----------|----------|-------------|---------|-----------|-----------|---------|---------------|
| 科目 | 18年度予算額 | 19年度予算案 | 増減 | 備考 | 科目 | 18年度予算額 | 19年度予算案 | 増減 | 備考 |
| 会費 | 3,462,000 | 3,600,000 | 138,000 | 3,000×1200名 | 総会費 | 650,000 | 650,000 | 0 | 総会運営費 |
| 過年度会費 | 0 | 15,000 | 15,000 | | 会議費 | 1,500,000 | 1,500,000 | 0 | 常任理事会・理事会費 |
| 入会金 | 20,000 | 20,000 | 0 | 1,000×20名 | 役員活動費 | 119,000 | 119,000 | 0 | 3,500×34名 |
| 雑収入 | 20,000 | 20,000 | 0 | | ブロック活動費 | 700,000 | 700,000 | 0 | 100,000×7ブロック |
| 業務研修会費 | 880,000 | 880,000 | 0 | 8,000×110名 | 表彰費 | 200,000 | 200,000 | 0 | 賞状副賞・活動費 |
| 会誌広告収入 | 700,000 | 400,000 | △300,000 | 会誌広告料 | 学術部費 | 200,000 | 150,000 | △50,000 | 活動費 |
| 前年度繰越金 | 4,011,347 | 4,656,242 | 644,895 | | 財務部費 | 100,000 | 100,000 | 0 | 活動費 |
| | | | | | 組織調査部費 | 50,000 | 50,000 | 0 | 活動費 |
| | | | | | 広報部費 | 200,000 | 300,000 | 100,000 | 活動費 |
| | | | | | 企画部費 | 200,000 | 150,000 | △50,000 | 活動費 |
| | | | | | 事務局費 | 500,000 | 500,000 | 0 | 活動費・慶弔費 |
| | | | | | 業務研修会費 | 880,000 | 880,000 | 0 | 8,000×110名 |
| | | | | | 会誌発行費 | 1,400,000 | 1,400,000 | 0 | 会誌発行費 |
| | | | | | 基金積立費 | 50,000 | 50,000 | 0 | 特別積み立て基金へ繰り出し |
| | | | | | 予備費 | 2,344,347 | 2,742,242 | 397,895 | |
| 合計 | 9,093,347 | 9,591,242 | 497,895 | | 合計 | 9,093,347 | 9,491,242 | 397,895 | |

以上、日本赤十字放射線技師会 平成19年度予算(案)を報告します

日本赤十字放射線技師会 会長 松山 繁 (印)
財務部 並木 荘一 (印)

第 55 回定期総会資料

日時 平成 20 年 6 月 2 日（月） 午後 4 時 00 分より

会場 日本赤十字社 本社 201 会議室

総会次第

開会の辞

会長挨拶

表彰

総会議事運営報告

議長選出

議事録署名人選出、書記、採決係任命

【第 1 号議案】 平成 19 年度事業経過報告

【第 2 号議案】 平成 19 年度決算報告

【第 3 号議案】 平成 19 年度監査報告

【第 4 号議案】 平成 20 年度事業計画（案）

【第 5 号議案】 その他

役員挨拶

議長解任

閉会の辞

日本赤十字社放射線技師会

表彰

会員各位

日本赤十字放射線技師会
会長 益井 謙
表彰委員長 戸口 豊宏

日本赤十字放射線技師会表彰規定により、顕著な功績があったので表彰します。

1. 功労賞（第2条の1）

高橋 和弘（小清水赤十字病院）
池田 英二（伊達赤十字病院）
草田 行雄（名古屋第一赤十字病院）
中沢 正司（飯山赤十字病院）
花岡 宏行（諏訪赤十字病院）
駿田 耕一（京都第二赤十字病院）
林 雅彦（松山赤十字病院）
一瀬 弘之（日本赤十字社長崎原爆病院）

2. 奨励賞（第2条の2）

【施設】山田赤十字病院（計10回）

3. 感謝状（第2条の3）

川村 佳生（日本赤十字社和歌山医療センター）

敬称略・順不同

平成 19 年度事業報告

(総括)

医療を取り巻く環境は、医療経済的にも、様々な問題を内包し、葛藤の結果、諸所に膿として滲出してきています。厄介な事に、膿は出ても芯はしっかり残り、病根の根深さを物語っています。技術職である診療放射線技師は、新技術に即応する柔軟性と研鑽が必須であります。そして赤十字に属する一員として、災害・救命救急に寄与できる体質を備えねばなりません。本技師会は、本年度もその使命に即して活動を継続してきました。

業務研修会では、各施設から寄せられた 19 演題で、日頃の研鑽振りを公にされました。学術講演は多列化 CT の使用経験を、教育講演では接遇で時代の要請に応えようとししました。新執行部に移行した 7 月以降、3 分科会の立ち上げ、HP (ホームページ) の改定に取組み、会員相互の連携と連帯を図る基盤整備に費やしました。

1. 会員の職業倫理の高揚に関する事業

日本赤十字社医学会の評議員として会長・各理事参加。諸職能と積極交流しました。
本社医療事業部と意思の疎通を図り、会員への還元を旨としました。

2. 学術講演ならびに研究発表に関する事業

平成 19 年 7 月 5 日、6 日業務研修会を行いました。(会員発表内容など詳細は HP で供覧)

3. 放射線安全管理の徹底及び被ばく軽減の促進に関する事業

第 49 号会誌にて、医療従事者の被ばくの現状を掲載しました。
放射線安全管理台帳の統一管理を図る為の新組織「文書管理」(副会長担当)を設置しました。

4. 会誌、日赤放技ニュース、その他印刷物の発行事業

会誌は年 1 回、日放技ニュースは年 2 回配布しました。

5. 会員相互の福利厚生に関する事業

慶弔規定に則り対応いたしました。

6. その他

学術分科会 (CT・MR・乳房画像) を立ち上げました。
HP の改訂を行いました。

平成 19 年度事業報告

1.総務事項報告

(1) 平成 19 年度役員は次のとおりである。

| 役職名 | 氏名 | 施設名 |
|-------------|-------|------------|
| 会長 | 益井 謙 | 松江赤十字病院 |
| 副会長 | 中里 明 | 足利赤十字病院 |
| 副会長 | 黒田 順平 | さいたま赤十字病院 |
| 副会長 | 山縣 徳治 | 水戸赤十字病院 |
| 常任理事（総務） | 辻 秀憲 | 京都第二赤十字病院 |
| 同（事務局） | 磯田 康範 | 松江赤十字病院 |
| 同（学術部） | 久保田利夫 | 前橋赤十字病院 |
| 同（学術部） | 浅妻 厚 | 神戸赤十字病院 |
| 同（財務部） | 前川 栄寿 | 成田赤十字病院 |
| 同（組織調査部） | 石田 智広 | 福井赤十字病院 |
| 同（企画部） | 新美 孝永 | 名古屋第二赤十字病院 |
| 同（広報部） | 清水 文孝 | 深谷赤十字病院 |
| 同（表彰委員会） | 戸口 豊宏 | 大分赤十字病院 |
| ブロック理事（北海道） | 川井 明彦 | 函館赤十字病院 |
| 同（東北） | 大隅 康之 | 秋田赤十字病院 |
| 同（東部） | 林 智 | 長岡赤十字病院 |
| 同（中部） | 福吉 正利 | 静岡赤十字病院 |
| 同（近畿） | 井澤 秀恭 | 和歌山医療センター |
| 同（中・四国） | 佐藤 繁 | 岡山赤十字病院 |
| 同（九州） | 赤澤 武 | 熊本健康管理センター |

創立 55 周年記念事業担当

黒田順平（兼務） 山縣徳治（兼務） 中里明（兼務）

| 役職名 | 氏名 | 施設名 |
|-----|-------|--------------|
| 監事 | 松山 繁 | 長野赤十字上山田病院 |
| 監事 | 鈴木 利男 | 日本赤十字社医療センター |

ブロック委員

| 役職名 | 氏名 | 施設名 |
|---------|-------|------------|
| 北海道ブロック | 相澤 幹也 | 北見赤十字病院 |
| 東北ブロック | 横山 高広 | 仙台赤十字病院 |
| 東部ブロック | 佐藤 法行 | 山梨赤十字病院 |
| 々 | 星野 洋満 | 前橋赤十字病院 |
| 中部ブロック | 金子 彰 | 高山赤十字病院 |
| 々 | 月田 邦彦 | 名古屋第一赤十字病院 |
| 々 | 福吉 正利 | 静岡赤十字病院 |
| 近畿ブロック | 森上 安一 | 高槻赤十字病院 |
| 々 | 勝間 明 | 長浜赤十字病院 |

| | | |
|----------|-------|---------|
| 中・四国ブロック | 西田 史生 | 松山赤十字病院 |
| 々 | 真貝 勝 | 徳島赤十字病院 |
| 九州ブロック | 三谷 孝二 | 今津赤十字病院 |

広報委員会委員

| 役職名 | 氏名 | 施設名 |
|------|-------|---------|
| 広報部長 | 清水 文孝 | 深谷赤十字病院 |
| 事務局長 | 中山 進 | 々 |
| 会計主査 | 飯島 秀信 | 々 |
| 委員 | 川合 佳代 | 々 |
| 々 | 斉藤 幸夫 | 々 |
| 々 | 富田 欣治 | 々 |
| 々 | 清水 邦明 | 々 |
| 々 | 桐生 幸恵 | 々 |

(2) 会議開催状況

ア. 総会

平成 19 年度定期総会を平成 19 年 7 月 5 日（木）、本社 101 会議室において会員 109 名が出席（委任状提出 1023 名）して開催した。総会では平成 18 年度事業報告および平成 18 年度会計報告ならびに平成 19 年度事業計画（案）および平成 19 年度収支予算（案）等について審議し決議した。

理事、監事が任期満了となるのでその後任選任について、議長は選挙管理委員長より、会長理事候補者に益井謙氏（松山赤十字病院）1 名および監事候補者に松山繁氏（長野赤十字上山田病院）、鈴木利男氏（赤十字医療センター）2 名、副会長候補に黒田順平氏（さいたま赤十字病院）、（兼務）中里明氏（足利赤十字病院）、山縣徳治氏（水戸赤十字病院）3 名の立候補推薦届出あり、議長は執行部をして、下記のとおり会長理事並びに監事の候補者を提案させた後、その賛否を諮ったところ、全員異議なく候補者はいずれも選任された。尚、常任理事、ブロック理事については下記のとおり選任された。

会 長 益井 謙
副 会 長 黒田 順平、中里 明、山縣 徳治
常任理事 磯田 康範、辻 憲、久保田 利男、浅妻 厚、前川 栄寿、
石田 智広、新美 孝永、戸口 豊宏、清水 文孝
ブロック理事 河相 明彦、大隅 康之、林 智、花岡 宏行、井澤 秀恭、
佐藤 繁、赤澤 武
監 事 松山 繁、鈴木 利夫

イ. 理事会（全国）は下記の通り 1 回開催し、重要案件について審議し決議した。

| | 年 月 日 | 開催場所 |
|---|-------------|------------|
| 1 | 平成 19 年 7 月 | 本社 403 会議室 |

ウ. 常任理事会は下記の通り 6 回開催し、理事会、全国理事会への提案議題の審議並びに決定事項について処理した。

| | 年 月 日 | 開催場所 |
|---|-------------------|------------|
| 1 | 平成 19 年 8 月 3 日 | 本社 403 会議室 |
| 2 | 平成 19 年 10 月 11 日 | 大分赤十字病院 |
| 3 | 平成 19 年 11 月 30 日 | 本社 203 会議室 |
| 4 | 平成 20 年 1 月 25 日 | 本社 403 会議室 |
| 5 | 平成 20 年 3 月 14 日 | 本社 403 会議室 |
| 6 | 平成 20 年 4 月 11 日 | 本社 403 会議室 |

エ. その他 広報委員会開催状況 (広報部)

| 年 月 日 | 開催内容 |
|-----------------------|--------------------------|
| 平成 19 年 8 月 8 日 | 委員会開催：技師会ニュース第 1 号発刊について |
| 平成 19 年 8 月 15 日 | 々：技師会ニュース校正作業・入稿 |
| 平成 19 年 8 月 27 日 | 々：技師会ニュース発送準備・作業 |
| 平成 19 年 8 月 28 日 | 々：技師会ニュース発送持込 |
| 平成 19 年 9 月 3 日 | 々：会誌発刊について |
| 平成 19 年 9 月 7 日 | 々：原稿依頼状発送作業 |
| 平成 19 年 9 月 14 日 | 々：広告依頼状発送作業 |
| 平成 19 年 11 月 12 日 | 々：技師会ニュース発刊第 2 号について |
| 平成 19 年 11 月 14 日 | 々：技師会ニュース校正作業 |
| 平成 19 年 11 月 22 日 | 々：技師会ニュース入稿 |
| 平成 19 年 12 月 3 日 | 々：技師会ニュース発送準備・作業 |
| 平成 19 年 12 月 4 日 | 々：技師会ニュース発送持込 |
| 平成 20 年 1 月 4 日 | 々：会誌編集会議開催、進捗状況について |
| 平成 20 年 1 月 10 日 | 々：会誌校正作業 |
| 平成 20 年 1 月 17 日 | 々：会誌原稿初回入稿 |
| 平成 20 年 2 月 16 日～18 日 | 々：校正作業 |
| 平成 20 年 2 月 18 日 | 々：会誌入稿 |
| 平成 20 年 2 月 22 日 | 々：会誌会長校正送付 |
| 平成 20 年 3 月 3 日 | 々：会誌印刷、製本作業 |
| 平成 20 年 3 月 15 日 | 々：技師会ニュース第 1 号校正・入稿 |
| 平成 20 年 3 月 27 日～29 日 | 々：会誌発送作業・準備、発送持込 |

(3) 表彰

叙勲 (敬称略)

瑞宝双光賞 益戸達夫 (名誉会員：元葛飾産院技師長、元日本赤十字放射線技師会会長)

(4) 物故者 (敬称略)

斎藤 一秀 (足利赤十字病院)

(5)会員の動向（平成 20 年 3 月 31 日現在）（事務局）

| 項目 | 会員数 |
|----------------|---------|
| 平成 18 年度末 会員数 | 1,186 名 |
| 平成 19 年度 新入会者数 | 53 名 |
| 同 再入会者数 | 0 名 |
| 同 退会者数 | 41 名 |
| 平成 19 年度末 会員数 | 1,210 名 |

(6)平成 19 年度広告協賛 29 社（五十音順）

安西メディカル株式会社

エーザイ株式会社

株式会社エルクコーポレーション

株式会社カイゲン

株式会社島津製作所

株式会社千代田テクノ

株式会社根本杏林堂

株式会社バリアンメディカルシステムズ

株式会社日立メディコ

株式会社フィリップスエレクトロニクスジャパンメディカルシステムズ

株式会社マエダ

コニカミノルタヘルスケア株式会社

産業科学株式会社

シーメンス旭メディテック株式会社

GE 横河メディカルシステム株式会社

住友重機械工業株式会社

第一三共株式会社

タイコヘルスケアジャパン株式会社

東芝メディカルシステムズ株式会社

東洋メディック株式会社

日本放射線防衛株式会社

日本メドラッド株式会社

日本メジフィジックス株式会社

バイエル薬品株式会社

富士製薬工業株式会社

富士フィルム **RI** ファーマ株式会社

富士フィルムメディカル株式会社

堀井薬品工業株式会社

ラドセーフテクニカルサービス株式会社

2.学術教育活動報告（学術部）

学術部は会員の資質向上のため業務研修会を開催しました。また、会員相互の連携と連帯を広域的かつ継続的に可能となるように、**ML**（メーリングリスト）と**HP**（ホームページ）の活用を推進してきました。さらに、会員相互の業務上・学術上の情報交換を通して、会員の技術・学術的研鑽と赤十字放射線医療の標準化を目指して、学術分科会を立ち上げました。詳細は以下の通りです。

(1)学術講演ならびに研究発表に関する事業として、平成 19 年度全国赤十字病（産）院

診療放射線技師業務研修会を下記のように行いました。

1.教育講演『患者様に信頼されるための正しいコミュニケーションとマナー』

NHK 学園講師 山岸弘子 先生

2.学術講演『MDCT-4 列から 64 列までの使用経験』

東北大学病院 放射線診断科 高瀬圭 先生

3.各分野から 19 題の演題発表がありました。会員皆様のご協力に感謝いたします。

また、研究発表者の了解を得たスライド原稿を、日本赤十字放射線技師会のホームページ (HP) に掲載しました。

(2)活動を開始した学術分科会は、以下の通りです。

| | | | |
|-----------|-------|-----------|-------|
| 1.CT 分科会 | 代表世話人 | 長野赤十字病院 | 八町 淳 |
| | 世話人 | 盛岡赤十字病院 | 藤村 貴順 |
| | 世話人 | 京都第二赤十字病院 | 河本 勲則 |
| 2.MR 分科会 | 代表世話人 | 大阪赤十字病院 | 高津 安男 |
| | 世話人 | 仙台赤十字病院 | 安彦 茂 |
| | 世話人 | 姫路赤十字病院 | 岩見 守人 |
| 3.乳房画像分科会 | 代表世話人 | さいたま赤十字病院 | 尾形 智幸 |
| | 世話人 | 芳賀赤十字病院 | 武藤 美子 |
| | 世話人 | 深谷赤十字病院 | 川合 佳代 |
| | 世話人 | 長浜赤十字病院 | 西関 剛 |

昨年度の各分科会登録者数は、CT15名、MR12名、乳房画像13名でした。

(3)従来、業務研修会の研究発表に応募された演題の採否は学術部内で検討していましたが、

応募演題の採否などを審議するため、新しく研修会プログラム委員を設けました。

なお、同委員会の構成員は会長、副会長、常任理事です。

平成 20 年度の応募演題について、計 9 回、演題採否等について審議を実施しました。

研修会プログラム委員会開催日は次の通りです。

第 1 回 平成 19 年 11 月 30 日

第 2 回 平成 20 年 1 月 25 日

第 3 回 平成 20 年 2 月 21 日

第 4 回 平成 20 年 2 月 25 日

第 5 回 平成 20 年 2 月 26 日

第 6 回 平成 20 年 2 月 27 日

第 7 回 平成 20 年 3 月 2 日

第 8 回 平成 20 年 3 月 3 日

第 9 回 平成 20 年 3 月 4 日

3.広報部活動報告（広報部）

平成19年度広報部活動は、日赤放技ニュースの発行を第1号から第2号まで計2回発行いたしました。会告、お知らせ、本会の動きなど多岐にわたった情報を会員に提供いたしました。

また、これまでの技師会ニュースの作成を冊子形式といたしました。

日本赤十字放射線技師会会誌2008. Vol.49を発刊いたしました。本社寄稿、学術特集、55周年特別寄稿、本社研修会、施設紹介、新入会員紹介、会員名簿など会員に有益な情報を提供いたしました。

しかしながら、担当者の不慣れなことは否めず、委員会としての活動、会誌や技師会ニュースの内容についても今後は検討を重ねると共に、会員の皆さまのご意見を頂戴し、より有意義な会誌や技師会ニュースを発刊していきたいと考えます。

- 1)日本赤十字放射線技師会会誌2008. Vol.49を発行した。
- 2)日赤放技ニュース第1号から第2号まで計2回発行した。
- 3)会誌の広告協賛会社は、29社であった。

4.福利厚生報告（総務部・事務局）

慶弔規程に基づき、祝電2名、弔電1名について行った。

5.企画部活動報告（企画部）

新執行部に移行した7月以降、ホームページ（HP）の改訂やメーリングリスト（ML）の整備、登録者数の増強に取り組み、会員相互の連携と連帯を図る基盤整備を実施した。また、本会の将来発展を願うべく機能的で会員参加型のあらたなHP立ち上げに積極的に取り組んだ。

(1)日赤技師会HPリニューアル化

- ・原稿HPを技師会の目的に合わせて限りなく機能的にするための整備・改修を実施した。
具体的には
- ・会員への迅速な情報提供に向けた速報欄の毎月の更新を実施した。（平成19年9月より）
- ・学術部の分科会活動への参加を促す環境作り（入会申し込みの簡素化など）を実施した。
- ・次年度の業務研修会演題申し込みの環境作り（演題申し込みの簡素化）を実施した。
- ・マンモグラフィ検診施設画像認定取得施設をHP上で公開することにより赤十字病院に勤務する放射線技師のマンモグラフィへの積極的な取り組みをアピールした。
- ・MLへ登録を促す環境作り（登録の簡素化など）を実施した。

(2)技師会MLを活用した技師会活動の機能的運営の推進

- ・技師会MLの管理・運営を実施した。
- ・電子メールを利用して会員へのMLの紹介および勧誘を積極的に実施した。登録会員数は120名程度（2月上旬時）に達し、現在も着実に増加している。

(3)日赤技師HPの全面改正に向けての企画・提案

- ・日赤技師会の将来を見据えた機能的で会員参加型のHPの（次年度）立ち上げに向け積極的に取り組んだ。
- ・学術部をはじめとする各部との意見交換を積極的に実施し、当技師会に最も相応しいHPの次年度導入に向けての見通しが立った。

6.組織調査活動報告（組織調査部）

- (1)平成 19 年 4 月に全国赤十字病院技師長、課長宛てに会員台帳の調査を行い、総会までに今年度の新加入者（予定者）と施設毎会員数の現状把握を行った。
- (2)平成 19 年 12 月に全国赤十字病院の放射線技師の「認定資格取得調査」を行った。本会員における認定資格の取得状況を把握し、現在の医療環境に求められる取得動向や、今後赤十字病院として必要とされる認定技師資格取得の方向性判断資料としたい。
- (3)平成 19 年 12 月に日本赤十字病院の組織再編成としての「医療技術部動向」についてアンケート調査を行った。今後動向結果を元に本会と各施設の共同歩調化検討の判断情報としたい。

7.表彰部報告

表彰該当者（功労賞）

| | | |
|-------------------|--------|---------------|
| 花田 和夫（はなだ かずお）氏 | 東北ブロック | 仙台赤十字病院 |
| 小田切 楠夫（おだぎり くすお）氏 | 東部ブロック | 日本赤十字社 医療センター |
| 神村 良雄（かみむら よしお）氏 | 東部ブロック | 成田赤十字病院 |
| 玉田 一（たまだ はじめ）氏 | 東部ブロック | 成田赤十字病院 |
| 多賀 昭雄（たが あきお）氏 | 中部ブロック | 岐阜赤十字病院 |
| 永田 三千男（ながた みちお）氏 | 近畿ブロック | 大阪赤十字病院 |

以上の方々を功労賞として表彰しました。

奨励賞

個人

| | | |
|------------------|--------|---------|
| 岩見 守人（いわみ もりひと）氏 | 近畿ブロック | 姫路赤十字病院 |
|------------------|--------|---------|

学術発表が個人として 3 回に達した為表彰しました。

8.ブロック報告

| | | |
|--------------------|------------------------|-----------|
| 第 17 回北海道ブロック学術研修会 | 平成 19 年 9 月 29 日～30 日 | 北見赤十字病院担当 |
| 第 20 回東部ブロック学術研修会 | 平成 19 年 10 月 27 日～28 日 | 山梨赤十字病院担当 |
| 第 8 回九州ブロック学術研修会 | 平成 19 年 11 月 3 日～4 日 | 熊本赤十字病院担当 |
| 第 16 回近畿ブロック学術研修会 | 平成 20 年 2 月 23 日～24 日 | 高槻赤十字病院担当 |

9.平成 19 年度決算報告

平成 20 年 3 月 31 日現在 金額 (円)

| 収 入 の 部 | | | | |
|---------|-----------|-----------|---------|--------------------------------|
| 科目 | 19 年度予算額 | 19 年度決算額 | 増減 | 備考 |
| 会費 | 3,600,000 | 3,663,000 | 63,000 | 3,000×1,221名 (但し18年度分5名を含む) |
| 入会金 | 20,000 | 53,000 | 33,000 | 1,000×53名 |
| 雑収入 | 20,000 | 9,377 | △10,623 | |
| 業務研修会費 | 880,000 | 872,000 | △8,000 | |
| 会誌広告収入 | 400,000 | 620,000 | 220,000 | |
| 前年度繰越金 | 4,656,242 | 4,656,242 | 0 | |
| 合計 | 9,576,242 | 9,873,619 | 297,377 | |

| 支 出 の 部 | | | | |
|----------|-----------|-----------|------------|-----------------|
| 科目 | 19 年度予算額 | 19 年度決算額 | 増減 | 備考 |
| 総会費 | 650,000 | 299,463 | △350,537 | 総会運営費 11→15人の増減 |
| 会議費 | 1,500,000 | 2,611,657 | 1,111,657 | 常任理事会・理事会費 6回増 |
| 役員活動費 | 119,000 | 119,000 | 0 | 3,500×34名 |
| ブロック活動費 | 700,000 | 400,000 | △300,000 | 100,000×7ブロック |
| 表彰費 | 200,000 | 91,512 | △108,488 | 賞状副賞・活動費 |
| 学術部費 | 150,000 | 94,611 | △55,389 | 活動費 |
| 財務部費 | 100,000 | 51,869 | △48,131 | 活動費 |
| 組織調査部費 | 50,000 | 41,058 | △8,942 | 活動費 |
| 広報部費 | 300,000 | 303,579 | 3,579 | 活動費 |
| 企画部費 | 150,000 | 213,000 | 63,000 | 活動費 |
| 事務局費 | 500,000 | 264,423 | △235,577 | 活動費・慶弔費 |
| 業務研修会開催費 | 880,000 | 802,787 | △77,213 | |
| 会誌発行費 | 1,400,000 | 1,520,915 | 120,915 | 会誌発行費 |
| 基金積立費 | 50,000 | 50,000 | 0 | 特別積み立て基金へ繰り出し |
| 予備費 | 2,827,242 | 0 | △2,827,242 | |
| 合計 | 9,576,242 | 6,863,874 | △2,712,368 | |

(収入 9,873,619 - 支出 6,863,874 = 残金 3,009,745) 残金 3,009,745 円は次年度に繰越し

日本赤十字放射線技師会 会長 益井 謙 (印)

財務部 前川 栄 寿 (印)

平成 19 年度日本赤十字放射線技師会特別積立基金決算報告書

2008年 3月31日現在

| 科 目 | 全 額 | 備 考 |
|----------|------------|-------------------|
| 前年度繰越金 | ¥1,448,701 | 内¥1,300,000 は定額貯金 |
| 19 年度積立金 | ¥50,000 | 一般会計より繰り入れ |
| 合計 | ¥1,498,701 | |

上記の通り報告いたします 日本赤十字放射線技師会 会長 益井 謙 (印)

監査報告書

平成 20 年 4 月 11 日（金）午前 10 時より、日本赤十字本社内において、
日本赤十字放射線技師会会則第 3 章 15 条に基づき、

- 1.平成 19 年度特別積立金
- 2.平成 19 年度会誌特別会計
- 3.平成 19 年度業務研修決算
- 4.平成 19 年度一般会計決算
- 5.平成 19 年度会務（年度事業計画に基づく）

以上の証拠書類の照合および検算を厳正に監査した結果、いずれも
適正に行われていたことを認めます。

平成 20 年 4 月 11 日

| | | | |
|----|----|----|---|
| 監事 | 鈴木 | 利夫 | 印 |
| | 松山 | 繁 | 印 |

平成 20 年度事業計画案

(総括)

本社のアクションプランである「もっとクロス！計画」は、赤十字の存在意義（レゾンデートル）を職員が理解し、社会的責任を果たすために説明と同意を求める努力を促すものであります。本会もチーム医療におけるレゾンデートルをより確かなものにする為に、会員相互が「もっとクロス！」し、連繋と連帯を深める「計画」のモデルとして、ML（メーリングリスト）を活用した電子的運営をさらに推進します。HP の全面改訂は、会員の連繋と連帯を推進し、(赤十字病院の) 医療の質向上へむけて有益な情報媒体として更なる充実を計ります。

1. 会員の職業意識の高揚に関する事業

本社医療事業部と協議し、赤十字事業の動向を共有し、会員に対し説明責任が果たせるようにします。

日本赤十字社医学会への積極果敢な参加を引き続き推進します。

2. 学術講演ならびに研究発表会に関する事業

全国赤十字病（産）院診療放射線技師業務研修会を開催し、本社講演、学術、教育講演、研究発表を基本とし、会員のスキルアップを目指します。

3. 会員相互の連携に関する事業

HP を充実させ、情報の窓口としての役割を果たせるよう推進します。

ML の登録を増やし、情報交換の場を充実させます。

ブロック研修会の開催運営を支援します。

4. 会員の資格・学術向上に関する事業

分科会活動を通じ、資格や学術向上を支援します。

5. 会誌・日赤放技ニュースに関する事業

会誌は年 1 回、日放技ニュースは年 3 回発行します。発行部数の見直しを図り、掲載主媒体を HP への移行を模索します。

6. 会員相互の福利厚生に関する事業

慶弔規程に則り、速やかな対応を致します。

1.学術教育活動計画案

- (1)全国赤十字病（産）院診療放射線技師業務研修会を開催し、会員研究発表及び教育学術講演など会員皆様の資質向上に役立つ事業を継続します。
- (2)HP・ML など活用した学術分科会活動を推進し、会員相互の連携と会員皆様の資質・学術向上に努めます。また、治療分科会、RI 分科会、医療情報分科会の設立に努めます。（会員皆様の分科会登録およびML 登録をお願いいたします。これらの登録は、HP からできます。皆様の参加をお待ちしています。）

2.広報部活動計画案

平成 20 年度広報部活動は、日赤放技ニュースの発行を第 1 号から第 3 号まで計 3 回発行いたします。会告、お知らせ、本会の動き、分科会活動など多岐にわたった情報を会員に提供いたしたいと考えております。

日本赤十字放射線技師会会誌 2009.Vol.50 の発刊をいたします。内容は、本社寄稿、学術特集、本社研修会、施設紹介、新入会員紹介、会員名簿など会員に有益な情報を提供いたしたいと考えておりますと共に、50 号という節目を踏まえ、記念号の企画を取り入れていきたいと考えております。

これまでの会誌等の印刷物の発行は、一部各部において発行しておりました。これらを一元化し、経費節減を目標に予算化し、広報部において発行を予定しております。予算については財務資料を参照下さい。

- 1)日本赤十字放射線技師会会誌 2009.Vol.50 の発行
- 2)日赤放技ニュース第 1 号から第 3 号まで計 3 回発行
- 3)総会資料及び研修会抄録の発行
- 4)発刊物の一元化による経費削減
- 5)ホームページとの情報の共存による、会員への有益な情報発信
- 6)会誌、技師会ニュースの電子化を推進し、データベース構築の実施

3.福利厚生案（総務部・事務局）

会員およびブロック理事、委員との連携を図るために、技師会 HP を活用し ML を構築して情報の効率化を目指し、速やかな対応を行う。

4.企画部活動案（企画部）

ホームページ（HP）の全面改訂により会員の連繋と連帯を推進し、赤十字病院の医療の質向上へ向けての有益な情報媒体として更なる充実を計る。また、メーリングリスト（ML）を活用した電子的運営をさらに推進し、技師会活動の機能的運営を支持する基盤整備を実施する予定である。

(1)日赤技師会ホームページ（HP）の全面改正

- ・現行の HP は、閲覧型であるが全国 93 施設に散在する会員の英知を集結し、赤十字病院の質の向上に貢献できるようにコンテンツマネジメントシステム(CMS)導入による参加型 HP に切り替える。
- ・今年度は、学術部と事務局へ CMS を導入し、会の機能的運営を実施する。

- ・今後、技師会ニュースや業務研修会抄録集などの紙面印刷配布から HP への全面移行を視野に入れ、広報部も同様なシステムを導入することを提案していく。

(2)HP および技師会 ML を活用した技師会活動の機能的運営の推進

- ・電子情報媒体を有効活用し ML 登録者の更なる増加を計る。
- ・学術部と連携し、分科会活動の機能的運営の推進を計る。
- ・組織調査部と連携し、アンケート調査等の効率運営化を計る。

(3)理事会メーリングリスト (ML) の構築と機能的活用の推進

- ・新たに理事会 ML を構築し、理事同士の意見交換を積極的に行う。
- ・理事会を円滑かつ機能的に実施し、次世代に適合した運営および本会の活動を企画する。

5.組織調査活動案 (組織調査部)

(1)平成 20 年度も継続して、会員台帳を充実させていきます。平成 20 年 4 月調査の際は台帳内容の正確性を期するために技師長 (課長) および会員の皆様のご協力をよろしくお願ひします。

(2)平成 19 年度のアンケート「認定資格取得調査」、「医療技術部動向調査」の結果報告について早期にホームページ等で公表いたします。

(3)医療技術部設置における本会と各施設の共同歩調化としての要望集約資料の作成を目指します。

6.表彰部活動案

第 2 条の 1 : 功労賞

本会の発展に関し、功績が抜群である者または顕著な功績があった者

| | | |
|---------------------|---------|--------------|
| 高橋 和弘 (タカハシ カズヒロ) 氏 | 北海道ブロック | 小清水赤十字病院 |
| 池田 英二 (イケダ エイジ) 氏 | 北海道ブロック | 伊達赤十字病院 |
| 草田 行雄 (クサダ イクオ) 氏 | 中部ブロック | 名古屋第二赤十字病院 |
| 中沢 正司 (ナカザワ ショウジ) 氏 | 中部ブロック | 飯山赤十字病院 |
| 花岡 宏行 (ハナオカ ヒロユキ) 氏 | 中部ブロック | 諏訪赤十字病院 |
| 駿田 耕一 (スルタ コウイチ) 氏 | 近畿ブロック | 京都第二赤十字病院 |
| 林 正彦 (ハヤシ マサヒコ) 氏 | 中四国ブロック | 松山赤十字病院 |
| 一瀬 弘之 (イチノセ ヒロユキ) 氏 | 九州ブロック | 日本赤十字社長崎原爆病院 |

第 2 条の 2 : 奨励賞

放射線技術学の研究奨励に値する者
施設 (奨励賞)

山田赤十字病院 中部ブロック

第 2 条の 3 : 感謝状

表彰該当者 (感謝状)

川村 佳生 (カワムラ ヨシキ) 氏 近畿ブロック 日本赤十字社和歌山医療センター

7.平成 20 年度予算（案）

| 収 入 の 部 | | | | |
|---------|-----------|-----------|------------|-------------|
| 科目 | 19年度予算額 | 20年度予算案 | 増 減 | 備考 |
| 会費 | 3,600,000 | 3,630,000 | 30,000 | 3,000×1210名 |
| 入会金 | 20,000 | 20,000 | 0 | 1,000×20名 |
| 雑収入 | 20,000 | 20,000 | 0 | |
| 業務研修会費 | 880,000 | 880,000 | 0 | 8,000×110名 |
| 会誌広告収入 | 400,000 | 400,000 | 0 | 会誌広告料 |
| 前年度繰越金 | 4,656,242 | 3,009,745 | △1,646,497 | |
| 合計 | 9,576,242 | 7,959,745 | △1,616,497 | |

| 支 出 の 部 | | | | |
|---------|-----------|-----------|------------|---------------|
| 科目 | 19年度予算額 | 20年度予算案 | 増減 | 備考 |
| 総会費 | 650,000 | 500,000 | △150,000 | 総会運営費 |
| 会議費 | 1,500,000 | 2,200,000 | 700,000 | 常任理事会・理事会費 |
| 役員活動費 | 119,000 | 119,000 | 0 | 3,500×34名 |
| ブロック活動費 | 700,000 | 700,000 | 0 | 100,000×7ブロック |
| 表彰費 | 200,000 | 150,000 | △50,000 | 賞状副賞・活動費 |
| 学術部費 | 150,000 | 200,000 | 50,000 | 活動費 |
| 財務部費 | 100,000 | 80,000 | △20,000 | 活動費 |
| 組織調査部費 | 50,000 | 40,000 | △10,000 | 活動費 |
| 広報部費 | 300,000 | 300,000 | 0 | 活動費 |
| 企画部費 | 150,000 | 300,000 | 150,000 | 活動費 |
| 事務局費 | 500,000 | 400,000 | △100,000 | 活動費・慶弔費 |
| 業務研修会費 | 880,000 | 880,000 | 0 | 8,000×110名 |
| 会誌発行費 | 1,400,000 | 1,550,000 | 150,000 | 会誌発行費 |
| サーバー管理費 | 0 | 252,000 | 252,000 | セキュリティ管理費 |
| 基金積立費 | 50,000 | 50,000 | 0 | 特別積み立て基金へ繰り出し |
| 予備費 | 2,827,242 | 238,745 | △2,588,497 | |
| 合計 | 9,576,242 | 7,959,745 | △1,616,497 | |

以上、日本赤十字放射線技師会 平成20年度予算（案）を報告します

日本赤十字放射線技師会 会長 益井 謙（印）
財務部 前川 栄寿（印）

平成 21 年

第 56 回定期総会資料

日 時 平成 21 年 6 月 8 日（月）午後 4 時 00 分より

会 場 日本赤十字社 本社 201 会議室

総会次第

開会の辞
会長挨拶
表 彰
総会議事運営報告
議長選出
議事録署名人選出、書記、採決係任命
選挙管理委員会報告
議 事

- 【第一号議案】 平成 20 年度事業経過報告
- 【第二号議案】 平成 20 年決算報告
- 【第三号議案】 平成 20 年度監査報告
- 【第四号議案】 平成 21 年度事業計画（案）
- 【第五号議案】 平成 21 年度予算（案）
- 【第六号議案】 その他

役員選挙
新旧役員挨拶
議長解任
新入会員の紹介
閉会の辞

日本赤十字放射線技師会

表 彰

会員各位

日本赤十字放射線技師会
会 長 益井 謙
表彰委員長 戸口 豊宏

日本赤十字放射線技師会表彰規定により、顕著な功績があったので表彰します。

1. 功労賞（第2条の1）第2条の1 功労賞

| | |
|-------|-----------|
| 片岡 幸子 | 高知赤十字病院 |
| 室谷 正吾 | 富山赤十字病院 |
| 西村 章三 | 石巻赤十字病院 |
| 村山 正栄 | 長岡赤十字病院 |
| 村田 稔 | 京都第二赤十字病院 |
| 富田 啓二 | 福井赤十字病院 |
| 道下 博行 | 益田赤十字病院 |
| 星野 憲司 | 釧路赤十字病院 |
| 小田 秀人 | 函館赤十字病院 |
| 関根 和正 | 深谷赤十字病院 |
| 名倉 邦彦 | 引佐赤十字病院 |

2. 奨励賞（第2条の2）

【施設】松山赤十字病院（計10回）

【個人】加賀 久喜 大阪赤十字病院

西関 剛 長浜赤十字病院

岡本 繁 京都第二赤十字病院

3. 感謝状（第2条の3）

川村 佳生 和歌山医療センター

敬称略・順不同

平成20年度事業報告

（総括）

平成20年の世相を現す今年の漢字に、「変」が選ばれた。あらゆる物象が、状況が、刻々変化するのは世の常であるが、グローバル的变化は、医療を取り巻く環境を大きく変革させようとしている。その変化を、察知し、推測を立て、状況に応じた備えをしなければならない。55周年を迎えた当技師会は、その記念事業のひとつとして、HPを会員同士の連繋を図る新しい活動拠点とするべく、限られた予算内で刷新改変した。会員相互の意見交換（学術的）や、施設毎の文化の紹介（日当直体制）など、その活動の全般に亘って展開していく新機軸を提示した。学術分科会はさらに3部門を立ち上げ、意思の疎通の利便性を高めた。今後、時代が、社会が、「変」化し、閉塞感と、焦燥感に包まれたとしても、当会の会員は、各施設の英知を集結し、共有し、改善に繋がる拠点を得たと思っている。業務研修会や分科会が主催する活動とも共鳴して、赤十字理念の実践の場として、放射線技師の存在意義の発露として多いに利用して戴きたい。

1. 会員の職業倫理の高揚に関する事業

- ・HPの全面改訂を図り、会員相互のコミュニケーションを図るインフラの整備を行った。
- ・技師長・課長MLを新設し、施設長間の連携がリアルタイムで行える環境を整備した。
- ・本社医療事業部と意思の疎通を図り、特に「大型医療機器共同購入」のアドバイザーとして関与した。
- ・日本赤十字社医学会総会の評議員として会長が参加、学術・企画理事が学会発表および発表者の後見視察を行った。

2. 学術講演ならびに研究発表に関する事業

- ・平成20年6月2日、3日業務研修会を本社で開催した（会員発表など詳細はHPで供覧）。

3. 放射線安全管理の徹底に関する事業および分科会活動

- ・業務研修会で55周年特別記念講演「医療機器の安全管理体制及び診療報酬上での評価」を行った。
- ・乳房画像分科会講演会を開催した（平成20年7月19日：深谷赤十字病院）。
- ・3分科会追加設立（治療・RI・医療情報）

4. 会誌、日赤放技ニュースなど発刊事業

- ・会誌は部数削減し、年1回、ニュースは（HP上）年3回発刊した。

5. 会員相互の福利厚生に関する事業

- ・慶弔規程に則り対応した。

平成 20 年度事業報告

1. 総務事項報告

(1) 平成 20 年度役員は次のとおりである。

| 役 職 名 | 氏 名 | 施 設 名 |
|--------------|-------|------------|
| 会 長 | 益井 謙 | 松江赤十字病院 |
| 副 会 長 | 中里 明 | 足利赤十字病院 |
| 副 会 長 | 黒田 順平 | さいたま赤十字病院 |
| 副 会 長 | 山縣 徳治 | 水戸赤十字病院 |
| 常任理事 (総務) | 辻 秀憲 | 京都第二赤十字病院 |
| 同 (事務局) | 磯田 康範 | 松江赤十字病院 |
| 同 (学術部) | 久保田利夫 | 前橋赤十字病院 |
| 同 (学術部) | 浅妻 厚 | 神戸赤十字病院 |
| 同 (財務部) | 前川 栄寿 | 成田赤十字病院 |
| 同 (組織調査部) | 石田 智広 | 福井赤十字病院 |
| 同 (企画部) | 新美 孝永 | 名古屋第二赤十字病院 |
| 同 (広報部) | 清水 文孝 | 深谷赤十字病院 |
| 同 (表彰委員会) | 戸口 豊宏 | 大分赤十字病院 |
| ブロック理事 (北海道) | 川井 明彦 | 函館赤十字病院 |
| 同 (東北) | 大隈 康之 | 秋田赤十字病院 |
| 同 (東部) | 林 智 | 長岡赤十字病院 |
| 同 (中部) | 福吉 正利 | 静岡赤十字病院 |
| 同 (近畿) | 井澤 秀恭 | 和歌山医療センター |
| 同 (中・四国) | 佐藤 繁 | 岡山赤十字病院 |
| 同 (九州) | 赤澤 武 | 熊本健康管理センター |

創立 55 周年記念事業担当

黒田順平 (兼務) 山縣徳治 (兼務) 中里 明 (兼務)

| 役 職 名 | 氏 名 | 施 設 名 |
|-------|-------|--------------|
| 監 事 | 松 山 繁 | 長野赤十字上山田病院 |
| 監 事 | 鈴木 利男 | 日本赤十字社医療センター |

ブロック委員

| 役 職 名 | 氏 名 | 施 設 名 |
|---------|-------|------------|
| 北海道ブロック | 相澤 幹也 | 北見赤十字病院 |
| 東 北ブロック | 横山 高広 | 仙台赤十字病院 |
| 東 部ブロック | 佐藤 法行 | 山梨赤十字病院 |
| 々 | 星野 洋満 | 前橋赤十字病院 |
| 中 部ブロック | 金子 彰 | 高山赤十字病院 |
| 々 | 月田 邦彦 | 名古屋第一赤十字病院 |
| 々 | 福吉 正利 | 静岡赤十字病院 |

| | | |
|----------|-------|---------|
| 近畿ブロック | 森上 安一 | 高槻赤十字病院 |
| 々 | 勝間 明 | 長浜赤十字病院 |
| 中・四国ブロック | 西田 史生 | 松山赤十字病院 |
| 々 | 真貝 勝 | 徳島赤十字病院 |
| 九州ブロック | 三谷 孝二 | 今津赤十字病院 |

広報委員会委員

| 役職名 | 氏名 | 施設名 |
|------|-------|---------|
| 広報部長 | 清水 文孝 | 深谷赤十字病院 |
| 事務局長 | 中山 進 | 々 |
| 会計主査 | 飯島 秀信 | 々 |
| 委員 | 川合 佳代 | 々 |
| 々 | 斉藤 幸夫 | 々 |
| 々 | 富田 欣治 | 々 |
| 々 | 清水 邦昭 | 々 |
| 々 | 桐生 幸恵 | 々 |

(2) 会議開催状況

1. 総会

第55回定期総会を平成20年6月2日(月)本社201会議室において、会員108名が出席(委任状提出1032名)して開催した。総会では、会長挨拶、表彰につづき、議長2名選出、古賀則夫(福岡)、松山秀夫(浜松)、両議長にて進行する。平成19年度事業報告および平成19年度会計報告ならびに平成20年度事業計画(案)および平成20年度収支予算(案)等について審議し承認され決議した。

2. 常任理事会、全国理事会は下記のとおり4回開催し、各理事会への提案議題の審議ならびに決定事項について処理した。

| | 年月日 | 内容 | 開催場所 |
|---|----------------|----------|-----------|
| 1 | 平成20年7月4日(金) | 第1回常任理事会 | 京都第二赤十字病院 |
| 2 | 平成20年10月31日(金) | 第2回常任理事会 | 本社403号室 |
| 3 | 平成21年2月27日(金) | 第3回常任理事会 | 福井赤十字病院 |
| 4 | 平成21年4月10日(金) | 全国理事会 | 本社401号室 |

3・広報委員会開催状況（広報部）

| 年 月 日 | 開 催 内 容 |
|---------------------|----------------------------|
| 平成 20 年 4 月 18 日 | 委員会開催 : 技師会ニュース第 1 号発刊準備 |
| 平成 20 年 4 月 24 日 | 々 : 技師会ニュース発送準備・作業・会議 |
| 平成 20 年 4 月 25 日 | 々 : 技師会ニュース発送持込 |
| 平成 20 年 5 月 7 日 | 々 : 総会資料・学術抄録発送準備・作業 |
| 平成 20 年 5 月 9 日 | 々 : 総会資料・学術抄録発送持込 |
| 平成 20 年 5 月 12 日 | 々 : 総会資料・学術抄録発送準備・作業・発送持込 |
| 平成 20 年 5 月 13 日 | 々 : 広報委員会編集会議（会誌編集について） |
| 平成 20 年 8 月 20 日 | 々 : 技師会ニュース校正作業・HP 掲載 |
| 平成 20 年 9 月 10 日 | 々 : 原稿依頼状等発送準備 |
| 平成 20 年 9 月 18 日 | 々 : 原稿依頼状等発送持込 |
| 平成 20 年 12 月 9 日 | 々 : 広報委員会編集会議（原稿割振、レイアウト等） |
| 平成 20 年 12 月 9 日 | 々 : 広告掲載費請求書発送作業 |
| 平成 20 年 12 月 15 日 | 々 : 入稿原稿校正作業 |
| 平成 20 年 12 月 22 日 | 々 : 会誌初回入稿 |
| 平成 21 年 1 月 21 日 | 々 : 会誌原稿校正作業 |
| 平成 21 年 1 月 23 日 | 々 : 会長校正依頼発送 |
| 平成 21 年 1 月 26～30 日 | 々 : 校正原稿随時入稿 |
| 平成 21 年 1 月 31 日 | 々 : 会誌会長校正終了原稿入稿 |
| 平成 21 年 2 月 6～9 日 | 々 : 会誌校正作業・入稿 |
| 平成 21 年 2 月 12 日 | 々 : 会誌最終校正作業・入稿 |
| 平成 21 年 3 月 10～13 日 | 々 : 会誌発送作業・準備、発送持込 |
| 平成 21 年 3 月 27 日 | 々 : 広報委員会編集会議及び残務整理 |

(2) 表 彰

叙 勲等は特になし。

(3) 会員の動向（平成 21 年 3 月 31 日現在）（事務局）

| 項 目 | 会 員 数 |
|----------------|---------|
| 平成年 19 度末 会員数 | 1,210 名 |
| 平成年 20 度 新入会者数 | 55 名 |
| 同 再入会者数 | 3 名 |
| 平成 20 年度末 会員数 | 1,244 名 |
| 同 退会者数 | 26 名 |

4) 平成 20 年度広告協賛 25 社 (五十音順)

| No. | 会 社 名 |
|-----|--------------------|
| 1 | エーザイ株式会社 |
| 2 | 株式会社 AZE「アゼ」 |
| 3 | 株式会社エルクコーポレーション |
| 4 | 株式会社カイゲン |
| 5 | 株式会社千代田テクノル |
| 6 | 株式会社根本杏林堂 |
| 7 | 株式会社日立メディコ |
| 8 | 株式会社マエダ |
| 9 | コニカミノルタヘルスケア株式会社 |
| 10 | シーメンス旭メディテック株式会社 |
| 11 | GE 横河メディカルシステム株式会社 |
| 12 | タイコヘルスケアジャパン株式会社 |
| 13 | 第一三共株式会社 |
| 14 | テルモ株式会社 |
| 15 | 東芝メディカルシステムズ株式会社 |
| 16 | 東洋メディック株式会社 |
| 17 | 日本化薬株式会社 |
| 18 | 日本放射線防禦株式会社 |
| 19 | 日本メドラッド株式会社 |
| 20 | 日本メジフィジックス株式会社 |
| 21 | バイエル薬品株式会社 |
| 22 | 富士製薬工業株式会社 |
| 23 | 富士フィルム RI ファーマ株式会社 |
| 24 | 富士フィルムメディカル株式会社 |
| 25 | 堀井薬品工業株式会社 |

2. 学術教育活動報告 (学術部)

1. 業務研修会での学術活動

平成 20 年度全国赤十字病 (産) 院診療放射線技師業務研修会において、下記の学術活動を行いました。参加人数 109 名 (69 施設)

①55周年特別記念講演「医療機器の安全管理体制及び診療報酬上での評価」

(社) 日本画像医療システム工業会 野口 雄司 様

②学術講演「乳房の診療から治療まで」

乳房画像分科会代表世話人 さいたま赤十字病院 尾形 智幸 氏

③本社講演「これからの医療体制と赤十字病院について」

日本赤十字社 医療事業部企画課長 大野 博敬 様

④会員研究発表（要望演題 7 題、一般演題 7 題、分科会報告 2 題）

2. 新たな学術分科会の設立

19 年度に設立した「MR・CT・乳房画像」各分科会に続き、新たに「治療」「核医学」「医療情報」の 3 分科会を設立しました。

各分科会の世話人は以下の通りです。（◎は代表世話人、敬称略）

治療分科会 ◎田中 啓一（医療センター）

○入川 富夫（鳥取）

○河原 貴史（京都第一）

○小山 登美夫（長野）

核医学分科会 ◎門前 一（大津）

○荻野 真博(旭川)

○星野 洋満（前橋）

医療情報分科会 ◎秋田 直昭（福井）

○竹安 直行（医療センター）

○千葉 美洋（石巻）

○高本 研二（松山）

3. 日本赤十字技師会ホームページ活動の推進

HP 講座の展開を推進し、会内外に技師会の学術活動をアピールしました。

ホームページ上に掲示板を設立して会員相互の情報交換の場を設け、分科会に絡む内容の質問・調査依頼については、各分科会が積極的に携わり活性化を促しました。

以下のように、ホームページ活動を行いました。

HP 講座

①シリーズ「Excel を利用した MU 独立検証 第 0～6 章（最終章）」【治療分科会】

②CT 造影技術講座 I 【CT 分科会】

③医療情報システムの手引き 【医療情報分科会】

アンケート報告

①乳房撮影等に関するアンケート報告 【乳房画像分科会】

②乳房 MRI 検査等に関するアンケート報告 【MR 分科会】

③検査着に関するアンケート報告 【乳房画像分科会】

④フィルムレスに伴うデータの持ち出し及び取り込みについてのアンケート報告
【医療情報分科会】

掲示板

- ①インプラントについて【乳房画像分科会】
- ②EOB プリモビストについて【MR 分科会】
- ③検査着について【乳房画像分科会】
- ④体重入力について【MR 分科会】
- ⑤乳房生検認定技師について【乳房画像分科会】
- ⑥分科会主催研究会およびポイント付与について
- ⑦CT 造影ライン確認方法について【CT 分科会】
- ⑧放射線部門内における静脈注射について
- ⑨電子カルテによる RI の予約の運用方法について【核医学分科会】
- ⑩S 値は臨床現場で線量の指標になるのでしょうか
- ⑪PACS サーバーへの外部画像入出力に関して【医療情報分科会】

4. 分科会主催研修会

第 1 回乳房画像勉強会 in FUKAYA を、7 月 19 日、深谷赤十字病院にて開催しました。

参加人数 30 (6 施設)

講演 1 「知っておきたい乳腺診断の流れ」 さいたま赤十字病院 尾形 智幸

講演 2 「デジタル乳房撮影装置における自動露出制御の管理とその重要性」

名古屋第二赤十字病院 真野 晃浩

講演 3 「MMG (マンモグラフィ) の基礎」 深谷赤十字病院 川合 佳代

読影実技及び解説

尾形 智幸、川合 佳代

5. 業務研修会プログラム委員会の開催

研修会研究発表応募演題の採用審議のため、業務研修会プログラム委員会を、3 月 2～5 日、3 月 6～9 日、3 月 12～13 日、計 3 回メールにて開催しました。

3. 広報部活動報告 (広報部)

平成 20 年度広報部活動は、日赤放技ニュース第 1 号を冊子として発行しました。また、ホームページの充実に伴い、日赤放技ニュース 2 号、3 号をホームページ上に掲載を行いました。内容は、会告、お知らせ、本会の動きなどの情報を会員に提供いたしました。次に、日本赤十字放射線技師会誌 2009. Vol. 50 を発刊いたしました。本社寄稿、本会の動き (本社研修会報告、分科会活動報告、ブロック研修会報告、日赤医学会報告、施設紹介、新入会員紹介等)、学術特集、創刊 50 号記念特集 (本社寄稿、特別寄稿、創刊からの歩み、名誉会員投稿)、トピックス、会員名簿など会員に様々な情報を提供いたしました。また、本会印刷物の一元化を図り、総会資料、学術抄録を広報部にて取り纏め、印刷製本を依頼しました。会誌、日赤放技ニュースの印刷、発送業務費用等を含めた一元化に取り組み、経費の削減化を図りました。

しかし、担当者の不慣れなことは否めず、委員会としての活動、会誌や技師会ニュースの内容についても十分な情報を提供できたかは不明です。今後も更なる検討を重ねると共に、会員の皆様よりご意見を頂戴し、より有意義な情報を会員の皆様に提供していきたいと考えております。

- 1) 日本赤十字放射線技師会会誌 2009. Vol. 50 を発行しました。
- 2) 日赤放技ニュース第 1 号発行しました。
- 3) 日赤放技ニュース第 2 号・3 号をホームページ上に掲載しました。
- 4) 会誌の広告協賛会社は、25 社でした。
- 5) 広報委員会にて、編集会議、校正作業、発送作業などの年度に渡り業務を遂行しました。
- 6) 本会の発行する印刷物の一元化を図り、経費削減に努めました。

4. 福利厚生報告（総務部・事務局）

慶弔規定に基づき、祝電 3 名、弔電 2 名について行った。

5. 企画部活動報告（企画部）

ホームページ（HP）の全面改訂により会員の連繋と連帯を推進し、赤十字病院の医療の質向上へ向けての有益な情報媒体として更なる充実を計った。また、メーリングリスト（ML）を活用した電子的運営をさらに推進し、技師会活動の機能的運営を支持する基盤整備を実施した。

具体的な活動報告を以下に記す。

(1) 日赤技師会ホームページ（HP）の全面改正

- ・ 現行の HP は、閲覧型であるが全国 93 施設に散在する会員の英知を集結し、赤十字病院の質の向上に貢献できるようにコンテンツマネジメントシステム（CMS）導入による参加型 HP に切り替えた。
- ・ 今年度は、学術部と事務局の部分へ CMS 導入し、会の機能的運営を実施した。
- ・ 導入した CMS を有効活用し、技師会ニュースを紙面印刷配布から HP への全面移行を実施した。
- ・ HP 上にホットラインコーナを設置し、学術に限らず会員からのいかなる質問にも常時対応できるようにした。

(2) 理事会および技師長・課長メーリングリスト（ML）の構築

- ・ 理事会 ML を構築、活用し、理事同士の意見交換を積極的に行った。
- ・ 技師長・課長 ML を構築、活用し、施設長同士の意見交換を積極的に行った。

(3) HP および技師会 ML を活用した技師会活動の機能的運営の推進

- ・ 理事会を円滑かつ機能的に実施し、次世代に適合した技師会運営を推進した。
- ・ 学術部と連携し、HP を活用した分科会活動の機能的運営を推進した。
- ・ 組織調査部と連携し、技師長・課長 ML および HP を活用したアンケート調査等の効率運営を推進した。

6. 組織調査活動報告（組織調査部）

- (1) 平成 19 年 4 月に全国赤十字病院技師長、課長宛に会員台帳の調査を行い、総会までに今年度の新入会員者（予定者）と施設毎会員数の現況把握を行った。
- (2) 新ホームページ運用の開始に合わせ、会員の IDNO を割り当てた。
- (3) 平成 19 年度の調査アンケート「認定資格取得調査」、「医療技術部動向調査」の結果報告についてホームページへ公表した。

- (4) 技師長・課長 ML (ホットクロス ML) への登録推進とその管理を行った。
- (5) ホットクロス ML で協議された①各施設の造影注射体制の状況調査 ②日当直体制の現況調査について集約版としてホームページ上へ掲載した。

7. 表彰部報告

功労賞

北海道ブロック 小清水赤十字病院
高橋 和弘 (タカハシ カズヒロ) 氏
伊達赤十字病院
池田 英二 (イケダ エイジ) 氏

中部ブロック 名古屋第一赤十字病院
草田 行雄 (クサダ イクオ) 氏
飯山赤十字病院
中沢 正司 (ナカザワ ショウジ) 氏
諏訪赤十字病院
花岡 宏行 (ハナオカ ヒロユキ) 氏

近畿ブロック 京都第二赤十字病院
駿田 耕一 (スルタ コウイチ) 氏

中四国ブロック 松山赤十字病院
林 正彦 (ハヤシ マサヒコ) 氏

九州ブロック 日本赤十字社長崎原爆病院
一瀬 弘之 (イチノセ ヒロユキ) 氏

以上 8 名の方を功労賞として表彰しました。

第 2 条の 2 奨励賞

施設 山田赤十字病院
学術発表が施設として計 10 回に達したため表彰しました。

第 2 条の 3 感謝状

日本赤十字社和歌山医療センター
川村 佳生 (カワムラ ヨシキ) 氏

平成 19 年度定年退職者・次年度退職者を該当者として推薦させていただきました。

8. ブロック報告

【北海道ブロック】

第 18 回北海道ブロック学術研修会 平成 20 年 9 月 27～28 日 函館赤十字病院担当

【東部ブロック】

- (1) 第 1 回 東部ブロック 乳房画像勉強会 in Fukaya
今回初めての試みでした。学術部、分科会世話人と深谷赤十字病院の協力で精中委認定を目指す方、スキルアップの方などの勉強会との報告 (詳細は担当病院に)
平成 20 年 7 月 深谷赤十字病院担当 分科会世話人、学術部

(2) 第 21 回 東部ブロック研修会 平成 20 年 11 月 8 日～9 日 前橋赤十字病院担当

【近畿ブロック】

第 17 回近畿ブロック学術研修会 平成 21 年 2 月 28 日～3 月 1 日
長浜赤十字病院担当

【九州ブロック】

(1) 第 9 回学術研修会 福岡赤十字病院担当
開催日時：平成 20 年 9 月 27 日（土）～28 日（日）
開催場所：日本赤十字社九州ブロック研修センター『アソシエート』
特別講演 1、教育講演 1、会員研究発表 9 演題

9. 平成 20 年度決算報告

10. 平成 20 年度監査報告

監 査 報 告 書

平成 21 年 4 月 10 日（金）午前 10 時より、日本赤十字本社内において、日本赤十字放射線技師
会会則第 3 章第 15 条に基づき、

- 1・平成 20 年度特別積立金
- 2・平成 20 年度会誌特別会計
- 3・平成 20 年度業務研修決算
- 4・平成 20 年度一般会計決算
- 5・平成 20 年度会務（年度事業計画に基づく）

以上の証拠書類の照合および検算を厳正に監査した。

平成 21 年度事業計画案

(総括)

時代は変革を求めている、本社の「もっとクロス！計画」やアメリカ合衆国の新リーダーの選挙用のキャッチ・フレーズ「YES WE CAN」に先駆けて、『ホットライン計画』や『ホットクロス計画』を推進し、『WE CAN TOO』して来た。今年は愈々、その改革路線、変革線路上に夢を乗せて走らせねばならない。まず、HP の機能強化、利便性へのスキルアップを図り、会員個々との連繋・連絡網の整備を強化する。技師長・課長 ML の運用充実は、本社とのパイプを強化し、各施設長とのコミュニケーション・ツールとして進化させるもの。各ブロック活動や分科会活動を通じて、全体の技術レベルの向上を、協議しながら推進する。「大型医療機器共同購入」、「医療技術部」、「勤務評定」など、本社が推進する制度やアクションプランに呼応できる態勢作りを行う。一方で、施設における放射線技師の有効活用（電子カルテ・PACS など医療情報関係）を喧伝して行き、国際救援や災害救援活動など、我々の存在感を誇示するためにも、我々自身の存在意義への学術的研鑽の場を広く設けたい。

1. 会員の職業意識の高揚に関する事業

- ・ 本社医療事業部と連繋を密にし、赤十字事業の展開に、我々が関与協力できる態勢の充実をより推進したい。
- ・ 日本赤十字医学会への参加を促すと共に、質の向上をより目指したい。

2. 学術活動に関する事業

- ・ 業務研修会を開催し、会員のレベル向上を推進したい。
- ・ 学術分科会活動を支援し、会員相互のスキルアップを図りたい。

3. 会員相互の連携に関する事業

- ・ HP の充実を図り、情報交換の窓口としての利便性の向上を推進したい。
- ・ 技師長・課長 ML の登録を促し、意見交換の場として機動性の向上を目指したい。
- ・ ブロック研修会がより活性する為の支援を推進したい。
- ・ 災害救援活動とそのネットワークを構築し推進したい。

4. 会誌・日赤放技ニュースに関する事業

- ・ 会誌は年 1 回、ニュースは年 4 回発刊したい。掲載主媒体は HP に置き、発行部数は最小限に抑えたい。ニュースは HP に掲載。

5. 会員相互の福利厚生に関する事業

- ・ 慶弔規定に則り、速やかな対応を促したい。

1. 学術教育活動計画案

1. 平成 21 年度全国赤十字病（産）院診療放射線技師業務研修会開催にあたり、会員皆様の資質向上に役立つ研修会を企画いたします。

2. 本年度は、掲載内容をより一層充実させ、会員間の情報交流の場となるようなホームページを目指します。

3. 各分科会活動のさらなる活性を推進いたします。

昨年度、新たに 3 分科会が発足して、6 分科会が活動を始めていますが、まだ発展途上です。HP 講座の継続や新規企画等、各分科会活動のさらなる活性を推進いたします。

2. 広報部活動計画案

平成 20 年度広報部活動は、日赤放技ニュース第 1 号を冊子として発行しました。また、ホームページの充実に伴い、日赤放技ニュース 2 号、3 号をホームページ上に掲載を行いました。内容は、会告、お知らせ、本会の動きなどの情報を会員に提供いたしました。次に、日本赤十字放射線技師会会誌 2009. Vol. 50 を発刊いたしました。本社寄稿、本会の動き（本社研修会報告、分科会活動報告、ブロック研修会報告、日赤医学会報告、施設紹介、新入会員紹介等）、学術特集、創刊 50 号記念特集（本社寄稿、特別寄稿、創刊からの歩み、名誉会員投稿）、トピックス、会員名簿など会員に様々な情報を提供いたしました。また、本会印刷物の一元化を図り、総会資料、学術抄録を広報部にて取り纏め、印刷製本を依頼しました。会誌、日赤放技ニュースの印刷、発送業務費用等を含めた一元化に取り組み、経費の削減化を図りました。

しかし、担当者の不慣れなことは否めず、委員会としての活動、会誌や技師会ニュースの内容についても十分な情報を提供できたかは不明です。今後も更なる検討を重ねると共に、会員の皆様よりご意見を頂戴し、より有意義な情報を会員の皆様に提供していきたいと考えております。

- 1) 日本赤十字放射線技師会会誌 2009. Vol. 50 を発行しました。
- 2) 日赤放技ニュース第 1 号発行しました。
- 3) 日赤放技ニュース第 2 号・3 号をホームページ上に掲載しました。
- 4) 会誌の広告協賛会社は、25 社でした。
- 5) 広報委員会にて、編集会議、校正作業、発送作業などの年度に渡り業務を遂行しました。
- 6) 本会の発行する印刷物の一元化を図り、経費削減に努めました。

3. 福利厚生案（総務部・事務局）

会員およびブロック理事、委員との連携を図るために、技師会 HP を活用し技師長・課長 ML を構築して情報の効率化を目指し、速やかな対応を行う。

4. 企画部活動案（企画部）

平成 20 年度は、技師会活動の基盤整備が中心であったが、基盤がおおよそ整備された今年度は「ユビキタスネットワークを活用し、診療および災害支援を目的とした 21 世紀型職域団体をめざす」という目標達成させるべく基盤の機能強化を図る。

具体的な活動計画を以下に記す。

(1)日赤技師会ホームページ（HP）の機能強化

- ・HPの改善を通して、利便性へのスキルアップを図る。
- ・HPの活用を推進し、会員個々との連繋・連絡網の整備を強化する。
- ・国際救援や災害救援活動のコーナーの充実を図る。

(2)メーリングリスト（ML）の活用推進

- ・理事会MLを活用し、積極的な意見交換の実施によりユビキタスな技師会運営を推進する。
- ・技師長・課長MLの活用推進を図り、各施設長とのコミュニケーション・ツールとして進化させる。
- ・日赤技師会MLの活用推進を図り、会員相互のコミュニケーション・ツールとして進化させる。

(3)HPおよび技師会MLを活用した技師会活動の機能的運営の推進

- ・HPおよびMLの活用によりユビキタスな技師会運営を推進する。
- ・HPおよびMLの活用によりブロック研修会運営のサポートを推進する。
- ・学術部と連携し、HPを活用した分科会活動の機能的運営を推進する。
- ・組織調査部と連携し、技師長・課長MLおよびHPを活用したアンケート調査等の効率運営を推進する。

(4)学術部メーリングリスト（ML）から技師会MLへの移行

現在、名古屋第二赤十字病院のサーバを利用して構築している「学術部ML」をムツダ商会のサーバに移行し、「日赤技師会ML」として再構築する。日赤技師会MLは、学術のみならず会員同士の意見交換ツールとして活用していく予定である。

5. 組織調査活動案（組織調査部）

(1) 平成21年度も継続して全国赤十字病院施設へ会員台帳確認の調査を行います。

H21.4月調査の際は台帳内容の正確性を期するために技師長（課長）及び会員の皆様のご協力をよろしくお願いいたします。なお、今年度より変更がない場合はメール返信も可能と致します。

(2) 会員台帳調査に合わせて技師長・課長メーリングリスト（ホットクロス ML）の未登録施設へ登録を促します。

(3) 技師長・課長メーリングリスト（ホットクロス ML）を活用して各施設の抱える問題について定期的にその状況調査を進めます。

6. 表彰部活動案

第2条の1 功労賞

高知赤十字病院 片岡 幸子

富山赤十字病院 室谷 正吾

石巻赤十字病院 西村 章三

長岡赤十字病院 村山 正栄

京都第二赤十字病院 村田 稔

福井赤十字病院 富田 啓二

益田赤十字病院 道下 博行

釧路赤十字病院 星野 憲司

第2条の2 奨励賞 施設 松山赤十字病院

奨励賞 個人

大阪赤十字病院 加賀 久喜

長浜赤十字病院 西関 剛

京都第二赤十字病院 岡本 繁

第2条の3 感謝状

和歌山医療センター 川村 佳生

今後の方向

退職者（死亡退職者）のなかで、日本赤十字放射線技師会に入会し勤務25年以上・年齢55歳以上の会員も対象としますので、組織調査部との連携を密に図り、漏れの無いよう推し進めていきます。また、奨励賞に関しても学術と連携し、推薦いただいた会員を理事会にはかり決める方向で考えております。会員の皆様からの表彰対象情報を、ホームページまたはMLで啓蒙することを考えています。

いままでは、12月初旬に表彰に関する広報をしていましたが、もう少し早い時期でのHP上でお知らせを考えております。推薦書に於いても、推薦者の捺印があったのですが、これを廃止しメールもしくはFAXで受け付けようと考えています。また、奨励賞に関しても発表の中で、偉大な技術・功績で社会に貢献できたと学術部が認めた場合は、1回でも表彰することを考慮する。日赤医学会総会における発表も奨励賞の対象にすることを会員に総会時にもう一度お知らせすると同時に、日赤医学会の発表に関しては、会員の自己申請とすることも認識していただく。以上の表彰委員会で選考を行い、理事会の承認を得るものとする。

7. 平成21年度予算（案）

8. ブロック活動案

【北海道ブロック】

学術研修会

【東部ブロック】

第22回学術研修会 水戸赤十字病院担当

【近畿ブロック】

第18回近畿ブロック学術研修会 神戸赤十字病院担当

【九州ブロック】

第10回学術研修会 今津赤十字病院担当（三谷 孝二氏）

第 56 回 定期総会 議事録

1. 日 時 : 平成 21 年 6 月 8 日 (月) 午後 3 時 30 分 ~ 5 時
2. 会 場 : 日本赤十字社 本社 201 号室
3. 出席者 : 日本赤十字放射線技師会 会員 116 名
4. 議事録作成人 常任理事 総務担当 辻 秀憲
5. 総会次第
 - ① 開会の辞
 - ② 会長挨拶
 - ③ 表 彰
 - ④ 総会議事運営報告
 - ⑤ 議長選出
 - ⑥ 議事録署名人・採決係り任命
 - ⑦ 議事
 - 第 1 号議案 平成 20 年度事業経過報告
 - 第 2 号議案 平成 20 年度決算報告
 - 第 3 号議案 平成 20 年度監査報告
 - 第 4 号議案 平成 21 年度事業計画(案)
 - 第 5 号議案 平成 21 年度予算 (案)
 - 第 6 号議案 その他
 - ⑧ 役員改選 選挙管理委員会報告
 - ⑨ 議長解任
 - ⑩ 閉会の辞

上記の総会次第に基づいて、当技師会 益井会長の挨拶にはじまり、表彰に移る。

表彰委員長の戸口理事により紹介される

功労賞は、11 名 奨励賞は、施設 1 、個人 3 名 感謝状は 1 名

表彰後、次に、総会議事運営報告（資格審査報告）を事務局の磯田理事より報告
本日の出席者 116 名、委任状提出者 1081 名、合計 1197 名（96%）の
確認より、会則第 20 条の規定に基づき本総会は成立しますと報告。

次に、議長選出となる。会場より立候補がないため、執行部より 2 名を推薦した。

大田原赤十字病院 手塚 章一様 福岡赤十字病院 山口 英雄様

議長より、議事録署名人・採決係りを会場より 4 名を任命

| | | |
|----------|---------|-------|
| 議事録署名人は、 | 神戸赤十字病院 | 中田 正明 |
| | 足利赤十字病院 | 蓼沼 志織 |
| 採決係りは、 | 前橋赤十字病院 | 長瀬 博之 |
| | 大分赤十字病院 | 凍田 淳平 |

議長の進行により議事に入る。

第 1 号議案から第 3 号議案まで一括して執行部より報告。

報告後、質問に入る

☆Q：基金の決算報告がないのは、なぜか

A：昨年総会でも説明があったように、郵便貯金法による会計を一本化したため、予備費に掲載している。

☆Q：決算報告で、繰越金が年々減っている関係上、今後、赤字になるのではないか

A：会誌発行料や会議数を減らす方向でいるため、今のところ懸念はありません。

☆Q：組織率について、教えていただきたい

A：組織率は、現在、95%です。会費の納入率は、100%です。

☆Q：決算報告で、会誌売却費とは、何か

A：メーカーさんより、会誌購入の申し出があり、1冊1,000円で、30冊の売却となった費用です。

採決にはいり、第 1 号議案から第 3 号議案までは、賛成多数で承認された。

次に第 4 号議案から第 5 号議案まで一括して執行部より報告。

報告後、質問に入る。

☆Q：21 年度予算案で、会誌広告収入が、20 万円と減額になっているのはなぜか

A：19 年度は 62 万円、20 年度は 49 万円と、年々減っており、社会情勢や企業の経営事情により、各企業の広告収入の削減があります。本年度は、期待できないと考えております

☆Q：ブロック活動費、各 10 万円の予算があるが、これは、強制なのか

A：7 ブロック全てに活動をお願いしておりますが、やはり、地域性もあるため、検討はしていただいているが強制はできません。活動していないブロックの分を削減するわけにはいかない。活動しているブロックを目標にして、それぞれ、活発に活動していただきたいと思っております。

☆Q：事業計画の中の分科会活動の目的を明確にしたらどうか

A：各分科会の世話人に一任のため、現在のところ、明確になっていませんが、今後、目的を明確にして、ホームページ（HP）に掲載していく予定です。

☆Q：メーリングリスト（ML）と HP の活用方法についてはどのようにされているか

A：HP を中心に掲載するだけでは、情報伝達力不足のため、今後、HP と ML の 2 本立ての発信を考えています。

☆Q：ML の内容をチェックしているのか

A：現段階では、社会的問題もありますので、チェックせざるを得ないです

採決にはいり、第4号議案から第5号議案までは、賛成多数で承認された。
次に第6号議案の報告・承認があり、賛成多数で承認された。

次に、役員改選が行なわれ、選挙管理委員長より報告された。

立候補者の定数を満たしているため、立候補者の当選と報告があり、承認されました。

平成21、22年度の役員は以下のとおり

会 長： 益 井 謙 (松江赤十字病院)

副 会 長： 清 水 文 孝 (深谷赤十字病院)

*広報担当兼務

副 会 長： 久保田 利 夫 (前橋赤十字病院)

*学術担当兼務

監 事： 鈴 木 利 男 (赤十字医療センター)

々 : 中 里 明 (足利赤十字病院)

常任理事

事 務 局： 磯 田 康 範 (松江赤十字病院)

総 務： 辻 秀 憲 (京都第二赤十字病院)

学 術： 浅 妻 厚 (神戸赤十字病院)

財 務： 前 川 栄 寿 (成田赤十字病院)

組 織 調 査： 石 田 智 広 (福井赤十字病院)

企 画： 新 美 孝 永 (名古屋第二赤十字病院)

表 彰： 戸 口 豊 宏 (大分赤十字病院)

以上にて、議事を終了したので、議長は解任となった。

最後、中里副会長に閉会の辞をもって、総会は終了となった。

平成 22 年

第 57 回定期総会資料

日 時 平成 22 年 6 月 10 日（月）午後 3 時 40 分より

会 場 東京国際フォーラム 会議室

総 会 次 第

開会の辞
会長挨拶
表 彰
総会議事運営報告
議長選出
議事録署名人選出、書記、採決係任命
議 事

- 【第一号議案】 平成 21 年度事業経過報告
- 【第二号議案】 平成 21 年決算報告
- 【第三号議案】 平成 21 年度監査報告
- 【第四号議案】 平成 22 年度事業計画（案）
- 【第五号議案】 平成 22 年度予算（案）
- 【第六号議案】 その他

議長解任
閉会の辞

日本赤十字放射線技師会

表 彰

会員各位

日本赤十字放射線技師会
会 長 益井 謙
表彰委員長 戸口 豊宏

日本赤十字放射線技師会表彰規定により、顕著な功績があったので表彰します。

1. 功労賞（第2条の1）第2条の1 功労賞

| | |
|-------|-----------|
| 片岡 幸子 | 高知赤十字病院 |
| 室谷 正吾 | 富山赤十字病院 |
| 西村 章三 | 石巻赤十字病院 |
| 村山 正栄 | 長岡赤十字病院 |
| 村田 稔 | 京都第二赤十字病院 |
| 富田 啓二 | 福井赤十字病院 |
| 道下 博行 | 益田赤十字病院 |
| 星野 憲司 | 釧路赤十字病院 |
| 小田 秀人 | 函館赤十字病院 |
| 関根 和正 | 深谷赤十字病院 |
| 名倉 邦彦 | 引佐赤十字病院 |

2. 奨励賞（第2条の2）

【施設】松山赤十字病院 （計10回）
【個人】加賀 久喜 大阪赤十字病院

西関 剛 長浜赤十字病院

岡本 繁 京都第二赤十字病院

3. 感謝状（第2条の3）

川村 佳生 和歌山医療センター

敬称略・順不同

【 第一号議案 】

平成 21 年度事業報告（総括）

変革の時代には、必ず後押しする「文明」を伴うものである。蒸気機関然り、石油内燃機関然り。その文明の利器を補助にして時代はこじ開けられるのである。その開かれた状態を、いわゆる「文明開化」と云う。IT 文明の申し子であるユビキタス社会の到来に当たり、当技師会は『ホットライン計画』や『ホットクロス計画』を実践して来た。各施設の技師長・課長のトップリーダーとの情報網の連結、本社や医学会との緊密態勢を堅固に推進して来た。その基軸になったのは、諸先輩が礎を築いてくれた「会誌」や「ニュース」であり「HP（ホームページ）」の情報媒体である。各会員の協力により HP は今や、電子会誌として当会の『文明開化』をもたらそうとしている。今年度の事業の主眼は、HP の充実にあつて、6 分科会の活動拠点となり、又、災害医療にも新基軸を籠めて編纂した。一方、スキルアップ著しい会員の足がかりとして、従来の「業務研修会」を「日本赤十字放射線技師学術大会」として、『学術的文明開化』の証とする事とした。受動的なお仕着せの研修会から、能動的な自覚自立した学術集団への文明開化である。今年度、我々の文明開化の足跡は以下の通りである。

平成 21 年度事業報告

1. 総務事項報告

(1) 平成 21 年度役員は次のとおりである。

| 役 職 名 | 氏 名 | 施 設 名 |
|---------------------|-------|------------|
| 会 長 | 益井 謙 | 松江赤十字病院 |
| 副 会 長 (災害・文書兼務) | 久保田利夫 | 前橋赤十字病院 |
| 副 会 長 (広報兼務) | 清水 文孝 | 深谷赤十字病院 |
| 常任理事 (総務・安全推進兼務) | 辻 秀憲 | 京都第二赤十字病院 |
| 同 (事務局) | 磯田 康範 | 松江赤十字病院 |
| 同 (学術部) | 浅妻 厚 | 神戸赤十字病院 |
| 同 (財務部) | 前川 栄寿 | 成田赤十字病院 |
| 同 (組織調査部・IT 兼務) | 石田 智広 | 福井赤十字病院 |
| 同 (企画部・IT 兼務) | 新美 孝永 | 名古屋第二赤十字病院 |
| 同 (表彰部・IT 兼務) | 戸口 豊宏 | 大分赤十字病院 |
| ブロック理事 (北海道) | 川井 明彦 | 函館赤十字病院 |
| 同 (東北) | 新田 仁 | 盛岡赤十字病院 |
| 同 (東部) | 林 智 | 長岡赤十字病院 |
| 同 (中部) | 福吉 正利 | 静岡赤十字病院 |

| | | |
|---------|-------|---------|
| 同（近畿） | 中島 敏博 | 姫路赤十字病院 |
| 同（中・四国） | 西田 史生 | 松山赤十字病院 |
| 同（九州） | 三谷 孝二 | 今津赤十字病院 |

| | | |
|-------|-------|--------------|
| 役 職 名 | 氏 名 | 施 設 名 |
| 監 事 | 鈴木 利男 | 日本赤十字社医療センター |
| 監 事 | 中里 明 | 足利赤十字病院 |

ブロック委員

| | | |
|----------|-------|----------|
| 役 職 名 | 氏 名 | 施 設 名 |
| 北海道ブロック | 川井 明彦 | 函館赤十字病院 |
| 東 北ブロック | 新田 仁 | 盛岡赤十字病院 |
| 東 部ブロック | 星野 洋満 | 前橋赤十字病院 |
| 中 部ブロック | 金子 彰 | 高山赤十字病院 |
| 近 畿ブロック | 内橋 宣尚 | 中町赤十字病院 |
| 々 | 浅妻 厚 | 神戸赤十字病院 |
| 中・四国ブロック | 真貝 勝 | 徳島赤十字病院 |
| 々 | 梶谷 努 | 岡山赤十字病院 |
| 九 州ブロック | 吉見 公作 | 鹿児島赤十字病院 |

広報委員会委員

| | | |
|---------|-------|---------|
| 役 職 名 | 氏 名 | 施 設 名 |
| 広 報 部 長 | 清水 文孝 | 深谷赤十字病院 |
| 事 務 局 長 | 中山 進 | 々 |
| 会 計 主 査 | 飯島 秀信 | 々 |
| 委 員 | 川合 佳代 | 々 |
| 々 | 斉藤 幸夫 | 々 |
| 々 | 富田 欣治 | 々 |
| 々 | 清水 邦昭 | 々 |
| 々 | 桐生 幸恵 | 々 |

（2）議開催状況

1. 総会

第 56 回定期総会を平成 21 年 6 月 8 日（月）本社 201 会議室において、会員 116 名が出席（委任状提出 1 1032 名）して開催した。総会では、会長挨拶、表彰式、議事運営報告につづき、議長 2 名、手塚章一（大田原赤十字病院）山口英雄（福岡赤十字病院）を選出して、両議長にて議事進行する。平成 20 年度事業報告および平成 20 年度会計報告ならびに平成

21年度事業計画（案）および平成21年度収支予算（案）等について審議し、決議した。理事・監事が任期満了になるのでその後任選任について、選挙管理委員長、鈴木繁氏（前橋赤十字病院）より報告された。会長理事立候補者に益井謙氏（松江赤十字病院）1名、および監事候補者に鈴木利男氏（日本赤十字医療センター）、中里明氏（足利赤十字病院）の2名、副会長候補者に清水文孝氏（深谷赤十字病院）、久保田利夫氏（前橋赤十字病院）2名の立候補推薦届けがあり、会員全員異議なく候補者は選任された。尚、常任理事、ブロック理事については、下記のとおり選任された。

| | |
|---------|--|
| 会 長 | 益井 謙 |
| 副 会 長 | 清水 文孝、久保田 利夫 |
| 監 事 | 鈴木 利男、中里 明 |
| 常 任 理 事 | 磯田 康範、辻 秀憲、浅妻 厚、前川 栄寿 石田 智広、新美 孝永、戸口 豊宏 |
| ブロック理事 | 川井 明彦、新田 仁、林 智、福吉 正利 中島 敏博、西田 史生、三谷 孝二 |

2. 常任理事会、全国理事会は下記のとおり4回開催し、各理事会への提案議題の審議ならびに決定事項について処理した。

| | 年 月 日 | 内 容 | 開 催 場 所 |
|---|-----------------|-----------|-----------|
| 1 | 平成21年 7月 3日（金） | 第1回常任理事会 | 本社203号室 |
| 2 | 平成21年 11月 3日（金） | 第2回常任理事会 | 神戸赤十字病院 |
| 3 | 平成22年 2月 12日（金） | 第3回常任理事会 | 東京国際フォーラム |
| 4 | 平成22年 4月 16日（金） | 全 国 理 事 会 | 東京国際フォーラム |

(3) 表彰

第2条の1 功労賞

高知赤十字病院 片岡 幸子
 富山赤十字病院 室谷 正吾
 石巻赤十字病院 西村 章三
 長岡赤十字病院 村山 正栄
 京都第二赤十字病院 村田 稔
 福井赤十字病院 富田 啓二
 益田赤十字病院 道下 博行
 釧路赤十字病院 星野 憲司
 函館赤十字病院 小田 秀人
 深谷赤十字病院 関根 和正
 引佐赤十字病院 名倉 邦彦

第2条の2 奨励賞 施設 松山赤十字病院

奨励賞 個人

大阪赤十字病院 加賀 久喜

長浜赤十字病院 西関 剛

京都第二赤十字病院 岡本 繁

第2条の3 感謝状

和歌山医療センター 川村 佳生

(4) 物故者 (敬称略)

松山 秀夫 (浜松赤十字病院)

(5) 会員の動向 (平成21年10月31日現在) (事務局)

| 項 目 | 会 員 数 |
|--------------|---------|
| 平成年20度末 会員数 | 1,244 名 |
| 平成年21度 新入会者数 | 57 名 |
| 同 再入会者数 | 2 名 |
| 平成21年度 会員数 | 1,286 名 |
| 同 退会者数 | 31 名 |

3・広報委員会開催状況（広報部）

| 年 月 日 | 開 催 内 容 |
|---------------------|----------------------------|
| 平成 20 年 4 月 18 日 | 委員会開催 : 技師会ニュース第 1 号発刊準備 |
| 平成 20 年 4 月 24 日 | 々 : 技師会ニュース発送準備・作業・会議 |
| 平成 20 年 4 月 25 日 | 々 : 技師会ニュース発送持込 |
| 平成 20 年 5 月 7 日 | 々 : 総会資料・学術抄録発送準備・作業 |
| 平成 20 年 5 月 9 日 | 々 : 総会資料・学術抄録発送持込 |
| 平成 20 年 5 月 12 日 | 々 : 総会資料・学術抄録発送準備・作業・発送持込 |
| 平成 20 年 5 月 13 日 | 々 : 広報委員会編集会議（会誌編集について） |
| 平成 20 年 8 月 20 日 | 々 : 技師会ニュース校正作業・HP 掲載 |
| 平成 20 年 9 月 10 日 | 々 : 原稿依頼状等発送準備 |
| 平成 20 年 9 月 18 日 | 々 : 原稿依頼状等発送持込 |
| 平成 20 年 12 月 9 日 | 々 : 広報委員会編集会議（原稿割振、レイアウト等） |
| 平成 20 年 12 月 9 日 | 々 : 広告掲載費請求書発送作業 |
| 平成 20 年 12 月 15 日 | 々 : 入稿原稿校正作業 |
| 平成 20 年 12 月 22 日 | 々 : 会誌初回入稿 |
| 平成 21 年 1 月 21 日 | 々 : 会誌原稿校正作業 |
| 平成 21 年 1 月 23 日 | 々 : 会長校正依頼発送 |
| 平成 21 年 1 月 26～30 日 | 々 : 校正原稿随時入稿 |
| 平成 21 年 1 月 31 日 | 々 : 会誌会長校正終了原稿入稿 |
| 平成 21 年 2 月 6～9 日 | 々 : 会誌校正作業・入稿 |
| 平成 21 年 2 月 12 日 | 々 : 会誌最終校正作業・入稿 |
| 平成 21 年 3 月 10～13 日 | 々 : 会誌発送作業・準備、発送持込 |
| 平成 21 年 3 月 27 日 | 々 : 広報委員会編集会議及び残務整理 |

(4) 平成 20 年度広告協賛 25 社 (五十音順)

| No. | 会 社 名 |
|-----|--------------------|
| 1 | エーザイ株式会社 |
| 2 | 株式会社 AZE「アゼ」 |
| 3 | 株式会社エルクコーポレーション |
| 4 | 株式会社カイゲン |
| 5 | 株式会社千代田テクノ |
| 6 | 株式会社根本杏林堂 |
| 7 | 株式会社日立メディコ |
| 8 | 株式会社マエダ |
| 9 | コニカミノルタヘルスケア株式会社 |
| 10 | シーメンス旭メディテック株式会社 |
| 11 | GE 横河メディカルシステム株式会社 |
| 12 | タイコヘルスケアジャパン株式会社 |
| 13 | 第一三共株式会社 |
| 14 | テルモ株式会社 |
| 15 | 東芝メディカルシステムズ株式会社 |
| 16 | 東洋メディック株式会社 |
| 17 | 日本化薬株式会社 |
| 18 | 日本放射線防衛株式会社 |
| 19 | 日本メドラッド株式会社 |
| 20 | 日本メジフィジックス株式会社 |
| 21 | バイエル薬品株式会社 |
| 22 | 富士製薬工業株式会社 |
| 23 | 富士フィルム RI ファーマ株式会社 |
| 24 | 富士フィルムメディカル株式会社 |
| 25 | 堀井薬品工業株式会社 |

2. 学術教育活動報告 (学術部)

(1) 業務研修会での学術活動

平成 21 年度全国赤十字病 (産) 院診療放射線技師業務研修会において、下記の学術活動を行った。

教育講演 「災害医療における放射線技師の役割－あなたにできることは何か?－」
兵庫県災害医療センター 副センター長 中山 伸一 様

学術講演 「3T MRI の使用経験 － Siemens 社製 Magnetom Trio 3.0T－」
MR 分科会 仙台赤十字病院 安彦 茂 様

本社講演 「日赤病院を取り巻く医療環境について」
日本赤十字社 医療事業部企画課長 大野 博敬 様

パネルディスカッション 「今から始められる災害医療支援」

| | | |
|------------|-------------|-------|
| DMAT 研修修了者 | 名古屋第二赤十字病院 | 駒井一洋氏 |
| | 鳥取赤十字病院 | 山根晴一氏 |
| | 兵庫県災害医療センター | 中田正明氏 |
| | 神戸赤十字病院 | 小川宗久氏 |

⑤会員研究発表（13 演題）

優秀発表賞等の表彰を実施した。

(2) 学術分科会規定作成

日本赤十字放射線技師会 学術分科会規定を作成し施行した。

(3) 分科会活動

各分科会において、下記の活動を行った。

- ① 【医療情報分科会】 医療情報システムに関するアンケートを実施し、結果をホームページに掲載した。
医療情報システム導入の手引きを作成し、ホームページに掲載した。
医療情報分科会@wiki を立ち上げ、運用を開始した。
- ② 【CT 分科会】 各ブロックの CT 担当者と共に、CT プロトコルアンケートを実施した。
- ③ 【MR 分科会】 乳房 MR 検査の標準化を検討した。
MRI 検査における説明用 DVD の作成を行った。
- ④ 【乳房画像分科会】 地域の乳房研究会の紹介を行った。
- ⑤ 【各分科会】 以下のホームページ掲示板の質問に対し、回答を行った。
MRI の問診・安全対策に関して
人名漢字の規格について
ジャパン・マンモグラフィサンデーについて
3D-CT リンパ管造影について
マンモグラフィ健診無料クーポン券について
肺がん検診認定技師制度について
医療安全に掛かる患者情報について
マンモグラフィモニタ診断について

3. 広報部活動報告（広報部）

平成 20 年度広報部活動は、日赤放技ニュースの発行を第 1 号から第 2 号まで計 2 回発行いたしました。会告、お知らせ、本会の動きなど多岐にわたった情報を会員に提供いたしました。また、これまでの技師会ニュースの作成を冊子形式といたしました。

日本赤十字放射線技師会会誌 2008. Vol. 49 を発刊いたしました。本社寄稿、学術特集、55 周年特別寄稿、本社研修会、施設紹介、新入会員紹介、会員名簿など会員に有益な情報を提供いたしました。

しかしながら、担当者の不慣れなことは否めず、委員会としての活動、会誌や技師会ニュースの内容についても今後は検討を重ねると共に、会員の皆様のご意見を頂戴し、より有意義な会誌や技師会ニュースを発刊していきたいと考えます。

- 1) 日本赤十字放射線技師会会誌 2008. Vol. 49 を発行した。
- 2) 日赤放技ニュース第 1 号から第 2 号まで計 2 回発行した。
- 3) 会誌の広告協賛会社は、29 社であった。

4. 福利厚生報告（総務部・事務局）

慶弔規定に基づき、祝電 2 名、弔電 1 名について行った。

5. 企画部活動報告（企画部）

平成 20 年度は、技師会活動の基盤整備が中心であったが、基盤がおおよそ整備された 21 年度はさらなる基盤強化を図った。

(1) ホームページ（HP）の機能強化

- ・ HP の改善を通して、利便性へのスキルアップを図った。
- ・ HP 上に日赤技師会メーリングリスト（ML）の簡易的入会を推進するべくコーナを造設した。
- ・ 掲示板の活用を推進し、会員個々との連繫・連絡網の整備を強化した。
- ・ 国際救援や災害救援活動のコーナの充実を図るべく改善を企画推進した。（HP 改善は、22 年度予定）

(2) 学術部 ML から技師会 ML への移行による ML の機能強化

- ・ 名古屋第二赤十字病院のサーバを利用して構築していた「学術部 ML」をムツダ商会のサーバに完全移行し、「日赤技師会 ML」として再構築した。
- ・ サーバ管理者の設置により会員情報のセキュリティー強化を推進した。
- ・ 入会登録の簡易化を推進した。

(3) HP および技師会 ML を活用した技師会活動の機能的運営の推進

- ・ HP および ML の活用によりユビキタスな技師会運営を推進した。
- ・ 広報部と連携し、HP を活用した電子広告の機能的な運用を企画推進した。
- ・ 学術部と連携し、HP を活用した分科会活動の機能的運営を推進した。
- ・ 組織調査部と連携し、技師長・課長 ML および HP を活用したアンケート調査等の効率運営を推進した。

(4) ML の活用推進

- ・理事会 ML を活用し、ユビキタスな技師会運営を推進した。
- ・技師長・課長 ML の活用推進を図り、各施設長とのコミュニケーション・ツールとして進化させた。
- ・日赤技師会 ML の活用推進を図り、会員相互のコミュニケーション・ツールとして進化させた。

6. 組織調査活動報告（組織調査部）

1. 平成 21 年 4 月に全国赤十字病院技師長、課長宛に会員台帳の調査を行い、総会までに今年度の新入会員者（予定者）と施設毎会員数の現況把握を行った。
2. 新入会予定者の入会促進と退会者の確認作業を行った。
3. 日赤業務研修会についての調査を行い、その結果についてホームページへ公表した。
4. 技師長・課長 ML（ホットクロス ML）への登録推進とその管理を行った。
5. 旧学術 ML の整理を行い、新日赤 ML の登録管理を行った。

7. 表彰部報告

1) 功労賞（第2条の1）

| | |
|-------|-----------|
| 片岡 幸子 | 高知赤十字病院 |
| 室谷 正吾 | 富山赤十字病院 |
| 西村 章三 | 石巻赤十字病院 |
| 村山 正栄 | 長岡赤十字病院 |
| 村田 稔 | 京都第二赤十字病院 |
| 富田 啓二 | 福井赤十字病院 |
| 道下 博行 | 益田赤十字病院 |
| 星野 憲司 | 釧路赤十字病院 |
| 小田 秀人 | 函館赤十字病院 |
| 関根 和正 | 深谷赤十字病院 |
| 名倉 邦彦 | 引佐赤十字病院 |

以上 11 名の方を功労賞として表彰しました。尚、平成 21 年度定年退職者・次年度退職者を該当者として推薦させていただきました。

(2) 奨励賞（第2条の2）

【施設】松山赤十字病院（計 10 回）

学術発表が施設として計 10 回に達したため表彰しました。

【個人】加賀 久喜 大阪赤十字病院
西関 剛 長浜赤十字病院
岡本 繁 京都第二赤十字病院

学術発表が個人として計 10 回に達したため表彰しました。

(3) 感謝状（第2条の3）

川村 佳生 和歌山医療センター

敬称略・順不同

8. ブロック報告

【北海道ブロック】

第 18 回学術研修会 平成 21 年 9 月 26～27 日

【東部ブロック】

第 22 回学術研修会 平成 21 年 11 月 28～29 日（白亜紀荘）水戸赤十字病院担当

【近畿ブロック】

第 18 回近畿ブロック学術研修会 神戸赤十字病院担当

【九州ブロック】

第 10 回学術研修会 平成 21 年 9 月 26～27 日 アソシエート 大分赤十字病院担当

【 第二号議案 】

9. 平成 21 年度決算報告

【 第三号議案 】

10. 平成 21 年度監査報告

監 査 報 告 書

平成 21 年 4 月 10 日（金）午前 10 時より、日本赤十字本社 401 会議室において、日本赤十字放射線技師会会則第 3 章第 15 条に基づき、

- 1 ・平成 20 年度特別積立金
- 2 ・平成 20 年度会誌特別会計
- 3 ・平成 20 年度業務研修決算
- 4 ・平成 20 年度一般会計決算
- 5 ・平成 20 年度会務（年度事業計画に基づく）

以上の証拠書類の照合および検算を厳正に監査した。

【 第四号議案 】

平成 22 年度事業計画案

平成 22 年度事業計画案（総括）

ご多分にもれず、医療業界も時代の洗礼を受け、その煽りは波状的に各施設に影を落としている。医療経済の破綻から、医療制度の彷徨癖まで、暗い影が忍び寄って来ている。しかし日陰があれば、日向があるように、我々が技師会は足掛け 3 年の活動で、時代の波に乗り、時代性の軌道に沿って、後れを取らずにユビキタス技師会を構築して来た。天に向かって葉を繁らす巨樹は、その地面下に葉が繁る範囲以上に、根を張って居るものである。大地に翼々と根ざし、滋養と地精を全方位的に探って吸収し、蓄えて、天に向かって樹勢を伸ばす。今、我々の技師会は、ネットワークと云う根を張り、各地の各施設の知恵を吸収し、その学識文明を技術的文化の滋養として、太陽に向かって大いに伸びて学術の葉を繁らせる。その顕在化する根に当たるのが各部。その各部が主根、側根、不定根、支柱根、塊根、吸水根のどれに当たり、会員が葉を繁らすための滋養を供給できるか、事業計画案をしっかりと洞察し検証して戴きたい

1. 学術教育活動計画案

- (1) 本年度より、全国赤十字病（産）院診療放射線技師業務研修会から日本赤十字放射線技師学術総会と名称が変更となりました。開催するにあたり、学術総会という名に恥じない、会員皆様の資質向上に役立つ会を企画することを目指します。
- (2) 各分科会活動のさらなる活性を推進いたします。
6 分科会それぞれの活動状況は様々ですが、会員皆様に有用な情報を提供できるようにバックアップをしていきます。

2. 広報部活動計画案

平成 20 年度広報部活動は、日赤放技ニュース第 1 号を冊子として発行しました。また、ホームページの充実に伴い、日赤放技ニュース 2 号、3 号をホームページ上に掲載を行いました。内容は、会告、お知らせ、本会の動きなどの情報を会員に提供いたしました。次に、日本赤十字放射線技師会会誌 2009. Vol. 50 を発刊いたしました。本社寄稿、本会の動き（本社研修会報告、分科会活動報告、ブロック研修会報告、日赤医学会報告、施設紹介、新入会員紹介等）、学術特集、創刊 50 号記念特集（本社寄稿、特別寄稿、創刊からの歩み、名誉会員投稿）、トピックス、会員名簿など会員に様々な情報を提供いたしました。また、本会印刷物の一元化を図り、総会資料、学術抄録を広報部にて取り纏め、印刷製本を依頼しました。会誌、日赤放技ニュースの印刷、発送業務費用等を含めた一元化に取り組み、経費の削減化を図りました。

しかし、担当者の不慣れなことは否めず、委員会としての活動、会誌や技師会ニュースの内容についても十分な情報を提供できたかは不明です。今後も更なる検討を重ねると共に、会員の皆様よりご意見を頂戴し、より有意義な情報を会員の皆様に提供していきたいと考えております。

- 1) 日本赤十字放射線技師会会誌 2009. Vol. 50 を発行しました。
- 2) 日赤放技ニュース第 1 号発行しました。
- 3) 日赤放技ニュース第 2 号・3 号をホームページ上に掲載しました。
- 4) 会誌の広告協賛会社は、25 でした。
- 5) 広報委員会にて、編集会議、校正作業、発送作業などの年度に渡り業務を遂行しました。
- 6) 本会の発行する印刷物の一元化を図り、経費削減に努めました。

3. 福利厚生案（総務部・事務局）

- (1) 本社医療事業部と連携を密にし、赤十字事業の展開に、我々が関与協力できる態勢の充実をより推進したい。
- (2) HP の充実を図り、情報交換の窓口としての利便性の向上を推進したい。
技師長・課長 ML の登録を促し、意見交換の場として機動性の向上を目指したい。
ブロック研修会がより活性する為の支援を推進したい。
災害救援活動とそのネットワークを構築し推進したい。
- (3) 会員相互の福利厚生に関する事業
慶弔規定に則り、速やかな対応を促したい。

4. 企画部活動案（企画部）

平成 21 年度は、ホームページ（HP）、メーリングリスト（ML）の基盤強化を図り、活動の電子化をさらに推進した。22 年度は、電子広告の増加および広告欄の充実を図りユビキタス化をさらに推進する。

(1)ホームページ（HP）の機能強化

- ・HP の改善を通して、利便性へのスキルアップを図る。

技師会目標の一つである国際救援や災害救援活動欄を掲示板から独立させ、閲覧の利便性を図る。また、記事掲載・本社を含む各種団体へリンクや掲載記事の内容に応じて公開・会員専用を使い分けができるように改善を図る。

- ・掲示板の活用を推進し、会員個々との連繋・連絡網の整備を強化する。
- ・電子広告の効果的な運用ができるように改善を図る。

(2)日赤技師会 ML の活用推進

- ・サーバ管理者と協力して会員情報のセキュリティー強化を推進する。
- ・入会登録者数の増加を推進する。

(3)HP および ML を活用した技師会活動の機能的運営の推進

- ・広報部と連携し、HP を活用した電子広告の機能的な運用を企画推進する。
- ・学術部と連携し、HP を活用した分科会活動の機能的運営を推進する。
- ・組織調査部と連携し、技師長・課長 ML および HP を活用したアンケート調査等の効率的運用を推進する。
- ・ML の活用推進を図り、会員相互のコミュニケーション・ツールとして進化させる。

(4)ユビキタス技師会発展のための新企画の提案

- ・例えば、事業仕分け。

5. 組織調査活動案（組織調査部）

(1)平成 22 年度も継続して全国赤十字病院施設へ会員台帳確認の調査を行います。

H22.4 月調査の際は台帳内容の正確性を期するために技師長（課長）及び会員の皆様のご協力をよろしく願います。なお、今年度より変更がない場合のみメール返信を可能と致します。

(2)会員台帳調査に合わせて技師長・課長メーリングリスト（ホットクロス ML）の未登録技師長へ登録促進を継続します。

(3)ホットクロス ML と日赤 ML の登録管理を引き続き行います。

(4)技師長・課長メーリングリスト（ホットクロス ML）を活用して各施設の抱える問題について定期的にその状況調査を進めます。

6. 表彰部活動案

第 2 条の 1 功労賞

平成 22 年度の表彰者は以下のとおり推薦をいたします。（順不同、敬称略）

第 2 条の 1 功労賞

釧路赤十字病院 小林 孝明

盛岡赤十字病院 市ノ渡 憲市

盛岡赤十字病院 宮本 岩保
福島赤十字病院 富原 弘之
小川赤十字病院 桜井 守
横浜市立みなと赤十字病院 友井 忠雄
金沢赤十字病院 日尾 哲朗
高山赤十字病院 金子 彰
浜松赤十字病院 松山 秀夫
長浜赤十字病院 木村 幸一
広島赤十字・原爆病院 渡辺 和美
日本赤十字社和歌山医療センター 古川 和仁
福岡赤十字病院 中澤 直心
福岡赤十字病院 木下 洋之
日本赤十字社長崎原爆病院 山口 春雄
日本赤十字社長崎原爆病院 高橋 朗
第2条の2 奨励賞 施設 前橋赤十字病院
奨励賞 個人
深谷赤十字病院 斉藤 幸夫

昨年全国理事会で表彰規定の改正が行われ、今回、死亡退職者を初めて功労賞の表彰をすることが出来ました。今後も表彰部として各施設の方々、ブロック理事との連携を技師長・課長メンバーリストなどを利用し、表彰対象者漏れの無いよう推し進めていきます。

さらに、組織調査部とも連携を密に図り、表彰対象者漏れの無いよう推し進めていきます。

次に、できる限り連絡はメールとし、通信費等の経費を削減します。

【 第五号議案 】

7. 平成21年度予算(案)

8. ブロック活動案

【北海道ブロック】

第18回学術研修会 平成21年9月26～27日

【東部ブロック】

第22回学術研修会 平成21年11月28～29日(白亜紀荘)水戸赤十字病院担当

【近畿ブロック】

第18回近畿ブロック学術研修会 神戸赤十字病院担当

【九州ブロック】

第10回学術研修会 平成21年9月26～27日 アソシエート 大分赤十字病院担当

第 57 回 定期総会 議事録

1. 日 時 : 平成 22 年 6 月 10 日 (木) 午後 4 時 ~ 5 時
2. 会 場 : 東京国際フォーラム G409 号会議室
3. 出席者 : 日本赤十字放射線技師会 会員 108 名
4. 議事録作成人 常任理事 総務担当 辻 秀憲
5. 総会次第
 - ① 開会の辞
 - ② 会長挨拶
 - ③ 表 彰
 - ④ 総会議事運営報告
 - ⑤ 議長選出
 - ⑥ 議事録署名人選出、採決係り任命
 - ⑦ 議事

| | |
|---------|-----------------|
| 第 1 号議案 | 平成 21 年度事業経過報告 |
| 第 2 号議案 | 平成 21 年度決算報告 |
| 第 3 号議案 | 平成 21 年度監査報告 |
| 第 4 号議案 | 平成 22 年度事業計画(案) |
| 第 5 号議案 | 平成 22 年度予算 (案) |
| 第 6 号議案 | その他 |
 - ⑧ 議長解任
 - ⑨ 閉会の辞

上記の総会次第に基づいて、当技師会 益井会長の挨拶にはじまり、表彰に移る。

表彰委員長の戸口理事により紹介される

功労賞は、17 名

奨励賞は、施設 1 、個人 1 名

表彰後、次に、総会議事運営報告（資格審査報告）を事務局の磯田理事より報告
本日の出席者 108 名、委任状提出者 1081 名、 合計 1189 名を確認し、
会則第 20 条の規定に基づき本総会は成立しますと報告。

次に、議長選出となる。会場より立候補がないため、執行部より 2 名を推薦した。

山口赤十字病院 中川 明様 仙台赤十字病院 高橋 和義様

議長より、議事録署名人・採決係りを会場より4名を任命

| | | |
|----------|------------|--------|
| 議事録署名人は、 | 姫路赤十字病院 | 岩見 守人様 |
| | 大阪赤十字病院 | 加賀 久喜様 |
| 採決係りは、 | 名古屋第二赤十字病院 | 堀部 良美様 |
| | 福井赤十字病院 | 西川 由梨様 |

議長の進行により議事に入る。

第1号議案から第3号議案まで一括して執行部より報告。

報告後、質問に入るが、質問はなかった。

採決にはいり、第1号議案から第3号議案までは、賛成多数で承認された。

次に第4号議案から第5号議案まで一括して執行部より報告。

報告後、質問に入るが、質問はなかった。

採決にはいり、第4号議案から第5号議案までは、賛成多数で承認された。

次に第6号議案の報告を執行部より報告。

・事務局の磯田理事より、“日本赤十字放射線技師会慶弔規定の第4条”の省略を報告。

“金品については、近年来、出していないため、省略する”

報告後、質問に入るが、質問はなかった。

採決にはいり、賛成多数で承認された。

・報告事項として、表彰部の戸口理事より、表彰規定の改定を報告された。

4月16日の全国理事会で、承認されているため報告のみであった。

議長より、議事以外で、他に発言を求められる方許可するで、1名の発言があった。

Q：医療技術部があるが、放射線科が、部に入ったり、入らない施設があるが、本社としては、どう対応するのか。（和歌山医療センター 口井）

A：医療技術部について、本社でも、検討中。施設ごとに事情があり、施設に委ねられているのが現状。

このままだと、混乱する可能性がある。技師長という立場についてなど本社と密に協議していく。

(会長)

以上にて、議事を終了したので、議長は解任となった。

最後、清水副会長に閉会の辞をもって、総会は終了となった。

以上

平成 23 年

第 58 回臨時定期総会資料

議案内容

- 【第一号議案】 平成 22 年度事業経過報告
- 【第二号議案】 平成 22 年決算報告
- 【第三号議案】 平成 22 年度監査報告
- 【第四号議案】 平成 23 年度事業計画（案）
- 【第五号議案】 平成 23 年度予算（案）
- 【 その他 】 役員改選 選挙管理委員会報告

日本赤十字放射線技師会

表 彰

会員各位

日本赤十字放射線技師会
会 長 益井 謙
表彰委員長 戸口 豊宏

日本赤十字放射線技師会表彰規定により、顕著な功績があったので表彰します。

3. 功労賞（第2条の1）

| | | |
|-------|--------------|-----|
| 西田 俊昭 | 北見赤十字病院 | |
| 松本 幸夫 | 盛岡赤十字病院 | |
| 路野 俊雄 | 成田赤十字病院 | |
| 岡庭 繁樹 | 前橋赤十字病院 | |
| 黒田 順平 | さいたま赤十字病院 | |
| 少路 進 | 武蔵野赤十字病院 | |
| 鈴木 利男 | 日本赤十字社医療センター | |
| 川上 直志 | 横浜市立みなと赤十字病院 | |
| 堀内 順一 | 秦野赤十字病院 | |
| 東 茂 | 伊豆赤十字病院 | |
| 松山 繁 | 津久井赤十字病院 | |
| 藤井 紀生 | 山田赤十字病院 | |
| 尾上 章 | 大阪赤十字病院 | |
| 宮本 善夫 | 大阪赤十字病院 | |
| 西谷 泰男 | 高松赤十字病院 | |
| 笠原 秀憲 | 松江赤十字病院 | |
| 古賀 則夫 | 福岡赤十字病院 | |
| 古賀 博幸 | 福岡赤十字病院 | |
| 玉永 正博 | 熊本赤十字病院 | 順不同 |

2. 奨励賞（第2条の2）

【施設】成田赤十字病院（計10回）

【個人】大町 繁美 長崎原爆諫早病院

【 第一号議案 】

平成 22 年度事業報告（総括）

平成 23 年 3 月 11 日、午下の安寧を破って古今未曾有の大震災が東国列島を揺るがした。東北の強靱で耐酷な尊厳も、天然自然の恐懼がひと呑みにした。国内外を問わず災害支援のベクトルが東日本に注がれる中、医療の支援現場も、赤十字精神で染められて、昼夜 24 時間救護救援が行われている。当技師会では、HP に『日本赤十字放射線技師会はユビキタスネットワークを活用し、診療および災害支援を目的とした 21 世紀型職域団体をめざす』とその活動の指針を掲げて来た。今年度より災害医療分科会も立ち上げ、その世話人各位は現在進行形で救護救援活動に任じているし、救護活動の一員として任務を全うしている。

加えて、医療機器貸し出し支援も行って居り、ポータブル装置（CR セット）や高精細モニターなど、仮診療所などに貸与出来た。また、その情報は独自のネットワークと HP を通じ、即刻周知可能となって来た。ネットワーク・インフラは今後改善進化させることはあっても、整備は完成域まで達している。所謂、診療は無論、災害支援とユビキタスが結び付いた年度であった。

そして、ブロック毎の研修会や講習会を開催し、臨床実証の先鋒として、共に学びながら医療を支えることが出来た。本社の提唱する「もっとクロス」運動は、我々の「ホットクロス」運動に昇華して、全国の隅々までその意思を人口に膾炙した年度でもあった。

平成 22 年度事業報告

1. 総務事項報告

(3) 平成 22 年度役員は次のとおりである。

| 役 職 名 | 氏 名 | 施 設 名 |
|---------------------|-------|------------|
| 会 長 | 益井 謙 | 松江赤十字病院 |
| 副 会 長 (災害・文書兼務) | 久保田利夫 | 前橋赤十字病院 |
| 副 会 長 (広報兼務) | 清水 文孝 | 深谷赤十字病院 |
| 常任理事 (総務・安全推進兼務) | 辻 秀憲 | 京都第二赤十字病院 |
| 同 (事務局) | 磯田 康範 | 松江赤十字病院 |
| 同 (学術部) | 浅妻 厚 | 神戸赤十字病院 |
| 同 (財務部) | 前川 栄寿 | 成田赤十字病院 |
| 同 (組織調査部・IT 兼務) | 石田 智広 | 福井赤十字病院 |
| 同 (企画部・IT 兼務) | 新美 孝永 | 名古屋第二赤十字病院 |

| | | |
|--------------|-------|---------|
| 同（表彰部・IT 兼務） | 戸口 豊宏 | 大分赤十字病院 |
| ブロック理事（北海道） | 川井 明彦 | 函館赤十字病院 |
| 同（東北） | 新田 仁 | 盛岡赤十字病院 |
| 同（東部） | 林 智 | 長岡赤十字病院 |
| 同（中部） | 山口 忠夫 | 高山赤十字病院 |
| 同（近畿） | 中島 敏博 | 姫路赤十字病院 |
| 同（中・四国） | 西田 史生 | 松山赤十字病院 |
| 同（九州） | 三谷 孝二 | 今津赤十字病院 |

| | | |
|-------|-------|--------------|
| 役 職 名 | 氏 名 | 施 設 名 |
| 監 事 | 鈴木 利男 | 日本赤十字社医療センター |
| 監 事 | 中里 明 | 足利赤十字病院 |

ブロック委員

| | | |
|----------|-------|------------|
| 役 職 名 | 氏 名 | 施 設 名 |
| 北海道ブロック | 川井 明彦 | 函館赤十字病院 |
| 東 北ブロック | 横山 高広 | 仙台赤十字病院 |
| 東 部ブロック | 星野 洋満 | 前橋赤十字病院 |
| 々 | 新井 一正 | 武蔵野赤十字病院 |
| 中 部ブロック | 日置 竹志 | 名古屋第二赤十字病院 |
| 々 | 満間 啓二 | 富山赤十字病院 |
| 近 畿ブロック | 内橋 宣尚 | 多可赤十字病院 |
| 々 | 浅妻 厚 | 神戸赤十字病院 |
| 中・四国ブロック | 真貝 勝 | 徳島赤十字病院 |
| 々 | 梶谷 努 | 岡山赤十字病院 |
| 九 州ブロック | 吉見 公作 | 鹿児島赤十字病院 |

（2）会議開催状況

1. 総会

第 57 回定期総会を平成 22 年 6 月 10 日（木）東京国際フォーラム G409 会議室において、会員 108 名が出席（委任状提出 1,082 名）して開催した。総会では、会長挨拶、表彰式、議事運営報告につづき、議長 2 名、中川明（山口赤十字病院）高橋和義（仙台赤十字病院）を選出して、両議長にて議事進行する。平成 22 年度各部事業報告および平成 22 年度会計報告を審議、次に、平成 23 年度各部事業計画（案）および平成 23 年度収支予算（案）等について審議し、両方とも決議した。

2. 常任理事会、全国理事会は下記のとおり4回開催し、各理事会への提案議題の審議ならびに決定事項について処理した。

| | 年 月 日 | 内 容 | 開 催 場 所 |
|---|-------------------|-----------|----------------|
| 1 | 平成22年 7月 9日 (金) | 第1回常任理事会 | 松山赤十字病院 |
| 2 | 平成22年 11月 19日 (金) | 第2回常任理事会 | 日本赤十字社 203号会議室 |
| 3 | 平成23年 2月 10日 (木) | 第3回常任理事会 | 松江赤十字病院 |
| 4 | 平成23年 4月 22日 (金) | 全 国 理 事 会 | 日本赤十字社 203号会議室 |

(3) 物故者

2名

(4) 会員の動向 (平成23年3月31日現在) (事務局)

| 項 目 | 会 員 数 |
|--------------|--------|
| 平成年21度末 会員数 | 1,276名 |
| 平成年22度 新入会者数 | 65名 |
| 同 再入会者数 | 1名 |
| 平成22年度 会員数 | 1,286名 |
| 同 退会者数 | 44名 |

2・広報委員会開催状況 (広報部)

平成22年度の広報部活動は、ニュースの発刊、電子会誌をホームページに掲載し、会員に情報を提供いたしました。また、新たな情報の入手に伴い、メールニュースとして時事に応じてホームページへの閲覧の促し、最新の情報を提供してまいりました。

ニュース及び電子会誌の内容は、巻頭言、本会の動き (学術総会報告、分科会活動報告、ブロック研修会報告等々)、日赤医学会報告、施設紹介、特集 (フィルムレスを取り巻く環境) 等でした。またメールニュースは下記資料のとおりでした。

一昨年度よりユビキタス技師会の命題の基、ホームページを会員との最大の接点となるよう努力すると共に、経費節減を実施いたしました。しかし、担当者の不慣れなことは否めず、会誌や技師会ニュースの内容についても十分な情報を提供できたかは不明であります。今後の課題といたします。今後も更なる検討を重ねると共に、会員の皆様よりご意見を頂戴し、より有意義な情報を会員の皆様に提供してまいりたいと考えております。一昨年度より始めましたバナー広告につきましては、23社の各企業の皆様に賛同をいただき、ホームページ会員欄に掲載しております。応募いただきました各企業においては、本会の趣旨をご理解いただいたものと感謝しております。

- a) 日本赤十字放射線技師会会誌 2011. Vol. 2 を電子会誌としてホームページ上に掲載いたしました。
- b) 日赤放技ニュース第1号より2号まで、ホームページに掲載いたしました。
- c) メールニュース別紙のとおり配信をいたしました。(資料-1)

- d) バナー広告は、23社でした。(資料-2)
- e) 広報にて発刊する印刷物は本年度より全て電子化となりました。

資料-1 (メールニュース配信状況)

日本赤十字放射線技師会 (JRCART) mail news

The Japanese Red Cross Association of Radiological Technologists mail news

| | | |
|------------|---|------------|
| news No.1 | DMAT 研修とアンケート協力の願い | 2010.05.18 |
| news No.2 | 岡庭 繁樹氏 群馬県総合表彰受賞 | 2010.06.08 |
| news No.3 | 学術総会速報 | 2010.06.17 |
| news No.4 | 情報エクспレス記事 | 2010.06.24 |
| news No.5 | MR 分科会報告 | 2010.07.07 |
| news No.6 | 新美氏、(財) 政策医療振興財団の研究助成金を受給など | 2010.07.20 |
| news No.7 | 放射線治療アンケート集計結果、CT 分科会報告など | 2010.07.27 |
| news No.8 | 予防規程 | 2010.08.13 |
| news No.9 | 予防規程修正版 | 2010.08.19 |
| news No.10 | 兵庫県合同防災訓練など | 2010.09.02 |
| news No.11 | 兵庫県合同防災訓練レポート | 2010.09.09 |
| news No.12 | 北海道地区会第 20 回総会及び研修会の案内 | 2010.09.22 |
| news No.13 | ニュース欄の「理事の独り言」 | 2010.10.01 |
| news No.14 | 第 46 回日本赤十字社医学会総会の案内 | 2010.10.14 |
| news No.15 | 第 46 回日本赤十字社医学会総会演題抄録 | 2010.10.22 |
| news No.16 | 医療機器管理に関する資料 | 2010.10.28 |
| news No.17 | 東部ブロック研修会の案内 | 2010.11.05 |
| news No.18 | 第 46 回日本赤十字社医学会総会速報 | 2010.11.12 |
| news No.19 | 第 46 回日本赤十字社医学会総会速報 2 | 2010.11.12 |
| news No.20 | 放射線作業者の被ばくの一元管理に関する資料 | 2010.11.25 |
| news No.21 | 東部ブロック研修会速報 | 2010.12.01 |
| news No.22 | 「マンモグラフィ検診施設 画像認定取得施設」確認願い | 2010.12.08 |
| news No.23 | 埼玉県における放射線部門の機能強化に係る資料 | 2010.12.15 |
| news No.24 | 労働安全衛生法の届出に関する資料など | 2010.12.28 |
| news No.25 | 益井会長の年頭挨拶及び 平成23年度全国赤十字放射線技師学術総会研究発表演題の募集案内 | 2011.01.04 |
| news No.26 | 掲示板「CT検査の被ばく線量」 | 2011.01.07 |
| news No.27 | 日本赤十字放射線技師会会費負担の現況調査報告 | 2011.01.16 |
| news No.28 | 中国・四国ブロックモニタ管理講習会報告 平成23・24年度日本赤十字放射線技師会役員選挙告示 | 2011.01.25 |
| news No.29 | 掲示板「グリッド比とアルミ本数 (CR専用)」 | 2011.02.01 |
| news No.30 | 掲示板「他院画像の出力について」 | 2011.03.02 |

| | | |
|------------|----------------------------|------------|
| news No.31 | 研究助成課題等の募集案内など | 2011.03.07 |
| news No.32 | テストメール配信のお詫び | 2011.03.09 |
| news No.33 | 赤十字各施設の被害状況・救援状況 | 2011.03.15 |
| news No.34 | 急報「ポータブル型X線装置及び超音波装置の貸し出し」 | 2011.03.18 |
| news No.35 | モニタ貸出支援 | 2011.03.18 |
| news No.36 | スクリーニング済証 | 2011.03.24 |

平成23年3月末までのJRCART mail news 発信は以上の通りです。

資料-2 (バナー広告掲載企業一覧) 順不同

| | | | |
|----|--------------------|----|------------------|
| 1 | 東芝メディカルシステムズ株式会社 | 13 | 朝日レントゲン |
| 2 | 東洋メディック株式会社 | 14 | ユーロメディテック株式会社 |
| 3 | GEヘルスケア・ジャパン株式会社 | 15 | 株式会社ミットメディコ |
| 4 | エーザイ株式会社 | 16 | 富士製薬工業株式会社 |
| 5 | テルモ株式会社 | 17 | シーメンス株式会社 |
| 6 | 日本メジフィジックス株式会社 | 18 | 睦田商会 |
| 7 | 富士フイルム RI ファーマ株式会社 | 19 | 株式会社ナナオ |
| 8 | 中外テクノス株式会社 | 20 | コニカミノルタヘルスケア株式会社 |
| 9 | 石黒メディカルシステム K. K | 21 | 富士フイルムメディカル株式会社 |
| 10 | コヴィディエンジャパン株式会社 | 22 | (株) 島津製作所 |
| 11 | バイエル薬品株式会社 | 23 | 株式会社栗原医療機器 |
| 12 | 第一三共株式会社 | | |

3. 学術教育活動報告 (学術部)

平成22年6月10・11日の両日にかけて、平成22年度 日本赤十字放射線技師学術総会が東京フォーラムにて開催されました。これは、昨年までの業務研修会から名称が変わるだけでなく、本社とは違う会場で開催し、内容も名前負けしないよう学術的内容の充実を目指しました。しかし、不慣れな対応で手際も多く、会員の皆様に多大なご迷惑をお掛けしましたことを、深く反省し、今後の糧としていきたいと思っております。

今回は、本社・学術・教育の3講演、15の会員研究発表の他に、国際活動の報告、分科会活動報告、ランチョンセミナーにイブニングセミナーと盛りだくさんな内容となりました。

本社講演は「赤十字病院を取り巻く医療環境について」と題し、医療事業部次長の竹内賢治様に講演いただきました。他人事ではない、私たちの身近な問題として傾聴いたしました。学術講演はCT分科会世話人代表の八町淳氏に「研究課題の見つけ方・すすめ方ーCT 造影法を中心としてー」と題して講演いただきました。八町氏の豊富な研究発表の実例を示し、若手会員に対して研究の取り組み方を指南してくれたと思います。教育講演は「放射線部における医療安全管理について」と題し、京都大学医学部附属病院放射線技師長の東村享治様に講演いただきました。安全管理は重要ですが、中々取り組みにくいのも事実です。今回、ミスから学ぶ姿勢で情報共有した安全システムを整備することの重要性を学べたと思います。

国際活動報告は、和歌山医療センターの川村佳生氏と口井信孝氏による、実際の活動報告と、海外救援要員になるためには何をすべきかを報告してもらいました。国際活動は赤十字の重要な活動の一環ですが、私たちにはあまり関係が無いものと思いがちです。そのような思いを払拭させる内容でした。

分科会報告は、MR分科会 岩見守人氏の「乳房MRIの標準的撮像法」高津安男氏の「MRI検査における説明用DVD作成について」、CT分科会 藤村貴順氏の「アンケート結果報告」と、それぞれが昨年から取り組まれていた分科会活動を報告しました。

会員研究発表は、後述の各座長の要約でまとめさせていただきます。

最後になりましたが、各演者及び座長の皆様には、ご多忙中にもかかわらずご協力いただき、厚く御礼申し上げます。又、各施設におきましても、参加者にご協力いただき、感謝申し上げます。まだまだ途上の会ですが、皆様のご協力の下、発展させていきたいと思っておりますので、宜しくご指導のほどお願いいたします。

学術研究発表① 座長 八町 淳 (CT分科会 長野)

① 冠動脈CTAにおける造影効果に影響する要因の検討

大阪赤十字病院 加賀 久喜

② 「死亡時画像検査」所見からの撮影条件の検討

大田原赤十字病院 中野 繁明

③ OPE室CTの年間使用実績とその有用性の検討

名古屋第一赤十字病院 山崎 絵莉

④ DPC導入によるCT検査採算性の検討

名古屋第二赤十字病院 日置 竹志

6月10日から11日の2日間、東京国際フォーラムにおいて開催された平成22年度日本赤十字放射線技師学術総会において、学術研究発表演題番号1番から4番までの座長を務めました。

演題番号1番 大阪赤十字病院 加賀さんによる「冠動脈CTAにおける造影効果に影響する要因の検討」についての発表であった。CT装置の多列化が加速的に進むなか、造影検査において造影剤使用量を体重あたりヨウド量を採用する施設が増えてきている。今回、64列MDCTによる心臓造影検査において身長・体重など被験者パラメータとCT値の関係を、臨床データをもとに解析した結果、体重による相関が認められたとの発表であった。

演題番号2番 大田原赤十字病院 中野さんによる「死亡時画像検査所見からの撮影条件の検討」についての発表であった。現在、死因の判定に画像診断を積極的に使用して流れが出てきており、発表施設において約3年間、350症例のデータから、死因の判定が可能であった症例を分類されておりました。また、合わせて撮像時の画質SDを指標に検討されていた。しかし現在、責任の所在など法的整備がされておらず、今後整備がまたれるとのまとめであった。私もまだこの分野に積極的に参加するには解決しなければならない問題が多いと考える。

演題番号3番 名古屋第一赤十字病院 山崎さんによる「OPE室CTの年間使用実績とその有

用性の検討」についての発表であった。手術後CT検査の時間短縮および効率化を目的に、手術室に24列MDCTを設置したことで、術中・術後のCT検査が効率良くできるようになったとの内容であった。会場から効率化を考えた場合、診断用として撮影部門に設置した方が、より効率・経済性に富んでいるのではないかとの意見がだされた。私もそう思う。ただ、各施設において、実力のある科の意見が反映し、装置が設置されてしまうのも現実であると思われる。

名古屋第二赤十字病院 日置さんによる「DPC 導入によるCT検査採算性の検討」についての発表であった。DPC導入により、放射線部門において入院患者さんにおける収益性の向上をはかるため、使用造影剤を後発品に変更することで収益性を増すことが可能であった。また、技師においても収益性を把握しておく必要性を感じたとの内容であった。DPCにおいて、造影剤変更による収益性に加え入院検査率を小さくする努力も必要ではないかと考える。

以上4演題から、検証目的・発表構成・学術性・解析法などを考慮し優秀賞として、演題番号1番 大阪赤十字病院 加賀氏とさせていただきました。みなさんそれぞれ着眼点は良いものをお持ちだと思います。今後も、「どうして！」を大事に研究を進めていただきたいと思います。なお、研究発表においてひとつアドバイスを、せっかくの発表なのは分かりますが、多くの内容をひとつの発表に詰め込まないことです。それには、演題名を大切にすることだと思います。

学術研究発表② 座長 安彦 茂 (MR分科会 仙台)

⑤ ファントム実験によるGd造影後における、in-phase.out-of-phaseでの脂肪評価の検証
松山赤十字病院 松村 茂

⑥ 頸動脈内膜剥離術 (CEA) 術前における非造影MR検査についての一考察
大阪赤十字病院 高津 安男

⑦ 四肢MRI検査におけるコイル選択と撮像条件設定の検討
大田原赤十字病院 大谷津 崇

⑧ 放射線技術課におけるインシデント事例の統計
和歌山医療センター 渡邊 真也

このセッションは、MR に関する発表4題とインシデント事例の統計分析1題で構成され、どの発表も日常の業務に関連した興味深いものであった。

演題5.松山赤十字病院、松村氏の発表は、EOB・プリモビスト造影剤を用いた肝細胞相でのdual FFE シーケンスで、in-phase・out-of-phase を撮像・比較することにより、脂肪を含む組織の評価が可能かどうか検討した内容であった。Paradoxical Suppression の影響のため脂肪の存在を完全に明らかにすることができない結果になっていたが、検査時間の制限で単純・ダイナミックを撮影できないとのことであった。施設の都合もあるかと思うが、肝炎が背景にある場合など対象を絞って単純・ダイナミック撮影を追加されるのが望ましいと考えられた。

演題6.大阪赤十字病院、高津氏の発表は、造影CTA の検査ができない患者について頸動脈内膜剥離術

施行に必要な情報を、非造影MRA を主としたMRI で得ることが可能か検討したものであった。乱流等の影響を受けにくいBalanced TFE のMRA にて狭窄率や潰瘍の有無、周囲の血管の状態を従来のTOF 法MRA より高精度に把握することができ、またT2WI 矢状断で病変の高位（頸椎との位置関係）を得ることで頸動脈内膜剥離術施行に必要な情報が得られるという内容であった。Balanced TFE は、流速が早い部位に関しては多少問題があるが実用上は影響なさそうであり、今後の実証報告が期待される。

演題7. 大田原赤十字病院、大谷津氏の発表は、四肢MR 撮影で担当技師により適切なコイルが選択されていないためSN の悪い画像が散見されたため、自作ファントムを用いて使用コイルの標準化を検討した内容であった。この自作ファントムを使った評価であるが、実際の臨床画像での比較と自作ファントムを使用した評価が同一になっているか確認しながら、実験方法（画像を外に出してImage J などを使い、放射線技術学会のSNR の算出方法を参考にして計算する）を再確認する必要があると思われた。また、四肢の撮影では、マグネット中心で撮影できないことが多くある為、この点も考慮が必要と考える。

演題8. 日本赤十字社和歌山医療センター、渡邊氏の発表は放射線技術課での医療事故（インシデント事例）における統計報告をCT・MR 検査を中心に述べた内容であった。インシデント事例の改善策、対応策に取り組むことが事故再発防止に大きく役立つとのことでしたが、インシデント報告に対する個人間の意識差があり、軽微な内容でも報告する技師がいる部署ではインシデントの件数が増える結果になっており、今後の検討課題と思われた。

（協議の結果、このセッションの中から大阪赤十字病院、高津氏の発表が検討内容や臨床応用の実用性などの点で優れているとされ、優秀発表として推薦されました。）

学術研究発表③ 座長 川合 佳代（乳房画像分科会 深谷）

⑨ STマンモグラフィガイド下生検装置におけるポジショニング、ターゲッティング習得のための石灰化擬似ファントムの作成

さいたま赤十字病院 北山 早苗

⑩ 1 Shot PhantomにおけるCNRの評価

京都第二赤十字病院 楠 理恵

⑪ マンモトームを使用したステレオガイド下バイオプシの技術的検討

鳥取赤十字病院 上田 阿希

⑫ ステレオガイド下マンモトーム装置導入の報告と検討

福岡赤十字病院 桑野 さゆり

⑬ 救急撮影における脊椎固定具が胸部画像に与える影響と画像評価

秋田赤十字病院 関谷 千春

平成22年6月11日（金）、学術研究発表③は5演題ありました。最初はさいたま赤十字病院、北山さんの「STマンモグラフィガイド下生検装置におけるポジショニング習得のための石灰化擬似ファントムの作成」でした。生検精度向上のためファントムを作成されました。シミュレーションすることで不測の事態に対応できるファントムであったという報告でした。作成にはいろいろな素材を用いて試行錯誤され

たそうで、結果として、ジェル状クリーナーと卵の殻を混ぜて作成されました。平成21年12月の導入以来事前のシミュレーションで実際の検査や、装置の不具合にも対応できたそうです。次は京都第二赤十字病院、楠さんの「1 Shot Phantom におけるCNR の評価」でした。この Phantom を用いることで幾つかの項目のチェックができます。今回の実験ではCNR 測定を1 Shot 法と2 Shot 法の方法で行われていました。その結果を比較検討されています。現在アナログ装置を使用されているとのことですが、デジタルとは平均乳腺線量なども異なってきます。将来導入される装置の特徴や特性を理解し、今後とも日々装置の管理をしていただきたいと思います。発表の流れと丁寧に精度管理を行っていたと考え、最優秀発表賞に選ばせて頂きました。

3演題目は鳥取赤十字病院、上田さんの「マンモトームを使用したステレオガイド下バイオプシの技術的検討」でした。マンモトーム生検は微細石灰化を確実に採取するためのポジショニングが非常に重要になってきます。今回の発表は採取困難な部位にあった4症例についての報告でした。採取部位によっては座位を側臥位のすることで、患者様が穿刺部位を見えないようにしたり、胸壁に近い部位では座位にすることにより穿刺が容易にできたことなどが紹介されました。また、スぺーサを挿入することで、十分な乳房厚の確保と固定をしていました。患者様の視線近くで行う検査は不安や苦痛を与えてしまう恐れがあります。技師の迅速な対応で検査時間の短縮は可能となってきます。

4演題目は福岡赤十字病院、桑野さんの「ステレオガイド下マンモトーム生検装置の導入と検討」でした。発表では導入に際しての検討事項がハード、ソフト両面で紹介されていました。導入からまだ日が浅いため、検討課題がいくつかあるようですが、検査に関してはDCIS の病理結果が得られるなど成果がでていたようでした。引き続き良い成果として情報提供して頂きたいと思います。

最後の演題は、秋田赤十字病院、関谷さんの「救急撮影における脊椎固定具が胸部撮影に与える影響と画像評価」でした。緊急を要する患者様の撮影では、時に様々な状況下での撮影を余儀なくされることがあります。そんな中、写真に異物が映し込まれれば、読影の妨げになることもあります。今回の発表は、搬送に使用されるバックボードの映し込みが胸部に与える影響を検証されました。材質によっては影響を受けることもあるとの見解でしたが、X線透過性の材質が普及しつつある中、不透過性の物をできるだけ排除した形で撮影をすることで、Primary Survey には対応できることが述べられていました。救急撮影の多い施設ではこのような確認は大切だと感じました。

学術研究発表④

座長 口井 信孝 (和歌山医療センター)

⑭ EPID を用いたIGRTにおける位置照合精度の検討

成田赤十字病院 大山 淳一

⑮ コリメータ回転軸外線量評価点に対応したMU値検証プログラムの開発

神戸赤十字病院 西海 哲也

⑯ スタッフ間の早期情報共有化に対する取り組み

～電子カルテ端末 (RIS端末) の有効利用～

福井赤十字病院 西川 由梨

⑭ EPID を用いたIGRTにおける位置照合精度の検討

EPID、MV-CBCTを用いた前立腺IGRT(画像誘導放射線治療)における技師の位置照合精度、作業時間

の比較、検討についての報告である。他の研究会、学会等でよく紹介されているが、位置照合マニュアルを作成し、一週間のトレーニングを実施した前後で比較検討している点がユニークである。一週間のトレーニングで照合作業時間の短縮、ばらつきの低減がはかられており、結果としてより正確な治療に繋がっていると思われる。当然ハード面での精度が担保された後の技師間のばらつきを評価していると考えられるが**EPID**、**MV-CBCT**では、テクニカル上骨構造をランドマークとした照合が基本になり、**organmotion**が照合に反映されない問題もある。前立腺内の石灰化部位を照合基準にした研究も散見されるが現時点においてはやはり骨構造を基準にしたセットアップが主流である以上、蓄尿、ガス処理または日々の治療開始時間を一定にすることで対応していくのが適切と考える。位置照合マニュアルについては、他施設にとっても有用と思われるため日本赤十字社放射線技師会ホームページの分科会欄で紹介していただけないでしょうか。

⑮ コリメータ回転軸外線量評価点に対応した**MU**値検証プログラムの開発

放射線治療計画システム (**RTPS**) から算出される**MU**値のスプレッドシート (エクセルベース) を用いた独立検証の研究発表である。もともとこの計算方式は**ESTRO**で報告されたものを群馬県立県民健康科学大学の保科氏が**2000**年の日本放射線技術学会総会において紹介したものである。日本赤十字社放射線技師会ホームページでは、長野日赤の小山氏がそのプログラム作成手順、注意点を詳細に紹介していることより既に採用されている施設も多いのではと推察する。当センターでも小山氏に指導いただき数年前にスプレッドシートを検証ツールの一つとして導入したが、実際の運用は一人が**OHP**シートを読み取り、あと一人がエクセルに入力するもので放射状半径計測の自動化が課題であった。今回の発表ではその自動化により作業効率の向上、計測誤差の低減が実現されている。ホームページでもウェッジ係数の取扱について説明されているように評価点が軸外の場合はウェッジ厚が変わるため対応できない。またメーカーにもよると思われるが計算アルゴリズムによりウェッジ係数の算出方法が異なるため注意が必要である。全ての状況に対応できるとは言い難いものの、多くの症例をカバーできるツールであること、この作業自体が測定データのコミショニングになること、ここまで仕上げるまでに実測、エクセル処理に相当な時間を要したことは自身の経験より明らかで、これらを総合的に判断し優秀演題と決定した。先の報告同様、**EXCEL-VBA**マクロによる自動化について、より詳細かつ具体的なプログラム作成手順を紹介していただきたく思います。

⑯ スタッフ間の早期情報共有化に対する取り組み～電子カルテ端末 (**RIS**端末) の有効利用～

情報の早期共有化に関する発表で、様々な制限により情報共有がうまく機能していなかった状況を、フリーソフト**Wiki** (ウィキ) の採用が閲覧頻度、利用率の向上に寄与した報告である。研究というより紹介といえる内容ではあるもののフリーソフトを利用し早期情報共有化に繋がるのであれば有用といえる半面、施設によっては運用規程に接触する可能性がある。実際のところ和歌山医療センターでは認められていない。またソフトの不備が原因で**HIS**、**RIS** に問題が波及した場合などフリーであるがゆえに補償等は受けられるとは考えられず、院内でのコンセンサスが得られたとしても運用面になお不安は残るかもしれない。

4. 災害医療

1. 国の内外における災害医療への積極的参加を啓発するため、HP や学術総会を通じて、以下の活動をしました。

H22.5.14 「平成 22 年度日赤 DMAT 及び日本 DMAT 研修」の案内を HP に掲載

H22.6.11 平成 22 年度 日本赤十字放射線技師学術総会において、海外救援活動に関する講演会を開催
「海外救援活動報告」

日本赤十字社 和歌山医療センター 川村 佳生 氏

「海外救援要員として活動するためには」

日本赤十字社 和歌山医療センター 口井 信孝 氏

H22.7.28 上記講演会のスライドを HP に掲載

H22.9.9 災害現場に X 線撮影装置を持ち込んで行なわれた平成 22 年度兵庫県合同防災訓練のレポートを HP に掲載

2. 東日本大震災に関して、当会では DMAT 活動や日本赤十字社医療救護班の一員としての人的支援、更には医療機器メーカーの協力を得て、被災地赤十字病院及び救護所等に対し、医療機器等の貸し出し支援を行なっています。これらの活動報告をホームページに掲載しておりますが、以下のように日付順にホームページ掲載記事を纏め、平成 23 年 4 月末までの当会の東日本大震災関連の活動報告とさせていただきます。

2011 年 03 月 15 日(火) 赤十字各施設の被害・救援状況を掲載

2011 年 03 月 17 日(木) 原発事故に伴う健康相談の対応状況を連載

松江・浜松 (18 日)・山田 (22 日)・前橋 (23 日)

2011 年 03 月 18 日(金) ポータブル X 線装置及び超音波装置貸出を案内
超音波装置貸出 (25 日・28 日)

2011 年 03 月 18 日(金) 高繊細モニタ貸出を案内
高繊細モニタ貸出 (4 月 5 日、耐震ゴム付 4 月 12 日)、耐震ゴムの紹介

2011 年 03 月 18 日(金) 第 1 回災害お見舞い文を掲載

2011 年 03 月 22 日(火) DMAT 活動報告を掲載

2011 年 03 月 24 日(木) 福島県発行のスクリーニング済証などを掲載

2011 年 03 月 29 日(火) 東北関東大震災 災害救護活動報告
土肥氏 (富山)、坂井氏 (唐津 4 月 7 日)
武田氏 (下伊那 4 月 13 日)、戸口氏 (大分 4 月 19 日)

2011 年 03 月 30 日(水) FCR 機能付加したポータブル X 線装置貸出を案内
nonCR 型ポータブル X 線装置+FCR セットを貸出 (30 日)

2011 年 03 月 30 日(水) 修正災害お見舞い文を掲載 (人的支援を加味)

2011 年 03 月 30 日(木) 日赤救護活動と放射線技師を掲載

2011 年 04 月 08 日(金) 災害医療分科会紹介を掲載

2011 年 04 月 13 日(水) nonCR 型ポータブル X 線装置+FCR セット追加貸出を案内

2011 年 04 月 21 日(木) nonCR 型ポータブル X 線装置+FCR セットを貸出

5. 文書管理

昨年度 HP 文書管理コーナーに掲載した諸文書は以下の通りです。

H22.7.23 病院機能評価 Ver.6 に関する資料

H22.8.11 松江赤十字病院の改正予防規程（案）

H22.10.13 障害防止法変更許可申請書における「常時立ち入る場所」の記載例

H22.10.28 医療機器管理に関する資料

H22.12.15 埼玉県における放射線部門機能強化事業に関する資料

H22.12.27 労働安全衛生法の届出に関する資料

貴重な資料やご意見等のご提供くださった方々に感謝申し上げます。

6. 福利厚生報告（総務部・事務局）

慶弔規定に基づき、祝電 2 名、弔電 4 名について行った。

7. 企画部活動報告（企画部）

ホームページ（HP）の機能改善により会員との連繋を推進し、赤十字病院の医療の質向上へ向けての有益な情報媒体として更なる充実を計った。また、メーリングリストを活用した電子的運営をさらに推進し、技師会活動の機能的運営を支持する基盤整備を実施した。両情報媒体を駆使することによりユビキタス技師会としてブロック活動を活性化させ、組織力の向上に努めた。

具体的な活動報告を以下に記す。

1. HP の機能的改善

(1)HP 上での入会案内及び異動・退会システムの構築

(2) HP 上での災害医療、文書管理コーナーの構築

(3) HP 上でのバナー広告の常設コーナーの構築

(1)から(3)を担当ベンダであるムツダ商会と協議のうえ実施した。(1)のシステム構築により本会の電子化は終了し、完全電子化した状態で次期体制への引き継ぎが可能となった。

2. モニタワークショップ in 赤十字の企画開催とブロック研修会の活性化

第 1 回（8 月 28 日、福井日赤 担当：企画、IT 組織調査、学術）

今回は、第 1 回中部ブロック研修会として開催した。

9 施設 29 名の参加があった。（詳細は HP で）

次年度の第 2 回中部ブロック研修会は、高山日赤で開催予定。

第 2 回（11 月 6 日、神戸日赤 担当：企画、学術）

7 施設 21 名の参加があった。（詳細は HP で）

第 3 回（1 月 15 日、岡山地赤 担当：企画、学術、事務局）

今回は、第 1 回中四国ブロック研修会として開催した。

11 施設 27 名の参加があった。（詳細は HP で）

・第 1 回から 3 回の開催にあたり協力メーカーの技術者と内容についての協議を重ね、メーカー及び会員講演者との間のパイプ役として活動した。

・活動休止中であった中部ブロックおよび中四国ブロックの開催を実現した。

3. メール会議から Web 会議へ

担当ベンダであるムツダ商会と協議を重ね日赤技師会に適したシステムを提案し、次年度からの Web 会議システム利用における道筋を作成した。学術分科会等での活用が期待される。

8. 組織調査活動報告（組織調査部）

1. 平成 22 年 4 月に全国赤十字病院技師長、課長宛に会員台帳の調査を行い、総会までに今年度の新入会員者（予定者）と施設毎会員数の現況把握を行った。
2. 新入会予定者の入会促進と退会者の確認作業を行った。
3. 日赤技師会学術総会についての調査を表彰委員会と伴に行なった。
4. アンケート調査として日赤技師会費の負担現況調査をおこなった。
5. 技師長・課長 ML（ホットクロス ML）への登録推進とその管理を行った。
6. 日赤 ML の登録率を増やす為に HP の見直しを図った。

9. 表彰部活動報告

表彰部報告

<平成 22 年度事業報告>

1. 功労賞（第 2 条の 1）

| | |
|--------|-----------------|
| 小林 孝明 | 釧路赤十字病院 |
| 市ノ渡 憲市 | 盛岡赤十字病院 |
| 宮本 岩保 | 盛岡赤十字病院 |
| 富原 弘之 | 福島赤十字病院 |
| 桜井 守 | 小川赤十字病院 |
| 足澤 登 | 日本赤十字医療センター |
| 友井 忠雄 | 横浜市立みなと赤十字病院 |
| 日尾 哲朗 | 金沢赤十字病院 |
| 金子 彰 | 高山赤十字病院 |
| 松山 秀夫 | 浜松赤十字病院 |
| 木村 幸一 | 長浜赤十字病院 |
| 渡辺 和美 | 広島赤十字・原爆病院 |
| 古川 和仁 | 日本赤十字社和歌山医療センター |
| 中澤 直心 | 福岡赤十字病院 |
| 木下 洋之 | 福岡赤十字病院 |
| 山口 春雄 | 日本赤十字社長崎原爆病院 |
| 高橋 朗 | 日本赤十字社長崎原爆病院 |

以上 17 名の方を功労賞として表彰しました。

2. 奨励賞 (第2条の2)

【施設】前橋赤十字病院

学術発表が施設として計10回に達したため表彰しました。

【個人】斉藤 幸夫 深谷赤十字病院

学術発表が個人として計3回に達したため表彰しました。

各表彰出席者は、総会時に賞状・記念品手渡し、欠席者に関しては、自宅に郵送しました。

平成23年度功労賞対象者に関しては、昨年12月に各ブロック理事連絡し、各ブロック理事から19名の対象者が推薦されました。

10. ブロック報告

【北海道ブロック】

平成22年度 技師長・課長（職務代行者）会議

開催日時：平成22年4月24日（土）

開催場所：北海道放射線技師会研修センター

第20回北海道地区会総会並びに研修会

開催日時：平成22年10月2日（土） 13:00～16:30

平成22年10月3日（日） 9:30～12:00

開催場所：北海道放射線技師会研修センター

第20回北海道地区会総会並びに研修会を10月2（土）・3（日）日の両日にわたり、道内全10施設18名の参加のもとに北海道放射線技師会研修センターにおいて開催しました。

初日の技術情報交流は施設規模の違いを乗り越えて、参加全施設において興味を持てる題材を取り上げて互いに「教え合おう」というものです。今回の「医療安全への取り組み」においても日頃の研鑽から生み出された文書が紹介され、会場からは「ナルホド」、「それいいネ」等々の声が揚がっていました。会員研究発表は9題で、いずれも臨床に即したとても興味深い演題であり活発な討議がなされていました。2日目は最近何かと元気な「放射線治療」について会員によるレクチャーをおこないました。道内10施設のなかで放射線治療を行っているのは北見1施設のみで、他施設においても知っておくべき基本的事項についてのお話がありました。特別講演は『CT技術はまだまだ進歩する』と題してGEヘルスケアジャパンからお話がありました。CTアプリケーションの最新情報を提供していただき、皆真剣に聞き入っていました。

【東部ブロック】

平成22年度研修会は小川赤十字病院（埼玉県）主催にて、平成22年11月27、28日の両日、熊谷市ホテルヘリテージリゾートにて開催された。晩秋のため熊谷市における日本一の暑さを肌で感じられなかったが、今回の研修会は夜遅くまで情報交換の熱気を肌で感じた。

（夏だけが「暑く」はないこと。「熱く」なること、なれることもある。）

東部ブロック20施設中14施設から59名が参加した。1日目は講演2題、特別講演1題、パネルディスカッションや業務連絡会議・情報交換会を行い、2日目は会員発表9題、教育講演1題をプログラム化した内容の濃い研修会であった。

小川大会長講演ならびに益井日本赤十字技師会長講演は、赤十字技師の使命や技師会の進む道標などを四季の自然に例えた会長らしい講演が印象に残りました。今後の技師会活動やブロック研修会の糧となり、研修会参加者は意識を統一できたと思う。

特別講演とパネルディスカッションはチーム医療をテーマに言葉だけではなく、具体的に実践し行動していくことの重要性で締めくくった「共感しあう」ことが印象でした。

教育講演は技師より講演の方が趣味というくらいの名調子の語り口で「医療ひばく相談の対応」でした。ことばの重要性はもとより対話の『こつ』など普段の接遇以上の相談者心理を追及しなければならないことを痛感した。

会員発表は業務多忙の中、技術の向上のため日々研鑽されている会員並びに施設の問題点等の発表が多くブロック内でも情報交換の必要性を感じた。

【中部ブロック】

第1回中部ブロック研修会を、平成22年8月28日（土）に福井赤十字病院で開催しました。テーマは「高精細モニタワークショップ in 赤十字ー改正 JESRA X-0093 への対応ー」

で、第一部フィルムレス環境におけるモニタ精度管理、第二部モニタの現状報告（施設発表）、第三部ワークショップという構成で行いました。第1回目は準備期間も短く、各施設への案内も遅くなり参加人数の心配をしておりましたが、9施設（福井・富山・金沢・安曇野・高山・岐阜・浜松・名古屋第2・神戸）29名の参加がありました。

研修会終了後、情報交換会を開催し、これからの中部ブロック活動について活発な意見交換を行いました。

【近畿ブロック】

平成22年2月27～28日、第18回近畿ブロック研修会が神戸にて開催されました。心配された雨も無事上がり、気持ちも晴れやかに、スタッフ一同開催に望みました。参加者計77名となった本会のメインテーマは、2次救急における放射線技師の役割です。当院放射線科森副部長の基調講演に引き続き、当直中の検査で遭遇した症例というシチュエーションで、あなたなら（自施設なら）何を疑って、次は何の検査を予想して準備するか？というグループディスカッションを行いました。施設をかためず、ランダムに分けたため、それぞれのグループ内でいろいろな意見が出、他施設の状況も垣間見ることができたので、非常に面白い企画となりました。また、会員研究発表は10年未満の会員限定で、12演題の発表がありました。非常に活発な質疑応答（関西ならではの厳しい突っ込み？）も見られ、発表者にとっては大変だったと思いますが、ぜひ今後の糧にしたいと思います。

【中・四国ブロック】

1月15日、この冬一番の寒気が訪れた岡山で中国四国ブロック医療モニタ管理講習会が、岡山赤十字病院研修センターで開催されました。参加施設は11施設（松江・鳥取・広島・庄原・山口・松山・徳島・高知・神戸・名古屋第二・岡山）27名の参加がありました。

第一部はフィルムレス環境におけるモニタ精度管理と題して、共催の株式会社ナナオ 技術部 斉藤氏ご講演をいただきました。汎用モニタと医療用高精細モニタの違いなど基礎の話から、JESRA ガイドラインの修正のポイントなどわかりやすい講演でした。

第二部は液晶モニタ品質管理と実際と題して、各施設のモニタ管理状況を、真野晃浩氏(名古屋第二)、松村光章氏(神戸)、加藤秀之氏(松江)に講演していただきました。実際のモニタ管理の話を聞くと、目からうろここと思えることや、いろいろ苦労されていることが分り大変参考になりました。

第3部は4グループに分れて、不変性試験を行いました。

【九州ブロック】

開催日：平成22年9月25日(土)～26日(日)

開催場所：日本赤十字社九州ブロック研修センター『アソシエート』（熊本県）

当番施設：長崎原爆病院、長崎原爆諫早病院

参加人数：39名（10施設）

研修内容：第1日目：特別講演2題、ブロック代表者会議

第2日目：会員研究発表3題、教育講演1題

平成22年9月25日(土)～26日(日)の日程で当番施設の長崎原爆病院、長崎原爆諫早病院のご協力のもと、日本赤十字社研修センター『アソシエート』におきまして九州ブロック研修会を開催しました。

この研修会も今回で11回目を迎え、講演・研究発表ともに多岐にわたるものとなり内容も充実してまいりました。特に、長崎原爆病院 朝長万佐男院長をお招きした講演では、原爆被災地長崎の当時の状況～現在までを原爆放射線の人体影響「生涯持続性のメカニズムを考える」という内容でお話され、原爆の恐ろしさ・人体への影響を再認識させられました。また、代表者会議・懇親会では、同じ赤十字施設で働く者として情報交換などが活発になされ、九州ブロックとしての絆がより一層深まりました。

次年度は、初めて開催場所を当番施設(佐賀県唐津市)に移して行う予定です。各施設のご協力のもと、より良い研修会にしていきたいと考えています。

【 第二号議案 】

1 1. 平成 22 年度決算報告

平成22年度一般会計決算報告書

平成23年3月31日現在 金額(円)

| 収 入 の 部 | | | | 支 出 の 部 | | | | | |
|---------|-----------|-----------|---------|--------------|---------|-----------|-----------|------------|---------------------|
| 科目 | 22年度予算額 | 22年度決算額 | 増減 | 備考 | 科目 | 22年度予算額 | 22年度決算額 | 増減 | 備考 |
| 会費 | 3,780,000 | 3,861,000 | 81,000 | 3,000×1,287名 | 総会費 | 200,000 | 113,785 | △86,215 | 総会議室費 |
| 入会金 | 20,000 | 69,000 | 49,000 | 1,000×69名 | 会費費 | 2,000,000 | 1,990,971 | △9,029 | 全国理事会、常任理事会費 |
| 雑収入 | 10,000 | 740 | △9,260 | 預金利息 | 役員活動費 | 98,000 | 94,500 | △3,500 | 3,500×27名 |
| 学術研究金費 | 880,000 | 872,000 | △8,000 | 8,000×109名 | ブロック活動費 | 700,000 | 439,955 | △260,045 | 100,000×6ブロック |
| HP広告収入 | 1,100,000 | 1,130,000 | 30,000 | 広告掲載23社 | 表彰費 | 250,000 | 236,395 | △13,605 | 賞状贈呈・活動費 |
| セミナー収入 | 0 | 600,000 | 600,000 | 0社 | 学術部費 | 300,000 | 123,800 | △176,200 | 活動費 |
| 前年度繰越金 | 2,585,667 | 2,585,667 | 0 | | 財務部費 | 50,000 | 31,310 | △18,690 | 活動費 |
| | | | | | 招請講習部費 | 15,000 | 10,892 | △4,108 | 活動費 |
| | | | | | 広報部費 | 200,000 | 71,160 | △128,840 | 活動費 |
| | | | | | 企画部費 | 300,000 | 265,746 | △34,254 | 活動費 |
| | | | | | 事務部費 | 300,000 | 255,639 | △44,361 | 活動費・使印費 |
| | | | | | 学術研究会費 | 880,000 | 738,553 | △141,447 | 会場費494,000は21年度決算済み |
| | | | | | サークル管理費 | 252,000 | 252,000 | 0 | |
| | | | | | HP管理運営費 | 400,000 | 189,000 | △211,000 | |
| | | | | | 基金積立金 | 100,000 | 100,000 | 0 | |
| | | | | | 予備費 | 2,330,667 | 570,000 | △1,760,667 | 23年度学術部協会費 |
| 合計 | 8,375,667 | 9,118,407 | 742,740 | | 合計 | 8,375,667 | 5,483,706 | △2,891,961 | |

(収入9,118,407 - 支出6,483,706 = 2,634,701預金)

預金 3,634,701 円は次年度に繰越し

日本赤十字放射線技師会 会長 益井 謙(印)
財務部 前川 栄寿(印)

平成22年度日本赤十字放射線技師会特別積立基金決算報告書

平成23年3月31日現在

| 科目 | 金額 | 備考 |
|---------|---------|------------|
| 前年度繰越金 | 50,000 | |
| 定期預金利息 | 61 | 平成22年度分 |
| 22年度積立金 | 100,000 | 一般会計より繰り入れ |
| 合計 | 150,061 | |

上記の通り報告いたします 日本赤十字放射線技師会 会長 益井 謙

【 第三号議案 】

1 2. 平成 22 年度監査報告

監 査 報 告 書

平成 23 年 4 月 22 日（金）午前 10 時より、日本赤十字社 203 会議室において、日本赤十字放射線技師会会則第 3 章第 15 条に基づき、

- 1 ・平成 22 年度特別積立金
- 2 ・平成 22 年度会誌特別会計
- 3 ・平成 22 年度業務研修決算
- 4 ・平成 2 年度一般会計決算
- 5 ・平成 22 年度会務（年度事業計画に基づく）

以上の証拠書類の照合および検算を厳正に監査した。

監事

鈴木利男 

中里 明 

【 第四号議案 】

平成 23 年度事業計画案（総括）

母なる海を汚し母国の大地を穢した、東日本大震災に因る原子力発電所事故は、従来の救命救護の支援の在り方を一変した。その放射線や放射能の毒牙は、健康被害を救護活動と為り得る可能性を秘め、救護班の放射線管理の専門家として、診療放射線技師の活動をその被災地に拡大するであろう。被災現地が、放射線被曝の攪乱と疲弊と焦燥の阿鼻叫喚の地で在り続ける限り、我々赤十字の放射線技師は総力戦で支援し続ける事になると思われる。

我々のユビキタス技師会は、災害拠点病院として石巻赤十字病院が奮闘した様に、また被災地で広島原爆病院や長崎原爆病院の同志が、救護施設の人心の安心立命に寄与した様に、それぞれの健闘の意志を継いで、犠牲者の弔い合戦に積極的に参加し続けなければならない。

一方で、この有事の最中でも学術活動は連綿として向上させなければならない。赤十字医学総会や他の学会の軒先を借りてでも、若い学徒を育て、実践の場の研究者を評価し続けなければならない。救援救護の修羅場と、学術研鑽の啓育環境をユビキタスと合理的に結び付けて、その知行合一の機能性に拍車を掛けなければならない。赤十字の放射線技師の存在感を示す為にも、各施設のリーダーの協力と、時代が求める会員個々の意気と覇気を期待したい。

1. 学術教育活動計画案

(1) 日本赤十字放射線技師学術総会の充実を目指します。

学術総会という名に恥じないような、内容の充実を目指します。講演会の充実、会員研究発表の質の向上、活発な討議等、会員に研究発表することが誇りに思えるような会に発展させていきたいと考えております。

(2) 分科会活動の活性を推進いたします。

3 月末の任期満了に伴い、分科会世話人が大幅に入れ替わりました。現在までのところ、決して活発な活動を行っているとは言えませんが、リフレッシュしたメンバーで、会員の皆様に有用な情報を提供できるよう、まずはホームページ上で積極的な活動を推進してまいります。

| | | |
|---------|-------|------|
| CT 分科会 | 加賀 久喜 | 大阪 |
| | 細川 博明 | 松山 |
| | 大竹 覚 | 成田 |
| | 河本 勲則 | 京二 |
| MRI 分科会 | 金澤 裕樹 | 京一 |
| | 宇田 暢樹 | 小川 |
| | 佐藤 統幸 | 大田原 |
| | 浅見 肇 | 深谷 |
| 乳房画像分科会 | 尾形 智幸 | さいたま |

| | | |
|----------|--------|------|
| | 西関 剛 | 長浜 |
| | 梶迫 絵美 | 京都第二 |
| | 井出 愛子 | 大森 |
| 医療情報分科会 | 西村 英明 | 福井 |
| | 加藤 秀之 | 松江 |
| | 西小野 昭人 | 熊本 |
| 核医学分科会 | 荻野 真博 | 旭川 |
| | 星野 洋満 | 前橋 |
| | 長瀬 光臣 | 足利 |
| 放射線治療分科会 | 小山 登美夫 | 長野 |
| | 上田 真吾 | 松山 |
| | 簾谷 和男 | 足利 |

2. 災害医療案

東日本大震災被災地に対し、関連機関と協議しながら人的支援及び機器の貸し出し等の支援を継続する。また災害医療分科会を設立し、国内外の災害医療及び緊急被ばく医療などに関する情報を提供し、赤十字放射線技師の特色でもある災害医療支援の強化を図る。

災害医療分科会世話人メンバー（敬称略）

- 代表世話人 駒井 一洋（名古屋第二赤十字病院）
- 世話人 口井 信孝（日本赤十字社 和歌山医療センター）
- 世話人 中田 正明（神戸赤十字病院）
- 世話人 坂井 征一郎（唐津赤十字病院）

3. 文書管理案

昨年同様、業務に係る諸文書や情報を提供することを目指します。

文書管理は皆様から文書やご意見等を頂きながら熟成する部門ですので、皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

4. 広報部活動案

平成 22 年度広報活動は、ホームページの積極的な活用を行い、更なる電子化へ邁進してまいります。その一つとして、これまで発刊してきた内容を、時事に即し部門 CMS を利用し、ホームページに展開してまいります。また、メールニュースの時事による配信を行い、ホームページ更新時の最新の情報を、会員各位へ提供してまいります。

二つ目として、バナー広告の追加募集を実施し、ホームページを管理運営する経費の礎と考えると共に本会運営経費の礎とも考え、協賛企業へ継続的なご支援をお願いしてまいります。

三つ目として、ホームページの展開は会員諸氏の閲覧が不可欠であり、他部門と協議し更に閲覧していただければような内容の充実を図ってまいります。

以下に広報活動の本幹を示します。

- 1) 部門 CMS 利用による本会の情報発信を実施いたします。
- 2) メールニュースの時事に即した配信を実施いたします。
- 3) バナー広告の維持推進を実施いたします。

5. 福利厚生案（総務部・事務局）

(1) 本社医療事業部と連携を密にし、赤十字事業(大型機器購入、医療安全推進、災害支援など)の展開に、我々が関与協力できる態勢の充実をより推進したい。

(2) HP の充実を図り、情報交換の窓口としての利便性の向上を推進したい。

技師長・課長 ML の登録を促し、意見交換の場として機動性の向上を目指したい。

(3) 会員相互の福利厚生に関する事業

慶弔規定に則り、速やかな対応を促したい。

6. 企画部活動案（企画部）

平成22年度は、本会の電子化は終了し、完全電子化した状態で新年度を迎えることになる。本年度は、ホームページ（HP）およびメーリングリスト（ML）と言った情報媒体を駆使することによりユビキタス技師会としてさらなる発展を期待される。

具体的な活動内容を以下に記す。

1. HPおよびMLを活用した技師会活動の機能的運営の推進

- ・ 広報部と連携し、HPを活用した電子広告の機能的な運用を企画推進する。
- ・ 学術部と連携し、HPを活用した分科会活動の機能的運営を推進する。
- ・ 組織調査部と連携し、MLとHPを活用したアンケート調査等の効率的運用を推進する。
- ・ MLの活用推進を図り、会員相互のコミュニケーション・ツールとして進化させる。

2. ユビキタス技師会発展のための新企画の推進

時代の流れを察知し、会員の関心を引きつける企画を提案する予定である。

7. 組織調査活動案（組織調査部）

1. 平成 23 年度も継続して全国赤十字病院施設へ会員台帳確認の調査を行います。

平成 23 年 4 月調査の際は台帳内容の正確性を期するために技師長（課長）及び会員の皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

2. 会員台帳調査に合わせて技師長・課長メーリングリスト（ホットクロス ML）の未登録技師長へ登録促進を継続します。

3. ホットクロス ML と日赤 ML の登録管理を引き続き行います。

4. 技師長・課長メーリングリスト（ホットクロス ML）を活用して各施設の抱える問題について定期的にその状況調査を進めます。

8. 表彰部活動案

今回の表彰からは、在職者も功労賞表彰対象に含めました。今までは、基本的に退職者を対象にしていました。これでは総会時に出席できない方が多く、会員の前で表彰することができないため1年前倒しで進めました。次年度も在職中に表彰できるよう、継続していきたい。

【 第五号議案 】

9. 平成23年度予算(案)

平成23年度一般会計予算(案)

金額(円)

| 収 入 の 部 | | | | | 支 出 の 部 | | | | |
|---------|-----------|-----------|-----------|--------------|---------|-----------|-----------|----------|---------------|
| 科目 | 22年度予算額 | 23年度予算案 | 増減 | 備考 | 科目 | 22年度予算額 | 23年度予算案 | 増減 | 備考 |
| 会費 | 3,780,000 | 3,870,000 | 90,000 | 3,000×1,290名 | 総会費 | 200,000 | 200,000 | 0 | 総会議室費 |
| 入会金 | 20,000 | 30,000 | 10,000 | 1,000×30名 | 会議費 | 2,000,000 | 2,000,000 | 0 | 全国理事会兼任理事会 |
| 雑収入 | 10,000 | 2,000 | △8,000 | | 役員活動費 | 98,000 | 98,000 | 0 | 3,500×28名 |
| 学術総会費 | 880,000 | 0 | △880,000 | | ブロック活動費 | 700,000 | 1,050,000 | 350,000 | 150,000×7ブロック |
| HP広告収入 | 1,100,000 | 1,200,000 | 100,000 | バナー広告掲載料 | 表彰費 | 250,000 | 250,000 | 0 | 異状選奨・活動費 |
| 前年度繰越金 | 2,585,667 | 3,634,701 | 1,049,034 | | 学術総会費 | 300,000 | 300,000 | 0 | 活動費 |
| | | | | | 総務部費 | 50,000 | 50,000 | 0 | 活動費 |
| | | | | | 相模総支部費 | 15,000 | 15,000 | 0 | 活動費 |
| | | | | | 印刷費 | 200,000 | 200,000 | 0 | 活動費 |
| | | | | | 企画総費 | 300,000 | 250,000 | △50,000 | 活動費 |
| | | | | | 事務局費 | 300,000 | 300,000 | 0 | 活動費・慶弔費 |
| | | | | | 学術研修会費 | 880,000 | 0 | △880,000 | |
| | | | | | サーバー管理費 | 252,000 | 252,000 | 0 | セキュリティ管理費 |
| | | | | | HP管理運営費 | 400,000 | 400,000 | 0 | |
| | | | | | 基金積立費 | 100,000 | 100,000 | 0 | |
| | | | | | 子償費 | 2,330,667 | 3,271,701 | 941,034 | |
| 合計 | 8,375,667 | 8,736,701 | 361,034 | | 合計 | 8,375,667 | 8,736,701 | 361,034 | |

以上、日本赤十字放射線技師会 平成23年度予算(案)を報告します

日本赤十字放射線技師会 会長 森井 謙(印)

財務部 前川 榮寿(印)

【 その他 】 役員改選 選挙管理委員会報告

平成 23 年 4 月 10 日

日本赤十字放射線技師会

会員各位 殿

日本赤十字放射線技師会

選挙管理委員長



鈴木 繁

平成 23、24 年度 役員改選について

平成 23、24 年度役員（会長、副会長、監事）の選挙にあたり、平成 22 年 12 月 14 日付けで立候補の告示を行ないましたところ、下記の方より立候補および推薦立候補の届出があり受理および資格審査を行なった結果、日本赤十字放射線技師会役員選挙規定第 4 章 1 1 条により、候補者が役員定数を超えないため、無投票で下記 6 名の立候補を当選と認めます。

ここに平成 23、24 年度役員（会長、副会長、監事）改選に関わる選挙管理委員会の報告と致します。

記

| | | |
|-----|-------|-----------|
| 会 長 | 清水文孝 | 深谷赤十字病院 |
| 副会長 | 久保田利夫 | 前橋赤十字病院 |
| 副会長 | 石田智広 | 福井赤十字病院 |
| 副会長 | 辻 秀憲 | 京都第二赤十字病院 |
| 監 事 | 中里 明 | 足利赤十字病院 |
| 監 事 | 山縣徳治 | 水戸赤十字病院 |

以上

10. ブロック活動案

【北海道ブロック】

平成 23 年度 技師長・課長（職務代行者） 会議

開催日時：平成 23 年 5 月 14 日

開催場所：未定（札幌市）

第 21 回北海道地区会総会並びに研修会

開催日時：平成 23 年 10 月 1、2 日（土、日）

開催場所：日本赤十字社北海道支部（札幌市）

【東部ブロック】

第 24 回東部ブロック学術研修会 成田赤十字病院担当

【中部ブロック】

第 2 回中部ブロック研修会 高山赤十字病院担当

【近畿ブロック】

第 20 回近畿ブロック学術研修会 京都第一赤十字病院担当

【中・四国ブロック】

第 2 回中・四国ブロック研修会 松山赤十字病院担当

【九州ブロック】

第 12 回九州ブロック研修会

開催日：平成 23 年 10 月 1 日(土)～2 日(日)

開催場所：唐津赤十字病院（佐賀県唐津市）

当番施設：唐津赤十字病院

研修内容：未定

平成 24 年

第 59 回定期総会資料

日 時 平成 24 年 5 月 31 日(木) 午後 4 時より
会 場 東京国際フォーラム ホール D-5
総会次第

開 会 の 辞

会 長 挨 拶

表 彰

総会議事運営報告

議 長 選 出

議事録署名人選出、書記及び採決係任命

議 事

【第一号議案】 平成 23 年度事業経過報告

【第二号議案】 平成 23 年度決算報告

【第三号議案】 平成 23 年度監査報告

【第四号議案】 平成 24 年度事業計画（案）

【第五号議案】 平成 24 年度予算（案）

【第六号議案】 その他

議 長 解 任

閉 会 の 辞

日本赤十字放射線技師会

表 彰

会員各位

日本赤十字放射線技師会
会 長 清水 文孝
表彰委員長 戸口 豊宏

日本赤十字放射線技師会表彰規定により、顕著な功績があったので表彰します。

1. 功労賞（第2条の1）

| | | |
|--------|------------|-----------|
| 大橋正男 | 長岡赤十字病院 | |
| 金子 弘孝 | 長岡赤十字病院 | |
| 宇野 二三代 | 成田赤十字病院 | |
| 福島 良 | 小川赤十字病院 | |
| 引屋敷 聖晴 | 武蔵野赤十字病院 | |
| 柳澤 信男 | 長野赤十字病院 | |
| 川 剛 | 長浜赤十字病院 | |
| 益井 謙 | 松江赤十字病院 | |
| 重松 味津雄 | 松山赤十字病院 | |
| 滝 健次 | 徳島赤十字病院 | |
| 田原 徳建 | 高知赤十字病院 | |
| 赤澤 武 | 熊本健康管理センター | (敬称略 順不同) |

2. 奨励賞（第2条の2）

| | |
|------|-------|
| 【個人】 | 該当者なし |
| 【施設】 | 該当者なし |

3. 感謝状

【第一号議案】平成 23 年度事業報告

1. 総括

平成 23 年 3 月 11 日に起きた東日本大震災は、地震のみならず大津波と化し、何もかも呑み尽くすように地を這い、ビルや住居を破壊し、山自体を崩して内陸まで到達した。そして、想定外の原発の事故が追い討ちをかけ、復興の妨げになったのは周知の事実であろう。その様な中、益井前会長、久保田副会長を筆頭に災害医療分科会の世話人の方々の獅子奮迅の活躍は推して知るべし。

本会は、この震災の余波を受け、非常事態宣言を発し学術総会の中止を決定した。そして、それに替わるものとして web 総会、書面決議の選択を行なった。何分にもはじめてのこと、役員は慣れない手順に翻弄されながらも無事終えたことに安堵した。ただ、ホームページを介した質疑応答では、今回の手技についての問合せや匿名メールでの批判をいただいたが、関心を持っていただけたことに感謝したい。

この様な最中、新たな執行部の船出であったが、余波をもろに受けての出帆であり、これまで築いてきたことを踏襲するのみに留まってしまったように見受けられる。しかし、本会をご支援いただいている本社医療事業部、物心両面にてご支援をいただいている各メーカー、そして、本会の基盤を支えていただいている会員諸氏の期待を裏切らない活動を続けて行きたい。会を預かる当方の持論は、「役員は会員のために何が出来るかを考え、会員は会の事業に積極的に参加していただく」、「会の活性化は、ブロックの活性化、分科会の活性化がその礎となる」の 2 点である。そのための手法を取ってきたが、周知はなかなか難しい面もあり、今後の課題と考える。

以上を基に役員各位のご支援をいただきながら、会の運営を担って行くことをお約束とし、平成 23 年度の総括とする。

2. 総務部事業報告

(1) 平成 23 年度役員は次の通りである。

| 役 職 名 | 氏 名 | 施 設 名 |
|-----------------|--------|--------------|
| 会 長 | 清水 文孝 | 深谷赤十字病院 |
| 副 会 長 | 久保田 利夫 | 前橋赤十字病院 |
| 副 会 長 | 石田 智広 | 福井赤十字病院 |
| 副 会 長 | 辻 秀憲 | 京都第二赤十字病院 |
| 常任理事（総務） | 山本 晃司 | 高知赤十字病院 |
| 同（事務局） | 浅妻 厚 | 神戸赤十字病院 |
| 同（学術部／分科会） | 竹安 直行 | 日本赤十字社医療センター |
| 同（学術部／学術総会） | 安彦 茂 | 仙台赤十字病院 |
| 同（財務部） | 前川 栄寿 | 成田赤十字病院 |
| 同（組織表彰） | 戸口 豊宏 | 大分赤十字病院 |
| 同（IT 推進／広報） | 荒井 一正 | 武蔵野赤十字病院 |
| 同（IT 推進／ホームページ） | 牧内 正史 | 諏訪赤十字病院 |
| ブロック理事（北海道） | 大沼 孝司 | 浦河赤十字病院 |
| 同（東北） | 新田 仁 | 盛岡赤十字病院 |
| 同（東部） | 尾形 智幸 | さいたま赤十字病院 |

| | | |
|---------|-------|----------|
| 同（中部） | 山口 忠夫 | 高山赤十字病院 |
| 同（近畿） | 高津 安男 | 大阪赤十字病院 |
| 同（中国四国） | 西田 史生 | 松山赤十字病院 |
| 同（九州） | 吉見 公作 | 鹿児島赤十字病院 |

| 役 職 名 | 氏 名 | 施 設 名 |
|-------|-------|---------|
| 監 事 | 山縣 徳治 | 水戸赤十字病院 |
| 監 事 | 中里 明 | 足利赤十字病院 |

| 役 職 名 | 氏 名 | 施 設 名 |
|-------------|--------|-----------|
| ブロック委員（北海道） | 川井 明彦 | 函館赤十字病院 |
| 同（東北） | 横山 高広 | 仙台赤十字病院 |
| 同（東部） | 星野 洋満 | 前橋赤十字病院 |
| 同（東部） | 若月 栄介 | 長岡赤十字病院 |
| 同（中部） | 山下 光弘 | 高山赤十字病院 |
| 同（中部） | 満間 啓二 | 富山赤十字病院 |
| 同（近畿） | 福田 勤也 | 京都第一赤十字病院 |
| 同（近畿） | 谷口 憲二 | 舞鶴赤十字病院 |
| 同（中国四国） | 梶谷 努 | 岡山赤十字病院 |
| 同（中国四国） | 安部 一成 | 高松赤十字病院 |
| 同（九州） | 嶋田 三賀佐 | 嘉麻赤十字病院 |

（2）会議開催状況

①第 58 回日本赤十字放射線技師会定期総会

第 58 回日本赤十字放射線技師会定期総会は、東日本大震災の影響により、全国理事会の承認を得て **web** 開催および決議となった。

（議長 小川赤十字病院 古川富男氏）

②常任理事会を 3 回、全国理事会を 1 回下記の通り開催し、検案事項および提案事項について審議決定し、議事録を作成した。

第 1 回常任理事会

平成 23 年 7 月 8 日（金）東京国際フォーラム G604 会議室

第 2 回常任理事会

平成 23 年 10 月 21 日（金）福井市地域交流プラザ 501 号会議室

第 3 回常任理事会

平成 24 年 2 月 17 日（金）日本赤十字社 202 号会議室

平成 23 年度全国理事会

平成 24 年 4 月 20 日（金）東京国際フォーラム G507 号会議室

(3) 東日本大震災による会費免除申請の取り扱い

平成 23 年度の会費免除措置を第 2 回常任理事会にて決定し、東北ブロック 11 施設に対し会費免除の案内を送付した。1 施設 1 名から申請があり、常任理事会にて承認した。

(4) 会費免除に関する規定改定案の策定（日本赤十字放射線技師会会費納入規定 第 5 条）

（資料参照）

会員の被災や病養、育休等による会費の免除の取り扱いについて、規定第 5 条の改定案の策定を行った。

(5) ブロック設置規定の一部変更

ブロック理事・委員の職務の明瞭化。

病院名変更及び新規加入（徳島ひのみね総合療育センター）に伴うブロック所属変更。

(6) 日本赤十字社医療施設職員によって構成される各団体及び学会の登録申請を行った。

上記について平成 24 年 3 月 23 日付で申請し、3 月 30 日に承認された。

(7) 医療事業通信「情報エクスプレス」の医療安全知恵の輪—放射線技術編を各施設に執筆依頼し、投稿を開始した。

3. 会員動向報告

会員数 1265 名（平成 24 年 4 月 30 日現在）

平成 23 年度退会者数 59 名

平成 23 年度入会者数 80 名

4. 福利厚生報告

慶弔規定に基づき、祝電 2 通、弔電 3 通を送付した。

物故者 小成田 文郎 氏（名誉会員 前橋）

5. 学術部活動報告

(1) 学術総会での学術活動

平成 23 年度日本赤十字放射線技師学術総会は、東日本大震災のため開催中止となりました。演題を申し込んでいただいた方に、日本赤十字医学会総会（福井）への発表の振替を提案し、6 題中 3 題の演者に発表していただきました。尚、HP での発表については、希望者はありませんでした。

| 演者 | 施設名 | 演題名 | 日赤医会 |
|--------|------------|--|------|
| 宇山 浩文 | 庄原赤十字病院 | 4 列 Multi detector row に搭載されたインジェクタ同期システムの検討 | |
| 西村 憲治 | 名古屋第一赤十字病院 | 冠動脈 CT での呼吸停止不良時に対する単一心拍画像再構成の有用性 | 発表 |
| 高橋 なつみ | 松山赤十字病院 | 直接変換型 FPD マンモグラフィ装置の使用経験～ポジショニングを中心に～ | 発表 |
| 渡辺 良彦 | 広島赤十字・原爆病院 | Daily QA3 における X 線エネルギー特性と平坦度について | 発表 |

| | | | |
|-------|-----------|--|--|
| 鷹野 潤寛 | 京都第二赤十字病院 | 当院における血栓溶解療法 (t-PA) の使用報告 | |
| 坪井 孝達 | 浜松赤十字病院 | 心筋 defect の大きさ及び small heart による心機能解析値への影響 | |

(2) ホームページ活動

- ① 情報提供／施設紹介 【CT 分科会】
- ② 情報提供／医学総会参加報告 【学術部】
- ③ 情報提供／逐次近似法を使いこなそう 【CT 分科会】
- ④ 情報提供／システムマップ 【医療情報分科会】
- ⑤ 掲示板／造影剤使用同意書

(3) 平成 23 年度 分科会活動報告

【CT 分科会活動報告】

CT 分科会世話人 京都第二赤十字病院 河本勲則

平成 23 年度 CT 分科会活動は、松山日赤 細川、大阪日赤 加賀、成田日赤 大竹、京二 河本の 4 名で行いました。

分科会世話人でメール会議を開催し、日赤技師会 HP 掲載内容や活動方針につき意見交換を行い、HP 上で CT 業務における情報交換の場を提供しました。

また、日赤医学会では放射線部門の座長として参加させていただきました。

HP には、施設紹介（各施設の CT 装置のスペック、CT 室検査運用状況やスタッフの配置など）現在大阪、松山、成田、京都第二赤十字病院が掲載されています。

また、新しい CT 技術の話題提供として「逐次近似を使いこなそう」をテーマに各メーカーより資料を提供していただき、HP 用に編集して画像再構成の理論や画質の向上と被曝低減について特集掲載しました。現在 GE、東芝、フィリップス、シーメンスが掲載されています。

只今、新たな企画を考案中です。

CT 分科会では、CT 検査の内容や日常業務において困っていること、疑問、運用面など、また HP 掲載資料についての質問等会員間で気軽に情報交換ができるようにと考えています。会員皆様からの活発なご意見、ご質問を賜りますようお願いいたします。

CT 分科会へメール送信してください。今後も日常業務に活かせる話題を取り上げ活動していきたいと世話人一同考えています。

ご協力、ご支援よろしくようお願いいたします。

CT 分科会世話人

| | |
|-------|------|
| 河本 勲則 | 京都第二 |
| 加賀 久喜 | 大阪 |
| 細川 博明 | 松山 |
| 大竹 覚 | 成田 |

【MR 分科会活動報告】

MR 分科会代表世話人 京都第一赤十字病院 金澤 裕樹

MR 分科会は、新世話人が発足し活動を開始した。電子メール会議を中心に活動をし、平成 23 年 6 月と平成 24 年 2 月の 2 回開催された。

第 1 回の議題は、“平成 23 年度の活動方針”について議論した。多くの活発な意見がでて議論されたが、“拡散強調画像 (diffusion weighted imaging; DWI) の臨床”に決定した。その内容は、近年ハードウェアの向上に伴い、DWI が撮像部位に限定されることなく臨床で使用されており、日本赤十字放射線技師会の多くの会員に対して、各施設の撮像条件・使用部位・使用目的など情報を集約し、Web で情報共有出来ることを目標にした。この目標は、2 年間の計画とした。さらに、世話人の宿題として、DWI に対して MR 分科会として、どのような情報が発信できるか、さらに会員の活動をとりまとめ論文文化できないかを次に持ち越した。

第 2 回の議題は第 1 回の議題内用を具体化したものとなった。まず、世話人施設の各部位毎の DWI 撮像条件の提示があった。頭部は比較的短い撮像時間 (1 分以内) であるのに対し、その他の部位では撮像時間を要する結果となった。その要因を調査すると、加算回数の増加による因子が最も大きく、呼吸同期の併用、繰り返し時間 (TR) などが関与していた。しかし、撮像条件の設定については、エコー時間 (TE) ・受信コイルの特性・撮像枚数・スライス厚などの設定により様々であった。また、b value の設定に関しては、 $b = 1000 \text{ sec/mm}^2$ の設定が最も多く、上腹部では $b = 500 - 1000 \text{ sec/mm}^2$ に設定する場合が多かった。参考文献を中心に、具体化かつ最適化することが必要であるとする。この稿を書いている時点においても、まだ議論は続いているため。この撮像条件に関してはここまで留めることにする。次回に報告したい。

最後に、MR 分科会より、研究計画があるので紹介したい。研究課題は、“拡散強調画像における受信コイル特性 (仮)”を計画中である。研究目的は、各種受信コイルにおいて、信号雑音比 (SNR) ・見かけの拡散係数 (ADC) の特性を調査することである。方法として、硫酸銅で満たした均一な球体ファントムを、表在コイル・QD コイル・アレイコイル・頭部専用多チャンネルコイルを使用して、撮像条件を同一 (e.g. TE, TR, b value) に設定して画像収集する。収集した画像の設定した点の信号値から SNR を算出する。次に同点の ADC を測定する。さらに、加算回数を変化させ、SNR および ADC の変化量を測定する。以上が、研究計画である。まだまだ荒削りな研究計画ではあるが、今後検討および議論を重ねて論文または学術発表にて結果を公開することを来年度の目標としたい。また、この研究に参加したい方またはご教示頂ける方は、MR 分科会世話人までご一報頂ければ幸いである。

MR 分科会世話人

| | |
|-------|------|
| 金澤 裕樹 | 京都第一 |
| 宇田 暢樹 | 小川 |
| 佐藤 統幸 | 大田原 |
| 浅見 肇 | 深谷 |

【医療情報分科会活動報告】

医療情報分科会 世話人代表 松江赤十字病院 加藤秀之

新メンバー3人（福井；西村、熊本；西小野、松江；加藤）により活動方針をメールにより協議しました。協議の結果、本会の特色を生かした現場で役立つ情報の公開と情報交換の場を提供することしました。

世話人間では様々な情報交換もありましたが、その多くは活動に関する協議が中心でした。本会に対しての具体的な分科会活動としてはシステムマップの調査および公開に留まりました。しかしながら、システムマップの公開は前任者から受け継いだ活動でもあり、形として公開できた意義は大きいと言えます。

現在、より簡便な情報交換の方法について分科会担当理事の竹安理事にも協議に加わっていただき模索中です。今後はシステムマップの充実と改善とともに、これを基にした情報交換等の活動が活発になるよう次年度に繋げたいと考えています。

最後に、システムマップの作成にご協力いただいた施設の方々に世話人一同、紙面をかりてお礼申し上げます。

医療情報分科会世話人

| | |
|--------|----|
| 加藤 秀之 | 松江 |
| 西村 英明 | 福井 |
| 西小野 昭人 | 熊本 |

【核医学分科会活動報告】

核医学分科会 代表世話人 旭川赤十字病院 荻野真博

昨年は東日本大震災による福島原発事故や甲府での小児過剰投与事件など、放射能という言葉が一般メディアに多く登場した一年でした。

小児過剰投与事件を受け、清水会長より各赤十字病院での投与に対する現状把握のアンケートの提案をいただきましたが、世話人での数回メール会議を重ねた結果、実施するまでに至りませんでした。その理由の一つとして、アンケート結果を一般の方々も閲覧可能なHPに載せて良いものか懸念があったのも事実です。

結局、核医学分科会として、今年度報告できる具体的活動ができなかったことを会員皆様に深謝いたします。来年度は、活動方針に掲げました核医学の基礎知識やデータ等についてHPに掲載することを目標に少しずつ前進したいと考えておりますのでどうぞよろしく願いいたします。

核医学分科会

| | |
|-------|----|
| 荻野 真博 | 旭川 |
| 星野 洋満 | 前橋 |
| 長瀬 光臣 | 足利 |

【乳房画像分科会活動報告】

乳房画像分科会 代表世話人 さいたま赤十字病院 尾形 智幸

今期の乳房画像分科会活動として、機器装置の更新に役立つかもしれない「撮影検査室ビフォー・アフター」「機種選定への道」「検査法紹介」等 HP を利用した活動を中心に展開していきたいと考えていますが、スロースタートの当分科会では今年度まだ活動に着手できておりません。来年度こそはこれらの活動をスタートさせたいと思っております。よろしくお願いいたします。

乳房画像分科会

尾形 智幸 さいたま
西関 剛 長浜
梶迫 絵美 京都第二
出井 愛子 大森

6. 災害医療部活動報告

東日本大震災被災地への機器貸出支援を継続しました。また放射線被ばく医療に関する人的支援活動報告をホームページに掲載しました。詳細は以下のとおりです。

- (1) 2012 年 1 月末時点での被災地への貸出医療機器状況は、ポータブル型超音波装置 5 台、ポータブル型 X 線装置 4 台、FCR システムと画像表示装置を組み合わせたものを 3 セット、X 線防護用プロテクター 2 枚及び高精細モニター 7 台です。
- (2) 2011 年 6 月 22,23 日、日本赤十字社岩手県支部の要請により、日本赤十字本社に寄贈された可搬型 FDP+ポータブル型 X 線システム設置の為、名古屋第二赤十字病院 駒井一洋氏（災害医療分科会代表世話人）が岩手県陸前高田市仮設診療所に派遣されました。23 日には盛岡赤十字病院 岩井貢氏とともに設置作業を行った。
- (3) 分科会世話人を含む会員の放射線被ばく医療に関する人的支援活動報告を以下のようにホームページに掲載しました。
2011 年 8 月 8 日 「福島原発一時帰宅者スクリーニング活動報告」掲載
2011 年 9 月 26 日 「福島第一原子力発電所医務室における医療支援活動報告」
- (4) 日本赤十字社長崎原爆病院 森幹司氏を 23 年度第 2 回理事会の承認を得て新たに災害医療分科会世話人に任命し、災害医療分科会の機能強化を図った。
- (5) 第 47 回日本赤十字社医学会総会にて駒井氏（名二）が「東日本大震災における日本赤十字放射線技師会の取り組み」と題して震災支援活動を発表しました。
- (6) 2 月 11 日、兵庫県災害医療センターにて震災支援活動の総括や今後の活動について分科会世話人会議を開催しました。
- (7) 東日本大震災の災害医療支援活動を電子会誌に掲載しました。

7. 文書管理担当報告

平成 23 年度ホームページ文書管理に掲載した諸文書は以下のとおりです。

- 2011 年 9 月 30 日 「独立行政法人 医薬医療機器総合機構の紹介」
2012 年 2 月 1 日 「厚生局による適時調査・個別指導」

8. IT 推進部（広報担当）活動報告

- (1) 日本赤十字放射線技師会電子会誌第3号を作成した。
(平成24年5月1日 技師会ホームページに掲載予定である)

9. IT 推進部（ホームページ担当）活動報告

- (1) ホームページのシステム改善を検討した。
第1回 IT 推進研修会（7月8日 第1回常任理事会内）
第2回 IT 推進研修会（10月21日第2回常任理事会内）
 - ①現在のホームページ利用状況
 - ・ Web サイト利用者月間約 784 名
 - ・ ページビュー数 月間約 5500 ページ
 - ・ ML 利用登録数 ART 会員数 198 名
ホットクロス登録施設数 94 施設
 - ②現在の問題点
 - ・ 会員間のコミュニケーションが難しい。
 - ・ バナー広告業者が、自社の広告を閲覧できない。
 - ③第3回常任理事会（2月17日）にて、SNS 導入を検討したが、予算面での再検討のため次年度に持ち越しとなった。

10. 組織調査部報告

- (1) 平成23年4月に全国赤十字病院技師長、課長宛に会員台帳の調査を行い、総会までに今年度の新入会員者（予定者）と施設毎会員数の現況把握を行った。
- (2) 新入会予定者の入会促進と退会者の確認作業を行った。
- (3) 技師長・課長 ML（ホットクロス ML）への登録推進とその管理を行った。
- (4) 日本赤十字放射線技師会メーリングリストの登録作業を行った。

11. 表彰部報告

- (1) 平成23年12月6日に HP 上で表彰者推薦の依頼を掲載した。
- (2) 平成23年12月8日に各ブロック理事に、各ブロックの対象者の方を報告し推薦の取りまとめをお願いした。また同日、技師長・課長 ML に表彰該当者依頼文書を送信した。
- (3) 昨年度は、東日本大震災の影響で学術総会が中止になったので、福井で開催された日本赤十字医学会総会時に、表彰式並びに意見交換会を行った。
- (4) 平成23年度の全国理事会で、表彰者を下記のとおり決定した。

功労賞（第2条の1）

| | |
|----------|--------|
| 長岡赤十字病院 | 大橋正男 |
| 長岡赤十字病院 | 金子 弘孝 |
| 成田赤十字病院 | 宇野 二三代 |
| 小川赤十字病院 | 福島 良 |
| 武蔵野赤十字病院 | 引屋敷 聖晴 |

| | | |
|------------|--------|-----------|
| 長野赤十字病院 | 柳澤 信男 | |
| 長浜赤十字病院 | 川島 剛 | |
| 松江赤十字病院 | 益井 謙 | |
| 松山赤十字病院 | 重松 味津雄 | |
| 徳島赤十字病院 | 滝 健次 | |
| 高知赤十字病院 | 田原 徳建 | |
| 熊本健康管理センター | 赤澤 武 | (敬称略 順不同) |

奨励賞 (第2条の2)

個人 施設 該当者なし

感謝状

東日本大震災時、日本赤十字放射線技師会を支援していただいた企業

| 企業名 | 支援の内訳 | |
|------------------|-----------------|-------|
| 株式会社 保科製作所 | 防護用エプロン | |
| 日本電気硝子株式会社 | 防護用衝立 | |
| 株式会社日立メディコ | ポータブル型 X 線装置 | 5 台 |
| | ポータブル超音波装置 | 5 台 |
| 株式会社 ナナオ | 高繊細モニタ | 19 台 |
| 富士フイルムメディカル株式会社 | FCR システム+画像表示装置 | 3 セット |
| コニカミノルタヘルスケア株式会社 | CR システム+画像表示装置 | 3 セット |

12. ブロック報告

(1) 北海道ブロック活動報告

第21回北海道地区会総会並びに研修会が10月1日(土)～2日(日)にわたり北海道支部会議室にて開催されました。昨年に新装成った北海道支部での念願の開催であり(札幌駅とすすきのの間地点という好立地)、道内10施設から24名の参加がありました。

研修会の内容についてはすでにお知らせしておりますが、毎年決められたテーマについて各施設それぞれの視点からコメントする「技術情報交流」、「会員研究発表」、特別報告として「東日本大震災救護活動参加報告」、超音波検査についての「レクチャー・技術講演」など時間押し捲りの討論がなされました。



尚、平成24年度の活動予定は以下の通りです。

5月12日 道内赤十字放射線技師 技師長職場長代行者会議

9月29～30日 北海道赤十字放射線技師会北海道地区会研修会総会

(2) 東部ブロック活動報告

平成 23 年度東部ブロック研修会を成田赤十字病院が担当し、千葉県成田市内のUシティホテルにおいて参加施設 14、参加会員数 49 名の会員の皆様の御出席頂き開催をいたしました。

最初に、日本赤十字放射線技師会、清水会長に『日赤放射線技師会活動・新たな船出』ということで御講演を頂き現在の日赤放射線技師会の活動状況、今後の技師会の方向性について具体的に示して頂きました。



(3) 中部ブロック活動報告

平成 23 年度中部ブロック研修会を、平成 23 年 8 月 20 日（土）に高山赤十字病院で開催しました。今回は、東日本大震災を踏まえての診断モニタの節電、耐震方法や、災害救護における放射線技師の果たす役割などをテーマにして、講演や討論を行いました。「災害救護における放射線技師の果たす役割」の発表の中では、中部ブロックからも多数の放射線技師の方が救護班として出動されており、身近な話題でもあり活発な討論となりました。



休憩時間には、会場の一部を利用して（株）ナナオの電子カルテ画像表示モニタ（2MP カラーモニタ、3.7MP カラー液晶モニタ）や医用画像表示モニタ（4MP 液晶モニタ）の展示をしていただき、最新のモニタを体感することが出来ました。



参加者は 9 施設（金沢・福井・諏訪・安曇野・岐阜・名古屋第 1・名古屋第 2・山田・高山） 29 名でした。

研修会後の談話会では、来年度の研修会開催場所を安曇野赤十字病院に決定しました。来年度の研修会も決まり、昨年度からスタートした中部ブロック研修会もようやく軌道に乗ってきました。開催プログラムは以下の通りです。

平成 23 年 8 月 20 日（土）

日本赤十字放射線技師会 中部ブロック

平成 23 年度業務研修会 at 高山赤十字病院

| | | | |
|-------------|------------------------------|------------------|----------|
| 12:30～13:00 | 受付 | 進行 | 山口忠夫（高山） |
| 13:00～ | 挨拶 | 日本赤十字放射線技師会 常任理事 | 牧内正史（諏訪） |
| 13:10～14:10 | メーカー講演 | 座長 | 石田智広（福井） |
| | 「モニタの精度管理と省電力設定・耐震に対する考え方」 | | |
| | 株式会社ナナオ 企画部 商品技術課 課長 森脇浩史 | | |
| 14:15～15:00 | 施設報告「診断モニタの管理状況 ～昨年からの経過報告～」 | 福井赤十字病院 放射線科部 | 西村英明 |

- 15:00～15:30 休憩と機器見学
- 15:30～16:15 会員報告 座長 片山典明（金沢）
- ・「災害救護班活動に参加して」
高山赤十字病院 放射線科部 中井良則
 - ・「災害救護班活動での放射線技師の果たす役割」
福井赤十字病院 放射線科部 安藤剛一
 - ・「災害救護班活動での放射線技師の果たす役割」
名古屋第二赤十字病院 放射線科部 猪岡由行
- 16:15～16:45 ディスカッション
- 16:50～17:20 談話会（今後の中部ブロック活動について）
司会 日置竹志（名古屋第二）
- 17:30～ 施設見学（自由参加）

平成 24 年度の活動として第 3 回目となる中部ブロック研修会を、安曇野赤十字病院で開催予定です。日程については 8 月下旬を予定しております。今回は、研修会に先立ち各病院の技師長・課長会議も予定しております。

（4）近畿ブロック活動報告

平成 24 年 3 月 3 日（土曜日）4 日（日曜日）の二日間、平成 23 年度日本赤十字放射線技師会第 20 回近畿ブロック研修会が、京都第一赤十字病院担当のもと京都市中京区のコープイン京都において開催され、12 施設 64 名の参加を頂きました。当院 依田院長 河野副院長 佐藤放射線診断科部長 日本赤十字放射線技師会 清水会長の御出席を頂き盛況のうちに終了しました。

イブニングセッションでは、会員の親睦を深め、施設代表会議では各施設間の有意義な情報交換が出来ました。



(5) 九州ブロック活動報告

平成23年10月1日(土)13:00~2日(日)に渡り、会場を唐津赤十字病院 講堂で開催いたしました。研修会内容は、

特別講演「重粒子線がん治療の現状と今後」

九州大学大学院医学研究院 重粒子がん治療学講座 教授 塩山 善之 先生

特別講演「脊椎変性疾患の診断と治療」

唐津赤十字病院 整形外科部長 生田 光 先生

特別講演「これからの日本赤十字放射線技師会」

日本赤十字放射線技師会 会長 清水文孝先生

と各講演がありました。

2日目は会員研究発表が4題なされ、最後に教育講演「緊急被ばく医療」—患者受け入れの実際 唐津赤十字病院 放射線技術課第一係長 坂井 征一郎氏が講演された。

尚、平成24年度のブロック研修会は、以下の予定で開催致します。

日 時 平成24年9月8日(土)13時20分~17時00分

平成24年9月9日(日)9時00分~12時00分

会 場 アソシエート

〒869-1404 熊本県阿蘇郡南阿蘇村河陽 4369-1

研修内容 未定



【第二号議案】 平成23年度決算報告

平成23年度 一般会計決算報告書

平成24年3月31日現在 金額(円)

| 収入の部 | | | | 支出の部 | | | | | |
|--------|-----------|-----------|---------|--------------|---------|-----------|-----------|------------|---------------------|
| 科目 | 23年度予算額 | 23年度決算額 | 増減 | 備考 | 科目 | 23年度予算額 | 23年度決算額 | 増減 | 備考 |
| 会費 | 3,870,000 | 3,936,000 | 66,000 | 3,000×1,312名 | 総会費 | 200,000 | 0 | △200,000 | 総会運営費 |
| 入会金 | 30,000 | 75,000 | 45,000 | 1,000×75名 | 会費 | 2,000,000 | 1,931,127 | △68,873 | 全国理事会、常任理事会費 |
| 雑収入 | 2,000 | 662 | △1,338 | 預金利息 | 役員活動費 | 98,000 | 105,000 | 7,000 | 3,500×30名 |
| 学術研修会費 | 0 | 0 | 0 | 学術研修会中止 | ブロック活動費 | 1,050,000 | 633,671 | △416,329 | 5ブロック |
| HP広告収入 | 1,200,000 | 1,350,000 | 150,000 | 広告協賛27社 | 表彰費 | 250,000 | 221,682 | △28,318 | 賞状副賞・活動費 |
| 前年度繰越金 | 3,634,701 | 3,634,701 | 0 | | 学術部費 | 300,000 | 88,658 | △211,342 | 活動費 |
| | | | | | 財務部費 | 50,000 | 47,325 | △2,675 | 活動費 |
| | | | | | 総経理室部費 | 15,000 | 12,313 | △2,687 | 活動費 |
| | | | | | 広報部費 | 200,000 | 20,185 | △179,815 | 活動費 |
| | | | | | 企画部費 | 250,000 | 0 | △250,000 | 活動費 |
| | | | | | 事務局費 | 300,000 | 243,235 | △56,765 | 活動費・慶弔費 |
| | | | | | 学術研修会費 | 0 | 0 | 0 | |
| | | | | | サーバ管理費 | 252,000 | 252,000 | 0 | セキュリティ管理費 |
| | | | | | HP管理運営費 | 400,000 | 231,000 | △169,000 | 定期刊行物更新、サーバー追加費 |
| | | | | | 基金積立費 | 100,000 | 100,000 | 0 | |
| | | | | | 予備費 | 3,271,701 | 770,455 | △2,501,246 | 24年度学術総会会場費、災害医療支援費 |
| 合計 | 8,736,701 | 8,996,363 | 259,662 | | 合計 | 8,736,701 | 4,656,651 | △4,080,050 | |

(収入8,996,363-支出4,656,651=4,339,712残金)

残金 4,339,712 円は次年度に繰越し

日本赤十字放射線技師会 会長 清水 文孝(印)

財務部 前川 栄寿(印)

平成23年度 特別積立基金決算報告書

平成24年3月31日現在

| 科目 | 金額 | 備考 |
|---------|---------|------------|
| 前年度繰越金 | 150,061 | |
| 定期預金利息 | 25 | 平成23年度分 |
| 23年度積立金 | 100,000 | 一般会計より繰り入れ |
| 合計 | 250,086 | |

上記の通り報告いたします。日本赤十字放射線技師会 会長 清水 文孝

【第三号議案】 平成年 23 度監査報告

監査報告

日本赤十字放射線技師会会則第 25 条に基づき、平成 24 年 4 月 20 日会長、副会長、財務担当等役員立会いの下、平成 23 年度の監査を実施した。

1、総括

平成 23 年 3 月 11 日に大震災、大津波の被害は原子力発電所の事故発生を誘発し、その余波は留まるところを知らず、各種学会の中止や延期に追い込まれた。本会も学術總會の中止、定期總會の web 總會に移行し書面決済より新たな執行部が誕生し、苦難の船出となった。その後 1 年が経過し、執行部もたゆまぬ努力において本会の活動・運営に多大な寄与をしていただけたことに、心より感謝申し上げる。

また、震災後の救護活動に従事した会員、医療機器支援における災害医療分科会の世話人の皆様や益井前会長、清水会長、久保田副会長、福島原発の管理棟での医療活動へ参加された皆様、更に震災直後より医療活動を繰り広げた石巻赤十字病院や東北ブロックの施設の皆様、多くの皆様に心より感謝申し上げます。

2、事業

本会の事業は、震災の余波を受けたものの執行部の努力にて平成 23 年度の事業計画に基づき、遂行されたものとする。その中でも震災後の救護活動、災害医療分科会の活動は分科会が立ち上がってまもなくということであったが、大いに活躍された事は特記されることとする。

余波を受けたことはそれとして、本会の活動・運営をしていく上でホームページの重要性は周知の通りであるが、更新が滞っているように見えることから更なる充実を望む。ホームページにおいては、各企業のご支援をいただいたバナー広告は、多くの賛同を得た結果であり、各企業の期待を裏切らない活動の展開を望む。

今年度の事業は、内容・質共に震災の影響があったことから少なからず満足は行くものではなく、次年度に向けての課題として欲しい。

3、会計

会長、副会長、財務担当等関係役員立会いの下、金銭出納簿、各種請求書及び領収書、預金通帳等を照らし合わせた結果、出納簿等関係書類が適正に処理されている事を確認した。

平成 24 年 4 月 20 日

日本赤十字放射線技師会 監事 中里 明 

日本赤十字放射線技師会 監事 山縣 徳治 

【第四号議案】 平成 24 年度事業計画案

1. 総括

早いもので、震災から 1 年が経過した。我々ユビキタス技師会の発展は、如何だったろうかと省みることから進むこととしたい。揺らぎの中から歩き出したものの、確実に一步を踏み出そうともがいていた。そして、その揺らぎを止めていただけたのも、役員各位の言動であったと思う。それを糧に、平成 24 年度の活動を会員諸氏にお約束したい。

平成 24 年度は、これまで築き上げてきたユビキタスのインフラを、更に利用し利便性の高い手技としたい。それには、時代を見据え流れを呼び込んでいかなければならないであろう。それには、ホームページの改訂を行なう、若しくは準備を行なっていかなければならない。そして多くの議論をぶつけ、よりベターな選択しななければならぬだろう。また、分科会の活動スキルを一段でも二段でも上げ、会員に多くの情報を付与できるようにしていかなければならない。ブロック活動もその一環にて、活性化を上げて行きたい。その為には、情報を共有できるホームページの充実が最優先である。情報を己だけで持ったとしてもひとつの情報であるが、情報は共有してこそ倍化し更に生命力を上げて行くに違いない。それこそが、93 施設のスケールメリット利用した情報網であり、媒体がホームページということに他ならない。また、7 分科会の活性化を図るべく担当常任理事を配置しとこと、ブロックの活性化を図るべく副会長を総括とし、常任理事をブロックに配置したことも活性化の手段である。本年度は、更に充実させて行きたい。

本会の活動は、我々を支援していただいている本社医療事業部、物心両面にて支援していただいている各メーカー、それらを裏切らないひとつの手段であると考え。更に、役員が活発に動き、考え、会員諸氏にフィードバックできる活動、そして会員が事業に積極的に参加できる環境を整え横の繋がりを強くする、そんな会の運営を目指すことをお約束したい。

2. 総務部事業計画案

(1) 平成 24 年度日本赤十字放射線技師会学術総会および第 59 回定期総会の開催

平成 24 年度日本赤十字放射線技師会学術総会（平成 24 年 5 月 31 日、6 月 1 日）および第 59 回定期総会（平成 24 年 5 月 31 日）を開催するにあたり、スムーズに会が運営できるよう心がける。

(2) 平成 24 年度の常任理事会および全国理事会を開催し、検案事項および提案事項について審議決定し、議事録を作成する。

| | | |
|---------------|----------------------|-------------|
| 第 1 回常任理事会 | 平成 24 年 7 月 13 日（金） | |
| | 日本赤十字社 203 小会議室 | 13:00～17:00 |
| 第 2 回常任理事会 | 平成 24 年 10 月 26 日（金） | 会場未定 |
| 第 3 回常任理事会 | 平成 25 年 2 月 15 日（金） | 会場未定 |
| 平成 24 年度全国理事会 | 平成 25 年 4 月 19 日（金） | 会場未定 |

3. 学術活動計画案

(1) 日本赤十字放射線技師学術総会の開催

平成 23 年度は、東日本大震災で開催が中止となりました。平成 24 年度は、「災害と医療安全」

をテーマに掲げ、災害講演を石巻赤十字病院 及川先生に、医療安全講演を大阪大学医学部附属病院 中島先生にさせていただきます。また、災害分科会にも活動報告をお願いしており、日赤技師会ならではの内容となっております。

研究発表は 11 題予定されており、今後日赤医学会や技術学会などの全国学会で発表する足がかりになればと考えております。

(2) 分科会活動の推進

ホームページ上での活動が主になりますが、そのほかにも各分科会で活動内容を立てております。また、分科会世話人代表の方にホームページへの書き込みの権限を委譲し、活発な分科会活動を推進していきます。

詳細は、平成 23 年度の各分科会活動報告をご覧ください。

(3) メーリングリスト (ML) ・ 掲示板の利用を推進する

日赤は全国的な組織展開をしており、ML や掲示板を活用することが必要となっておりますが、現状では十分に利用されていません。各分科会とも協力しながら、更なる ML ・ 掲示板の利用の活性化を図っていこうと考えております。

分科会の皆様からは、分科会単位のメーリングリストや掲示板を作してほしいという要望が出ています。

ホームページのリニューアルや変更の際に、各分科会と協力をしながら、この要望を盛り込んでいく方向に動いていきたいと考えております。

4. 災害医療支援部活動計画案

東日本大震災被災地への医療機器貸出支援を継続する。また、国内外の災害医療及び放射線被ばく医療などの災害医療支援への啓蒙活動を継続する。これらの活動をより一層強化するために、災害医療分科会を災害医療支援部に改める。これに伴い、従来の「災害医療分科会世話人」の名称を「災害医療支援部委員」とする。

今年度の具体的活動案は以下の通りです。

- (1) 平成 24 年度学術総会において医療機器貸出支援活動の報告を行なう。
- (2) 緊急放射線被ばくを含む災害支援活動の全国的調査の実施とその結果を報告する。
- (3) 東日本大震災被災地への医療機器の貸出支援を継続する。
- (4) その他災害支援に必要な活動を行なう。

5. 文書管理活動計画案

業務に関係する諸文書や情報を提供する。今年度は、「緊急放射線被ばくに関するマニュアル」(仮称)作成を目指します。文書管理は、赤十字というスケールメリットを活かし熟成する部門ですので、会員皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

6. IT 推進部 (広報担当) 活動計画案

- (1) ホームページ掲載内容充実に向けて、アンケート調査を行いホームページ内容の見直しを行う。
- (2) 24 年度 第 4 号電子会誌を作成する。

7. IT 推進部 (ホームページ担当) 活動計画案

- (1) 会員の HP 活用の推進を目的として、SNS 導入を検討する。
- (2) サーバ管理会社と連携して、情報のセキュリティーのさらなる強化を図る。
- (3) 総務部、学術部、組織部と連携して、HP の機能的な運用を図る。

8. 組織調査部活動計画案

- (1) 平成 24 年度も同様に会員台帳の調査を行い、新入会員者・退会者と施設毎会員数の現況把握を行います
- (2) 技師長・課長 ML (ホットクロス ML) への登録推進とその管理を行います。
未登録施設 2 施設
- (3) 日本赤十字放射線技師会メーリングリストの登録推進とその管理を行います。
以上、会員の皆様のご協力をお願い致します。
- (4) 学術総会についてのアンケート調査を行います。

9. 表彰部活動計画案

日本赤十字放射線技師会表彰規定に則り本会に功績のあった会員の表彰を、各ブロック理事と連携を取りながら行います。
また、会員皆様の情報（特に奨励賞）が重要ですので、ご協力をお願いします。

【第五号議案】平成 24 年度予算（案）

平成24年度一般会計予算(案)

金額(円)

| 収入の部 | | | | 支出の部 | | | | | |
|--------|-----------|------------|-----------|----------------|----------|-----------|------------|-----------|-----------------|
| 科目 | 23年度予算額 | 24年度予算案 | 増減 | 備考 | 科目 | 23年度予算額 | 24年度予算案 | 増減 | 備考 |
| 会費 | 3,870,000 | 3,960,000 | 90,000 | 3,000 × 1,320名 | 総会費 | 200,000 | 100,000 | △ 100,000 | 総会運営費 |
| 入会金 | 30,000 | 30,000 | 0 | 1,000 × 30名 | 会費 | 2,000,000 | 2,000,000 | 0 | 全国理事会、常任理事会 |
| 雑収入 | 2,000 | 2,000 | 0 | | 役員活動費 | 98,000 | 112,000 | 14,000 | 3,500 × 32名 |
| 学術研修会費 | 0 | 880,000 | 880,000 | 8000 × 110名 | ブロック活動費 | 1,050,000 | 1,050,000 | 0 | 150,000 × 7ブロック |
| HP広告収入 | 1,200,000 | 1,400,000 | 200,000 | パナー広告掲載料 | 表彰費 | 250,000 | 250,000 | 0 | 賞状副賞・活動費 |
| 前年度繰越金 | 3,634,701 | 4,339,712 | 705,011 | | 学術部費 | 300,000 | 300,000 | 0 | 活動費 |
| | | | | | 財務部費 | 50,000 | 50,000 | 0 | 活動費 |
| | | | | | 組織調査部費 | 15,000 | 15,000 | 0 | 活動費 |
| | | | | | 広報部費 | 200,000 | 200,000 | 0 | 活動費 |
| | | | | | IT推進部費 | 250,000 | 250,000 | 0 | 活動費 |
| | | | | | 災害医療支援部費 | 0 | 200,000 | 200,000 | 活動費 |
| | | | | | 事務局費 | 300,000 | 300,000 | 0 | 活動費・慶弔費 |
| | | | | | 学術研修会費 | 0 | 880,000 | 880,000 | |
| | | | | | サーバー管理費 | 252,000 | 252,000 | 0 | セキュリティー管理費 |
| | | | | | HP管理運営費 | 400,000 | 400,000 | 0 | 定期刊行物更新、パナー追加 |
| | | | | | 基金積立費 | 100,000 | 100,000 | 0 | |
| | | | | | 予備費 | 3,271,701 | 4,152,712 | 881,011 | |
| 合計 | 8,736,701 | 10,611,712 | 1,875,011 | | 合計 | 8,736,701 | 10,611,712 | 1,875,011 | |

以上、日本赤十字放射線技師会 平成24年度予算(案)を報告します

日本赤十字放射線技師会 会長 清水 文孝(印)
財務部 前川 栄寿(印)

平成25年

第60回定期総会資料

日 時 平成25年6月6日(木) 午後3時30分より
会 場 東京国際フォーラム ホール D-5
総会次第

開会の辞

会長挨拶

表彰

総会議事運営報告

議長選出

議事録署名人選出、書記及び採決係任命

議 事

【第一号議案】 平成24年度事業経過報告

【第二号議案】 平成24年度決算報告

【第三号議案】 平成24年度監査報告

【第四号議案】 平成25年度事業計画(案)

【第五号議案】 平成25年度予算(案)

【第六号議案】 その他 本会名称変更案

諸規定変更報告

【第七号議案】 平成25・26年度役員改選について

議長解任

閉会の辞

日本赤十字放射線技師会

表 彰

会員各位

日本赤十字放射線技師会
会 長 清水 文孝
表彰委員長 戸口 豊宏

日本赤十字放射線技師会表彰規定により、顕著な功績があったので表彰します。

1. 功労賞（第2条の1）

| | | |
|------------|--------|-----------|
| 盛岡赤十字病院 | 岩井 貢 | |
| 仙台赤十字病院 | 高橋 和義 | |
| 水戸赤十字病院 | 海老沢 平司 | |
| 足利赤十字病院 | 茂木 常男 | |
| 前橋赤十字病院 | 鈴木 繁 | |
| 小川赤十字病院 | 小川 清 | |
| 長岡赤十字病院 | 捧 和雄 | |
| 長野赤十字病院 | 八町 淳 | |
| 安曇野赤十字病院 | 関 利明 | |
| 浜松赤十字病院 | 北野 光浩 | |
| 舞鶴赤十字病院 | 谷口 憲二 | |
| 京都第一赤十字病院 | 河原 貴史 | |
| 京都第二赤十字病院 | 辻 秀憲 | |
| 姫路赤十字病院 | 上水 徹也 | |
| 広島赤十字・原爆病院 | 田中丸 芳樹 | |
| 松山赤十字病院 | 西田 史生 | |
| 長崎原爆諫早病院 | 小楠 弘幸 | (敬称略 順不同) |

2. 奨励賞（第2条の2）

| | | |
|---------|--------|-----------|
| 個人の部 | | |
| 深谷赤十字病院 | 清水 邦昭 | |
| 伊勢赤十字病院 | 大山 泰 | |
| 高槻赤十字病院 | 渡邊 良彦 | |
| 庄原赤十字病院 | 宇山 浩文 | |
| 松山赤十字病院 | 高橋 奈津樹 | (敬称略 順不同) |
| 施設の部 | | |
| 那須赤十字病院 | | |

3. 感謝状（第2条の3）

石巻赤十字病院
福島赤十字病院

前橋赤十字病院
さいたま赤十字病院
飯山赤十字病院
名古屋第二赤十字病院
伊勢赤十字病院
京都第二赤十字病院
神戸赤十字病院
広島赤十字・原爆病院
高松赤十字病院
唐津赤十字病院
日本赤十字社長崎原爆病院

(順不同)

4. 60周年記念事業 感謝状

東洋メディック株式会社
EIZO 株式会社
GE ヘルスケアジャパン株式会社
エーザイ株式会社
キャノンライフケアソリューションズ株式会社
ケアストリームヘルス株式会社
コヴィディエングループジャパン
コドニックス・リミテッド株式会社
コニカミノルタヘルスケア株式会社
シーメンス・ジャパン株式会社
テルモ株式会社
ユーロメディテック株式会社
株式会社 **AZE**
株式会社栗原医療機器店
株式会社千代田テクノル
株式会社島津製作所
株式会社日立メディコ
丸文通商株式会社
第一三共株式会社
中外テクノス株式会社
朝日レントゲン工業株式会社
東芝メディカルシステムズ株式会社
日本メジフィジックス株式会社
日本メドラッド株式会社
日本電子硝子株式会社
富士フイルム R I ファーマ株式会社

富士フィルムメディカル株式会社
富士製薬工業
石黒メディカルシステム株式会社
有限会社ムツダ商会

(順不同)

【第一号議案】 平成 24 年度事業経過報告

1. 総括

震災 2 年。爪痕は、未だ復旧、復興に障害として残り、遅々として進まぬ状況を呈しているようである。そして、年末の選挙にて政権が替わり、経済政策など様々な手法を繰り出そうとしているが、その歩みは本当に災害地に向いているか、一抹の不安を覚える。また、原発も終息の域を出ていないことは、抑え込めないもどかしさだけが影を落としているかもしれない。避難されている大勢の方々のお気持ちを思うと、一刻も早い終息宣言が待たれる。

本会の活動は、余波の影響も少なからず残っているが、役員各位の努力の下速やかに運営されたと思っている。そして、この 2 年間は、「継続と躍進」、「連携と連動」をテーマに会の運営を実施してきた。そのテーマを実践する根幹につながる当方の持論として、「ブロックの活性化」、「分科会の活性化」があった。それらは、本会の運営や本会の活性につながるものとの考えの中、役員諸氏の努力をいただいた。そのような中、全国 7 ブロックでの研修会が年度内に全てにおいて開催されたことは、これまでなかったことであり、大いに喜ばしいことであった。ブロック理事、開催施設の皆様に感謝申し上げます。そして、施設の枠にとどまらない会員間の交流ができたことは、本社の方針にもある「もっとクロス」ではなかったかと思っている。また、今年度は、北海道ブロック以外の 6 ブロックにて、お話をする機会を与えていただけたことは、会の方針をお話できる場でもあり、学術総会でのアンケートの報告もお話しできたことは大いに有意義であったと思う。更に、会員諸氏のご意見を伺える機会でもあり、今後もブロック研修会への招聘をお願いしたい。

分科会活動は、如何だろうと自問する。結論としては、未成熟な状況を打破できていないとの結論に達する。その課題は山積し見えてきていることを踏まえ、それには役員の頑張りが必要であり、分科会世話人の方々の後押しができるよう、次年度以降の対応をしっかりと行かなければならないと思っている。

本会の最大の事業である学術総会では、多くの会員の参加のもと盛大に開催できたこと、医療安全知恵の輪への投稿では滞ることなく執筆をいただけたこと、すべてにおいて会員諸氏に感謝申し上げたい。しかし、ユビキタス技師会の本幹であるホームページの運用は、止まってしまっている感があり、今後の最大の課題となるものと思っている。

いずれにしても、揺れるから始まった 1 年であり、そして躍ると題したこの一年は、なかなかスムーズに躍ることができなかったと思うが、牛歩のごとくではあったが進むことができたと思っている。しかし、まだまだ未熟な運営であったことは否めず、一つの結果と捉え、役員各位の、会員各位へ感謝を述べたい。

最後に、ブロック研修会の中でお話しさせていただいていることであるが、「施設の一員ではなく赤十字の御旗に集いし約 60,000 人の職員の一人であること」を会員の皆様に周知していただき、平成 24 年度の総括とする。

2. 総務部活動報告

(1) 第59回日本赤十字放射線技師定期総会の開催

第59回日本赤十字放射線技師定期総会を平成24年5月31日(木)東京国際フォーラムD-5にて開催した。清水会長挨拶の後、先般亡くなられた当技師会の名誉会員である小成田様、瀬山様、また東日本大震災で亡くなられた多くの方々のご冥福を祈って、全員で黙とうが捧げられ、その後表彰へと続いた。議事に先立ち定期総会は、会員参加者118名、総会委任状1087名、総計1205名を得ており、成立することを確認した。議長には原町赤十字病院 萩原健氏、熊本健康管理センター 長野勝廣氏の2名が選出され、平成23年度事業経過報告、決算報告、監査報告、平成24年度事業計画案、予算案について全てが審議され承認決議した。

(2) 理事会、定期総会の設定及び議事録の作成

常任理事会を3回、全国理事会を1回、下記のとおり開催し検討事項及び提案事項について審議決定し、それらについて全て議事録を作成した。

第1回常任理事会

平成24年7月13日(金) 13:00~17:00 日本赤十字社本社 203号会議室

第2回常任理事会

平成24年10月26日(金) 13:00~17:00 神戸赤十字病院 研修室

第3回常任理事会

平成25年2月8日(金) 13:00~17:00 日本赤十字社本社 202号会議室

平成24年度全国理事会

平成25年4月19日(金) 13:00~17:00 浜松町トラスト会議室

(3) 医療安全対策部会

今年度より発足した、本社医療事業部医療安全課管轄の医療安全対策部会に本会の久保田副会長が参加し、医療安全推進について協議また検討を行った。

第1回部会

平成24年9月3日(月) 14:00~16:00 日赤本社 304号会議室

第2回部会

平成25年1月25日(金) 13:30~15:30 日赤本社 202号会議室

3. 会員動向報告

会員数 1352名 (平成25年3月31日現在)

平成24年度退会者数 46名

平成24年度入会者数 87名

4. 福利厚生報告

慶弔規定に基づき、祝電2通、弔電2通を送付した。

久保田副会長が八町氏(長野赤十字病院技師長)の葬儀に参列、弔問した。

5. 学術部活動報告

(1) 平成 24 年日本赤十字放射線技師学術総会開催

平成 24 年 5 月 31 日（木）、6 月 1 日（金）の 2 日間、東京国際フォーラム ホール D-5 において、会員 118 名の出席の元、平成 24 年日本赤十字放射線技師学術総会を開催した。以下に内容を示す。
本社講演「赤十字病院の現状と課題」

医療事業部 次長 飯嶋 喜史 様

特別講演「東日本大震災における石巻赤十字病院の対応」

石巻赤十字病院 第 1 放射線技術課長 及川 順一 様

教育講演「チーム医療におけるノンテクニカルスキルの重要性」

大阪大学医学部附属病院 中央クオリティマネジメント部 部長・病院教授

中島 和江 様

会員研究発表

第一部（4 演題）座長 宇田 暢樹 氏（小川）

第二部（3 演題）座長 加藤 秀之 氏（松江）

第三部（4 演題）座長 細川 博明 氏（松山）

* 会員研究発表 最優秀賞・優秀賞受賞者

最優秀発表賞：松山赤十字病院 高橋 奈津樹様

優秀発表賞：深谷赤十字病院 富田 欣治様、武蔵野赤十字病院 藤岡 由紀様

分科会報告

災害医療：駒井 一洋 氏（名古屋第二）、坂井 征一郎氏（唐津）、森 幹司 氏（長崎原爆）

CT：河本 勲則 氏（京都第二）

医療情報：加藤 秀之 氏（松江）

(2) ホームページ活動

学術関連の資料・報告をホームページに掲載した。内容は以下の通り。

2012 年 04 月 14 日 【CT 分科会】逐次近似法を使いこなそう

2012 年 06 月 12 日 【学術部】平成 24 年度日本赤十字放射線技師学術総会
イブニングセミナー スライド掲載

2012 年 06 月 17 日 【学術部】平成 24 年度日本赤十字放射線技師学術総会
ランチョンセミナー①のスライド掲載

2012 年 08 月 03 日 【掲示板】台風 4 号による電源喪失

2012 年 09 月 21 日 【学術・総会】平成 24 年度日本赤十字放射線技師学術総会 研究発表 座長集
約および後抄録、特別講演「東日本大震災における石巻赤十字病院の対応」の講演資料掲載

2012 年 10 月 31 日 【放射線治療分科会】標準計測法 12

2012 年 11 月 06 日 【学術・総会】第 48 回日本赤十字社医学会総会に参加して

2012 年 11 月 19 日 【学術・総会】「医学会総会に参加して」

2013 年 03 月 07 日 【掲示板】授乳中患者さんの造影検査について

(3) 分科会報告

【CT 分科会】

- ①HPに、“逐次近似法を使いこなそう”を掲載
- ②24年度学術総会にて、分科会活動での発表
- ③ジェネリック造影剤の使用状況の調査を行っている
- ④ワークステーションに関する企画を検討した
- ⑤CT検査被ばく線量を評価するシステム（WAZAARI）を検討し、HPに掲載予定

【MRI 分科会】

拡散強調画像に関する研究を推進中

【医療情報分科会】

- ① 24年度学術総会にて、分科会活動での発表
- ② 医療用画像モニターの観察実験による評価を推進中

【乳房画像分科会】

- ① マンモグラフィ認定施設の掲載更新
- ② 各施設の業務状況のアンケートを検討中

【核医学分科会】

具体的な活動はできませんでした

【放射線治療分科会】

“標準測定法 01 と標準測定法 12 の違い “の HP への掲載

6. 災害医療支援部活動報告

東日本大震災被災地への医療機器貸出支援を災害期間終了の平成 25 年 3 月末まで継続しました。また、国内外の災害医療及び放射線被ばく医療などの災害医療支援への啓蒙活動を実施しました。詳細は以下の通りです。

(1) 契約条件である『災害期間』の 3 月末終了に伴い、貸出支援を収束中

- ①超音波装置は、3 月上旬貸出先の医療機関が買い上げました。
- ②ポータブル型 X 線装置+FCR システムと画像表示装置の 1 セットについては、これら装置を 4 月以降も使用しながら、貸出先の仮設診療所が買い上げを検討中です。

(2) 平成 24 年学術総会において、分科会報告を実施

医療機器貸出支援活動、放射線被ばく医療支援活動および災害医療アンケート報告を分科会活動として、駒井・森・坂井委員が報告しました。

(3) 委員による災害医療支援に係る講演活動

- ①『3.11 日本の危機に私たちができたこと』神戸赤十字病院 中田正明
平成 24 年 7 月 7 日（土）会場：江南厚生病院 講堂 愛知県厚生連放射線技師会

- ② 『緊急被ばく医療 患者受け入れの実際』 唐津赤十字病院 坂井征一郎
平成 24 年 8 月 25 日（土）会場：安曇野赤十字病院 中部ブロック研修会
- ③ 『3.11 日本の危機に私たちができたこと～DMAT における診療放射線技師の役割』
神戸赤十字病院 中田正明
平成 24 年 10 月 20 日（土）会場：仙台市産業・情報プラザ 東北ブロック研修会
- ④ 『災害医療における放射線技師の役割』 名古屋第二赤十字病院 駒井一洋
平成 25 年 1 月 26 日（土）会場：名古屋大学保健学科 日本放射線技術学会中部部会

7. 文書管理活動報告

- (1) 緊急放射線被ばく対応マニュアルを作成中
上記マニュアルを作成しておりますが、3 月末現在まだ完成しておりません。
- (2) その他 HP 掲載した記事無し

8. 広報部活動報告

- (1) 日本赤十字放射線技師会 2011 年度電子会誌の発行
2012 年 5 月 1 日にホームページへ掲載した。
- (2) 赤十字社リポジトリへ電子会誌の登録
2012 年 8 月に電子会誌 1 号～3 号を赤十字リポジトリへ登録・掲載した。
- (3) ホームページリニューアルに向け 2012 年 10 月より、「ホームページに関する意識調査アンケート」を、九州ブロックを先駆けとし実施した。その後全国赤十字病院へも実施し、2013 年 1 月をもって終了とした。回答率は 56.8%であった。
- (4) 2012 年度日本赤十字放射線技師会電子会誌を 2013 年 5 月 1 日付で掲載予定。現在編集中である。

9. IT 推進部活動報告

- (1) ホームページ変更
 - ① 定款・規約のアップを行った。
 - ② 各分科会のホームページへの掲載を行った。
 - ③ トップ画面のファビコンの設置を行った。
 - ④ カテゴリーの整理を行った。
 - ⑤ 全国日赤施設の更新作業を行った。
- (2) 新ホームページ更新作業
 - ① 新ホームページ更新のための概要作成を作成した。
 - ② 概要に合わせた、予算の作成を行った。
- (3) レンタルサーバ導入
 - ① 大容量データの理事間での共有化の構築を行った。
 - ② 新システムのための、試作ページを構築した。

10. 組織調査部活動報告

- (1) 平成 24 年 4 月に全国赤十字技師長・課長宛に会員台帳の調査を実施し、総会までに今年度の新入会会員（予定者）・退会会員を調査し施設毎会員数の把握をおこなった。
- (2) 平成 24 年日本赤十字放射線技師学術総会に於いて、総会のあり方に関するアンケートを行い、結果を HP に掲載した。
- (3) 新入会予定者の入会促進と退会者の確認作業を行った。
- (4) 技師長・課長 ML（ホットクロス ML）の変更並びに管理を行った。
- (5) 日本赤十字放射線技師会会員（Art ML）の登録作業を行った

11. 表彰部活動報告

- (1) 平成 24 年 11 月 6 日、HP 上で表彰推薦の依頼を掲載した。
- (2) 平成 24 年 11 月 7 日、各ブロック理事に、各ブロックの対象者の方を報告し推薦の取りまとめをお願いした。また、同日、技師長・課長 ML で表彰該当者依頼文書を送信した。
- (3) 平成 24 年度の全国理事会で、功労賞表彰者を決定した。
- (4) 学術部と協議し奨励賞（個人・施設）を決定した。
- (5) 平成 24 年度の全国理事会で、バナー広告 29 社 60 周年記念事業として、感謝状を贈呈することを決定した。

12. ブロック活動報告

【北海道ブロック】

- (1) 会議及び研修会総会
 - ① 平 24 年度全道赤十字施設放射線技師長・課長・職務代行者会議
平成 24 年 5 月 12 日 北海道支部看護大学サテライト室
 - ② 第 22 回全道赤十字放射線技師会研修会及び総会
平成 21 年 4 年 9 月 29～30 日北海道支部会議室
総会にて一部規約改正を行った。
また、会議室を 2 つのセッションに分けて討論を行った。

【東北ブロック】

- (1) 東北ブロック研修会の実施
東北ブロック会員の資質向上のため、平成 24 年 10 月 20 日、仙台市産業プラザにてブロック研修会を開催した。研修内容は以下の通りである。
 - ① 教育講演 1
「 3.11 日本の危機に私達ができた事～DMAT における診療放射線技師の役割～」
 - ② 会長講演
「 もっとクロスしませんか 日本赤十字放射線技師会 」
 - ③ 教育講演 2
「 FPD 装置の現状と将来 」

【東部ブロック】

日本赤十字放射線技師会 第25回 東部ブロック研修会

期日：平成24年11月23日（金）・24日（土）

当番病院：深谷赤十字病院

会場：キングアンバサダーホテル熊谷

参加者：17施設 70名

特別講演「国際女医会長の旅した世界と国連総会の経験」では埼玉医科大学名誉教授・国際女医会前会長の平敷先生の講演で、百カ国以上を旅し、任務をこなしてこられたバイタリティには感服した。また、講演開始、終了後の挨拶一つとっても聴く者に対する礼儀・配慮が素晴らしく人間的にも非常に尊敬できる先生の講演であった。また、研修会二日目の「荻野吟子 波乱の生涯」妻沼郷土史研究会理事 鈴木先生の講演とも関連があり、企画にも配慮が見られた。

パネルディスカッションⅠ（業務改善）

パネルディスカッションⅡ（放射線被ばくに関する取り組み）

テクニカルディスカッション（ワークステーションの活用法）

が行われ、いずれかのディスカッションにすべての東部ブロック施設が参加して行われた。

参加型研修会としてとても参加施設の親睦もはかれ画期的な企画である。

一般演題は5演題であった

【中部ブロック】

（1） 技師長・課長会議の開催

平成24年8月25日（土）午前10時より中部ブロック技師長・課長会議を開催しました。中部ブロック19病院のうち、13病院からの出席をいただき、今後の中部ブロックの活動について話し合いました。また、平成25年度のブロック理事の決定も行いました。

（2） 平成24年度中部ブロック業務研修会を開催

平成24年8月25日（土）13時から安曇野赤十字病院（長野県）で第三回目となる中部ブロック業務研修会を開催しました。

当日の業務研修会は冒頭に清水文孝会長の講演があり、最初から大変盛り上がりました。また、緊急被ばく医療のテーマでは、唐津赤十字病院の坂井征一郎様が遠い所から講演に来ていただき、中部ブロックの会員は大変驚いていました。今回は中部ブロックから13施設32名の参加がありました。

年々参加施設も参加者も増加しておりますので、業務研修会も軌道に乗りつつあると思われま

【近畿ブロック】

（1） ブロック研修会の実施

2月23・24日、大津赤十字病院にてブロック研修会を開催した。研修内容は以下の通りである。

- ① 特別講演1『食のバランス』ウォリス記念病院 事務長 澤谷久枝先生
- ② 特別講演2『心のバランス』大津赤十字病院 心理判定員 瀬崎千津江先生
- ③ 特別講演3『ワークライフバランス』大津赤十字病院 放射線科部 沢尾誠先生

- ④ 会長講演『もっとクロス！ 一步前進』 日本赤十字放射線技師会会長 清水文孝先生
- ⑤ 教育講演『トモセラピーについて』 大津赤十字病院 放射線部長 芥田敬三先生
- ⑥ 会員研究発表 10 演題

(2) 近畿ブロック施設代表者会議の実施

近畿ブロック理事会及び施設代表者会議を以下の通り開催した。

- ① 第 1 回 平成 24 年 11 月 24 日(土) 京都第二赤十字病院 C 棟 6 階ホール
- ② 第 2 回 平成 25 年 2 月 24 日(日) 大津赤十字病院 会議室

【中国・四国ブロック】

(1) 中四国ブロック研修会の実施

中四国ブロック会員の資質向上のため、3 月 16 日、岡山赤十字病院 研修センターにてブロック研修会を開催した。研修内容は以下の通りである。

- ① 福島第一原発災害医療に携わって
津山中央病院 山本 一雄
- ② 福島の現状と除染への取り組み
千代田テクノル 山崎 和也
- ③ サーベイメーターの扱い方 (実習)
汚染の測定手順 千代田テクノル 山崎 和也
松山赤十字病院 高本 研二

【九州ブロック】

(1) 九州ブロック研修会の実施

九州ブロック会員の資質向上のため、9 月 15 日 (土) 16 (日)、日本赤十字社九州ブロック研修センター 『アソシエート』にてブロック研修会を開催した。10 施設から 48 名の参加で、以下のプログラムの内容で研鑽しました。

開会挨拶 担当施設 熊本健康管理センター 長野 勝廣

会長挨拶 清水 文孝 会長

- ① 特別講演 1 「聴くことの力、話すことの力」 京都大学非常勤講師 佐藤泰子先生
- ② 特別講演 2 「パーソナルカラーについて」 カラーコーディネーター三村 弘美先生
- ③ 会員研究発表
「冠動脈 CT におけるコアベータの使用経験」 唐津赤十字病院 立川 圭彦
「64 列 CT による大動脈弁口面積測定の検討」 大分赤十字病院 中島 浩二
「PET-CT 検診の現況と成績」 熊本健康管理センター 中島 佳子
「PET-CT 検診が有効だった症例」 熊本健康管理センター 荒木 洋明

- ④ 施設紹介 熊本赤十字病院 総合救命救急センター・こども医療センター
熊本赤十字病院 山室 勇太

- ⑤ 教育講演 「医療安全と機器管理について」
GE ヘルスケアジャパン 佐藤 哲也 先生

総評 久保田 利夫 副会長

【第二号議案】 平成24年度決算報告

平成25年3月31日現在 金額(円)

| 収入の部 | | | | |
|--------|------------|------------|-----------|--------------|
| 科目 | 24年度予算額 | 24年度決算額 | 増減 | 備考 |
| 会費 | 3,960,000 | 4,083,000 | 123,000 | 3,000×1,361名 |
| 入会金 | 30,000 | 88,000 | 58,000 | 1,000×88名 |
| HP広告収入 | 1,400,000 | 1,580,000 | 180,000 | 広告協賛32社 |
| 学術研修会費 | 880,000 | 952,000 | 72,000 | 8,000×119名 |
| セミナー収入 | 0 | 700,000 | 700,000 | 3社 |
| 雑収入 | 2,000 | 872 | △1,128 | 預金利息 |
| 前年度繰越金 | 4,339,712 | 4,339,712 | 0 | |
| 合計 | 10,611,712 | 11,743,584 | 1,131,872 | |

| 支出の部 | | | | |
|----------|------------|-----------|------------|---------------------|
| 科目 | 24年度予算額 | 24年度決算額 | 増減 | 備考 |
| 総会費 | 100,000 | 86,400 | △13,600 | 総会運営費 |
| 会議費 | 2,000,000 | 1,766,880 | △233,120 | 全国理事会、常任理事会費 |
| 役員活動費 | 112,000 | 108,500 | △3,500 | 3,500×31名 |
| ブロック活動費 | 1,050,000 | 898,955 | △151,045 | 7ブロック |
| 表彰費 | 250,000 | 172,618 | △77,382 | 賞状副賞・活動費 |
| 学術部費 | 300,000 | 82,420 | △217,580 | 活動費 |
| 財務部費 | 50,000 | 43,645 | △6,355 | 活動費 |
| 組織調査部費 | 15,000 | 5,060 | △9,940 | 活動費 |
| 広報部費 | 200,000 | 42,330 | △157,670 | 活動費 |
| IT推進部費 | 250,000 | 19,111 | △230,889 | 活動費 |
| 災害医療支援部費 | 200,000 | 160,683 | △39,317 | 活動費 |
| 事務局費 | 300,000 | 123,164 | △176,836 | 活動費・慶弔費 |
| 学術研修会費 | 880,000 | 1,000,310 | 120,310 | 会場費570,000は23年度決算済み |
| サーバ管理費 | 252,000 | 252,000 | 0 | セキュリティ管理費 |
| HP管理運営費 | 400,000 | 225,750 | △174,250 | 定期刊行物更新、バナー追加費 |
| 基金積立費 | 100,000 | 100,000 | 0 | 積立て基金へ繰り出し |
| 予備費 | 4,152,712 | 0 | △4,152,712 | |
| 合計 | 10,611,712 | 5,087,826 | △5,523,886 | |

(収入11,743,584－支出5,087,826＝6,655,758残金) 残金 6,655,758 円は次年度に繰越し

日本赤十字放射線技師会 会長 清水 文孝(印)
財務部 前川 栄寿(印)

平成24年度日本赤十字放射線技師会特別積立基金決算報告書

平成25年3月31日現在

| 科目 | 金額 | 備考 |
|---------|---------|------------|
| 前年度繰越金 | 250,086 | |
| 定期預金利息 | 63 | 平成24年度分 |
| 24年度積立金 | 100,000 | 一般会計より繰り入れ |
| 合計 | 350,149 | |

上記の通り報告いたします 日本赤十字放射線技師会 会長 清水 文孝(印)

【第三号議案】 平成24年度監査報告

監査報告

日本赤十字放射線技師会会則第25条に基づき、平成25年4月19日会長、副会長、財務担当等役員立会いの下、平成24年度の監査を実施しました。

1、 総括

役員幹部・理事各位に於いては年4回の理事会以外にも理事会メールにて多種多様な事案をやり取りし、その回数は900通を超え、本会の活動・運営に多大な寄与をしていただいたことに、会員と会の運営を見守る監事として感謝申し上げます。

さらに日本赤十字放射線技師会が、平成24年3月30日付けで「日本赤十字社医療職員によって構成される団体及び学会等の登録」に承認されました。本会の活動・運営が本社医療事業部に認められたことは、ひとえに執行部の努力と特に事務局の浅妻理事が多忙の中、迅速に必要な書類を作成・提出していただいたことによるものであり、また、日本赤十字社医学図書館ホームページ内のインターネット上から利用できる新規機能（赤十字リポジトリ）へ本会の会誌を掲載登録するにあたり、過去の会誌も含め校正等、ご尽力いただいた広報部の荒井理事にも重ねてお礼申し上げます。

悲しい出来事は、放射線医学及び日本赤十字放射線技師会、特にCT分科会の基礎を立ち上げていただくなど、多大なる功績を残された長野赤十字病院の八町淳さんが不慮の事故により、他界なされました。謹んでお悔やみ申し上げますと共に、心よりご冥福をお祈りいたします。

2、 事業

本会の事業は、日常の職務を全うしながらも執行部の努力にて平成24年度の事業計画に基づき、遂行されたものと考えます。総括で記載した事柄にとどまらず、ホームページの更新については、HP担当の竹安理事を中心に執行部一丸となって「閲覧頻度」「活用頻度」「使い勝手の向上」を目指し、協議検討を行っていることは、「ホームページに関する意識調査」の結果からみても会員の期待に応える事業として、邁進していただきたく思います。

経済状況の厳しさは医療情勢にも影響が出ており、バナー広告協賛を辞退されたメーカーがあったことは残念ではありますが、新たに賛同されたメーカーもあったことから、ホームページの更新により、会員が望むコンテンツの提供をさらに強化し、各メーカーの賛同を得られることと協賛勧誘は執行部役員のみならず、技師長・課長からも情報をいただきたく、この場を借りてご協力をお願いいたします。

次年度は、新規理事も選任されることから課題解決のアプローチも増え、更なる活動の展開を望みます。

3、 会計


会長、副会長、財務担当等関係役員立会いの下、金銭出納簿、各種請求書及び領収書、預金通帳等を照らし合わせた結果、出納簿等関係書類が適正に処理されている事を確認いたしました。

平成25年4月23日

日本赤十字放射線技師会 監事

山縣 徳治 

日本赤十字放射線技師会 監事

中里 明 

【第四号議案】 平成 25 年度事業計画案

1. 総括

政局が替わり、どのような発展をするか不明な状況であるが、経済的には一抹の光が照らしているように見える。復旧も復興も一段と加速し、被災者へ手当が順当に進むことを期待したい。そして、本会においては、会員諸氏のご意見を糧に、平成 25 年度の計画を進めていくことを会員諸氏にお約束したい。

本会は、これまでどおり開催する学術総会、ブロック研修会、分科会活動を本幹として見据え、運営を担って行くこととする。また、ホームページにおいては、会員諸氏に還元できるよう、利便性の高いものに改訂してくることが必要不可欠である。そこで、本年度は、昨年度まで議論してきたホームページの改訂に着手し、多くの会員にアクセスいただけるようなホームページとしていきたい。更に、93 施設のスケールメリットをどのように生かしていくかを検討課題として、技師長・課長メーリングリスト、会員メーリングリストを有用に活用し、会員相互の情報網の構築を実施して行く。

本会の会員数は、飛躍的な伸びを示している中、会の運営も会員諸氏の要望に即した対応をしていかなければならず、情報網を駆使し、情報の共有、情報の配信を心掛けていくことをお約束したい。

本会の活動は、我々を支援していただいている本社医療事業部、物心両面にて支援していただいている各メーカー、それらを裏切らないひとつの手段であると考え。更に、役員が活発に動き、考え、会員諸氏にフィードバックできる活動、そして会員が事業に積極的に参加できる環境を整え横の繋がりを強くする、そんな会の運営を目指すことを役員一同にてお約束し、平成 25 年度の事業計画案の総括とする。

2. 総務部活動計画案

(1) 平成 25 年日本放射線技師学術総会および第 60 回定期総会の開催

平成 25 年日本放射線技師学術総会を平成 25 年 6 月 6 日（木）、6 月 7 日（金）に、第 60 回定期総会を平成 25 年 6 月 6 日（木）に東京国際フォーラム D-5 で開催予定である。

(2) 平成 25 年度の日本赤十字放射線技師常任理事会および全国理事会

平成 25 年度の日本赤十字放射線技師常任理事会 3 回および全国理事会 1 回を開催し、検案事項、提案事項について審議し、それらの内容について議事録を作成する。

第 1 回常任理事会 平成 25 年 7 月 5 日（金）／日本赤十字本社 203 小会議室

第 2 回常任理事会 平成 25 年 10 月中旬開催予定 ／会場未定

第 3 回常任理事会 平成 26 年 2 月中旬開催予定 ／会場未定

平成 25 年度全国理事会 平成 26 年 4 月中旬開催予定 ／会場未定

(3) 医療安全対策部会の活動報告

日本赤十字本社にて開催される、医療安全対策部会の活動を、HP を通じて継続的に報告していく。

3. 学術部活動計画案

(1) 日本赤十字放射線技師学術総会の開催

平成 25 年 6 月 6・7 日の 2 日間東京国際フォーラム において開催予定。内容は、教育講演、日本赤十字放射線技師会 60 周年記念講演、分科会シンポジウム、分科会講演、会員研究発表等を行う予定。

(2) 分科会活動

会員の皆様にホームページ上で有用な情報提供を行うことを主たる活動とする。また、学術総会においてシンポジウム等を行う。

【CT 分科会】 CT 装置の特徴や新しい検査技術を取り上げその内容について紹介、解説を

HP 上でまとめて掲載しようと言うことを現在委員間で検討中です。

河本 勲則（京都第二）、加賀 久喜（大阪）、細川 博明（松山）、大竹 覚（成田）

【MRI 分科会】 拡散強調画像に関する研究を HP に掲載する予定

宇田 暢樹（小川）、佐藤 統幸（那須）、浅見 肇（深谷）

【乳房画像分科会】 各施設の業務状況のアンケートを検討

尾形 智幸（さいたま）、西関 剛（長浜）、梶迫 絵美（京都第二）、出井 愛子（大森）

【医療情報分科会】 ①システムマップの改訂の検討

②医療用画像モニターの観察実験による評価の検討

西村 英明（福井）、加藤 秀之（松江）、西小野 昭人（熊本）

【核医学分科会】

星野 洋満（前橋）、長瀬 光臣（足利）、小池 克己（さいたま）

【放射線治療分科会】 治療分科会としての会議・講習会をおこないたいと考えている。

小山 登美夫（長野）、上田 真吾（松山）、簾谷 和男（足利）

4. 災害医療支援部活動計画案

(1) 貸出支援の円満な収束

医療機器貸出終了にあたり、貸出先に大きな負担にならないよう尽力します。

(2) 災害医療支援啓蒙活動の継続

ブロック研修会等を通じて、啓蒙活動を継続します。

(3) 災害医療支援体制の基礎づくり

長期的展望に立って以下のことを継続的に行ないます。

- ① 放射線被ばくを含む災害時における診療放射線技師の活動のための教育プログラムを検討し、その研修会の開催を目指します。
- ② 災害時における放射線技術部門へ支援のあり方を検討し、その構築を目指します。

5. 文書管理活動計画案

- (1) 前年度に引き続き緊急放射線被ばく対応マニュアルを作成し、その完成を目指します。
- (2) 改正放射線障害防止法の施行に伴い、予防規程の見直しが必要となっており、予防規程の試案作成を目指します。

6. 広報部活動計画案

- (1) 平成 25 年度電子会誌の作成
- (2) 平成 24 年度電子会誌の赤十字リポジトリ登録
- (3) ホームページの見直し・更新
 - ① 24 年度に実施したアンケート調査を基に、会員の意見を取り入れホームページのリニューアルを行っていききたい。
 - ② ホームページ内容の充実

7. IT 推進部活動計画案

- (1) ホームページ内容の充実
会員の情報共有のため、従来よりホームページの活用を推進してきたが、本年度は以下の事業を進めることにより、さらなる充実を図っていききたいと思います。
 - ① ホームページ上での分科会活動を活性化させる。
 - ② 広報と連携して、レスポンスの良いホームページへの掲載。
 - ③ できる範囲の画面構成の変更。
- (2) ホームページ リニューアルを推進。
 - ① ホームページアンケート（広報が行ったもの）を盛り込んだホームページの作成。
 - ② SNS の導入を含んだホームページの検討を行う。
 - ③ 動的（イベント参加の申し込みなど）な画面構成の検討を行う。

8. 組織調査部活動計画案

- (1) 平成 25 年度も同様に会員台帳の調査を行い、新入会会員・退会会員の施設毎会員数現状把握を行います。
- (2) 技師長・課長 ML（ホットクロス ML）の管理を行います。
- (3) 日本赤十字放射線技師会会員メーリングリストの登録促進とその管理を行います。
以上、会員の皆様のご協力をお願いします。
- (4) より良い学術総会を目指し、総会に関するアンケート調査を行います。

9. 表彰部活動計画案

- (1) 日本赤十字放射線技師会表彰規定に則り本会に功績のあった会員・施設の表彰を各ブロック理事・学術担当理事と連携を取りながら行います。
会員皆様の情報が重要ですので、ご協力をお願いします。

10. ブロック活動計画案

【北海道ブロック】

(1) 会議及び研修会総会

- ① 平成 25 年度全道赤十字施設放射線技師長・課長・職務代行者会議
平成 25 年 5 月 11 日 北海道支部看護大学サテライト室予定
- ② 第 23 回全道赤十字放射線技師会研修会及び総会
気管支模型の制作、肝臓の区域研修予定

【東北ブロック】

(1) 東北ブロック研修会の継続的な実施

平成 24 年度に東北発のブロック研修会を実施することができたため、会員の更なる資質向上と各病院の交流を深めるため、本年度からも引き続き東北ブロック研修会を開催していきたい。

- ① ブロック研修会の大きな運用方針については、研修会開催時に各施設の代表者が集まり会議を行い、決定する。
- ② 次回開催場所と担当施設においても、上記の会議にて決定する。

(2) 東北ブロック理事・委員等担当施設の決定

現在、東北ブロックにおいて理事・委員の選出決定方法は定まっておらず、ブロック規約なども存在していないため、次回研修会開催時の代表者会議において決定したい。

【東部ブロック】

第 26 回東部ブロック研修会を平成 25 年 11 月 23 日～24 日 中野サンプラザにて開催予定。

(当番病院 武蔵野赤十字病院)

【中部ブロック】

(1) 第 4 回中部ブロック業務研修会 開催予定

平成 25 年度より、一泊研修会を企画しております。

平成 25 年 9 月 7 日（土）～8 日（日）に伊勢赤十字病院が主幹になりまして、第 4 回中部ブロック業務研修会を開催予定です。今回のテーマは「中部ブロックの仲間を知ろう」「診療放射線技師による読影」「救急医療」「地域医療」としています。

【近畿ブロック】

(2) 第 22 回近畿ブロック研修会を開催する。

平成 26 年 2 月に京都第二赤十字病院にて開催予定である。

(3) 近畿ブロック施設代表者会議を開催する。

各施設間で情報交換及び情報共有し、業務内容の資質向上を図る事を目的として年 2 回開催予定である。

【中国・四国ブロック】

(1) ブロック研修会の充実

本年度はブロック研修会を継続し、さらなる充実を図っていきたい。

- ① 中四国ブロック各施設間の情報を共有する。
- ② 中四国ブロックでの技師長、課長会議等の計画。

【九州ブロック】

(1) 平成25年度九州ブロック活動（案）

開催時期 9月未明

開催場所 日本赤十字社九州ブロック研修センター『アソシエート』

担当施設 今津赤十字病院・嘉麻赤十字病院・鹿児島赤十字病院 合同で開催予定

【第五号議案】平成25年度予算（案）

| 金額(円) | | | | |
|----------------------------------|------------|------------|-----------|---------------|
| 収入の部 | | | | |
| 科目 | 24年度予算額 | 25年度予算案 | 増減 | 備考 |
| 会費 | 3,960,000 | 4,110,000 | 150,000 | 3,000×1,370名 |
| 入会金 | 30,000 | 70,000 | 40,000 | 1,000×70名 |
| HP広告収入 | 1,400,000 | 1,500,000 | 100,000 | バナー広告掲載料 |
| 学術研修会費 | 880,000 | 880,000 | 0 | 8,000×110名 |
| セミナー収入 | 0 | 600,000 | 600,000 | 2社 |
| 雑収入 | 2,000 | 2,000 | 0 | |
| 前年度繰越金 | 4,339,712 | 6,655,758 | 2,316,046 | |
| 合計 | 10,611,712 | 13,817,758 | 3,206,046 | |
| 支出の部 | | | | |
| 科目 | 24年度予算額 | 25年度予算案 | 増減 | 備考 |
| 総会費 | 100,000 | 100,000 | 0 | 総会運営費 |
| 会議費 | 2,000,000 | 2,000,000 | 0 | 全国理事会,常任理事会 |
| 役員活動費 | 112,000 | 112,000 | 0 | 3,500×32名 |
| ブロック活動費 | 1,050,000 | 1,050,000 | 0 | 150,000×7ブロック |
| 表彰費 | 250,000 | 370,000 | 120,000 | 賞状副賞・活動費 |
| 学術部費 | 300,000 | 300,000 | 0 | 活動費 |
| 財務部費 | 50,000 | 50,000 | 0 | 活動費 |
| 組織調査部費 | 15,000 | 10,000 | △5,000 | 活動費 |
| 広報部費 | 200,000 | 200,000 | 0 | 活動費 |
| IT推進部費 | 250,000 | 250,000 | 0 | 活動費 |
| 災害医療支援部費 | 200,000 | 200,000 | 0 | 活動費 |
| 事務局費 | 300,000 | 300,000 | 0 | 活動費・慶弔費 |
| 学術研修会費 | 880,000 | 880,000 | 0 | |
| サーバー管理費 | 252,000 | 252,000 | 0 | セキュリティ管理費 |
| HP管理運営費 | 400,000 | 400,000 | 0 | 定期刊行物更新、バナー追加 |
| 基金積立費 | 100,000 | 100,000 | 0 | |
| 予備費 | 4,152,712 | 7,243,758 | 3,091,046 | |
| 合計 | 10,611,712 | 13,817,758 | 3,206,046 | |
| 以上、日本赤十字放射線技師会 平成25年度予算(案)を報告します | | | | |
| 日本赤十字放射線技師会 会長 清水 文孝(印) | | | | |
| 財務部 前川 栄寿(印) | | | | |

【第六号議案】そ の 他

(ア)本会名称変更について

現在、本会の名称は、「日本赤十字放射線技師会」と称しております。今回、この名称を「日本赤十字社 診療放射線技師会」と改定いたしたいと考えます。

その理由として、診療の冠は、我々診療放射線技師の正式の名称であり、法律もこの名称にて立法されております。また、現状の業務の中、各種の機器を扱うことが我々の業務のような感覚になってしまっているようにも見受けられ、診療を忘れてしまっているようにも思えて仕方ありません。「診療」とは、医療に携わることであり、「診療」とは、チーム医療の一員となることであり、「診療」とは、医療安全の推進に寄与すること、と考えます。「診療」の二文字の意味、重みを自覚し、職制の発展につなげていきたいと思えます。

また、災害医療や被ばく医療においても、診療放射線技師であり日本赤十字社の社員として、必要不可欠な業務と捉えており、本会の発展に寄与するものと考えております。

(イ)表彰規定変更報告

【第七号議案】 平成 25・26 年度役員改選について

日本赤十字放射線技師会
選挙管理委員会

日本赤十字放射線技師会平成 25・26 年度役員選挙 審査報告書

開催日時 : 平成 25 年 4 月 7 日 (日) 13時20分～14時00分
開催場所 : 神戸赤十字病院 第一研修室
出席者 : 選挙管理委員 松井久男 (長浜)、佐々考章 (岐阜)、佐々木昌俊 (浜松)
奥出隆夫 (長浜)、平川益三 (京都第一)
事務局 浅妻厚 (神戸)
報告日 : 平成 25 年 4 月 19 日 (木)
報告者 : 選挙管理委員長 松井久男

審査内容 :

1) 立候補者届けの確認

立候補者は下記の 6 名であった。

記

| | | |
|-----|-----------------|-----------------------|
| 会長 | 清水文孝 (深谷赤十字病院) | 立候補 |
| 副会長 | 久保田利夫 (前橋赤十字病院) | 立候補 |
| | 石田智広 (福井赤十字病院) | 立候補 |
| | 戸口豊宏 (大分赤十字病院) | 推薦候補 |
| | | 推薦人 清水文孝 (深谷) |
| 監事 | 山縣徳治 (水戸赤十字病院) | 立候補 |
| | 牧内正夫 (諏訪赤十字病院) | 推薦候補 推薦人 清水文孝 (深谷) |

推薦者届における候補者の同意を確認し、役員選挙規定第5章第12条の会費完納確認については、事務局にて行い問題なかった。

2) 当選の確認

立候補届及び推薦者届が定数を超えなかった為、役員選挙規定第4章第11条により、上記の立候補者を当選とする。

以上